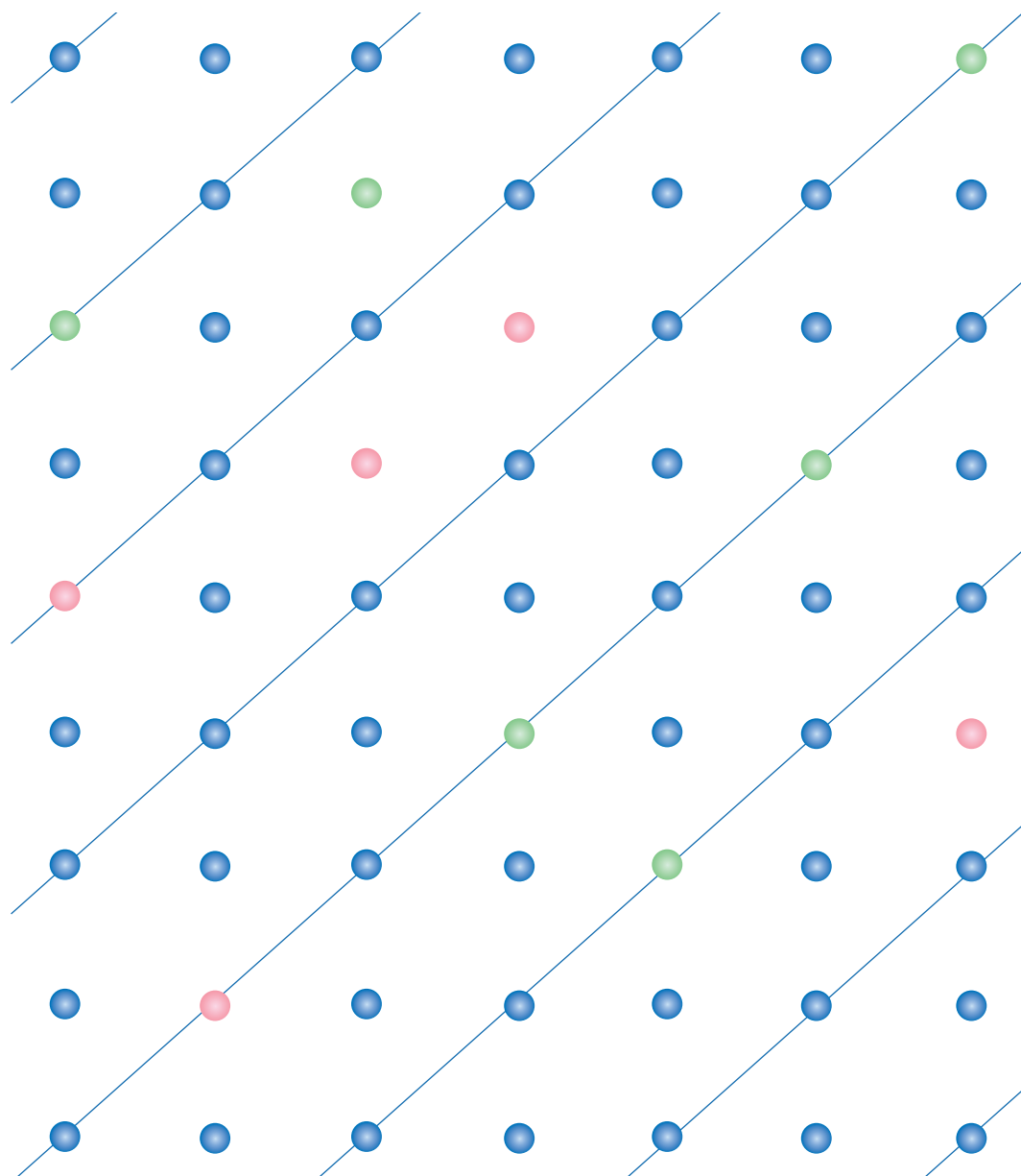


シラバス

2021年度

リハビリテーション学科

理学療法専攻



平成医療短期大学

Heisei College of Health Sciences

建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目的

1 全学の目的

教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

2 看護学科

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

- ①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
- ③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多種職と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志をもつ看護師

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ理学療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士を養成する。

- ①科学的根拠に裏づけされた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士
- ②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士

学習成果

1 全学

教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得

2 看護学科

- (1) 看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得
- (2) 看護の専門基礎知識の修得
- (3) 看護の専門知識・技術の修得
- (4) 看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得
- (3) 視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得
- (4) 視機能療法学の各分野における発展的な知識と技術、実践力の修得
- (5) チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得
- (6) 視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 全学方針

科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
- (2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。

2 看護学科

看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
- (2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。
- (3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。
- (4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。

- (4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。
- (4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 全学方針

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

2 看護学科

- (1) 豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。
- (3) 看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。
- (4) 看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために理学療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。

- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す理学療法専門知識と技術を身につけるため、理学療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力を身につけるため、理学療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上でひとが営んでいる作業活動を用いて疾病や障害を予防すること、そして疾病に伴う障害から生じる日常生活動作ならびに社会適応能力の回復・改善を促すための科学的根拠に基づいた作業療法の知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 視機能療法学の基盤である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。
- (3) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。
- (4) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。
- (5) 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨床実習を配置する。
- (6) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。

履 修 要 領

リハビリテーション学科

理学療法専攻

履修要領

1. 教育課程の編成の基本的方針

本学は、知識、技能両面において教養ある医療技術者を育成すると共に、多様化する社会に順応できるよう、人間、社会、文化、語学といった観点における学問を学び、また、医療に携わるものとして不可欠なコミュニケーション能力や、社会人としての基盤構築のための科目を編成しています。

さらに、各専門分野の科目についても学術的に編成した上で細分化し、それぞれが体系的な学問として学ぶことができる配置となっています。

これにより、一人の社会人として、そして医療に携わるものとしての資質と技術を磨き、専門性に富んだ医療に適応できる医療技術者の育成を目指しています。

本学の教育課程は「総合教育科目」と「専門教育科目」に大別し、「総合教育科目」は「教養教育科目」と「基礎教育科目」に、「専門教育科目」は「専門基礎科目」「専門科目」「統合科目」に区分して、科目群による教育が有機的かつ系統的に行われるように配慮されています。

2. 「総合教育科目」の考え方

「総合教育科目」は、大半の科目について両学科学生が合同で受講できるよう科目立てして、配慮しています。職種は違うが同じ医療人との観点から捉えた場合、両職種に共通した知識として蓄えたい分野があることから、それらに関する科目を配置しています。

まず「教養教育科目」には、現代社会を取り巻く様々な要素について考察する力を養うために、また看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士として、保健、医療、福祉の分野で貢献するための基礎となる科目を配置しています。医療技術者として活躍するためには、社会の多様な事象や考え方に対して理解を深め、受け止めつつ自らの考えを確立し、なおかつ相手の立場に立って考えることが出来る感性と、洞察力が求められます。よってこれらに関する科目を配置し、人間を科学と社会に関連付けながら学べるように編成しています。

次に、「基礎教育科目」には、「専門教育科目」を学び、理解を深めるための基盤となる社会の仕組みを理解することや、読み書き、思考力の形成、コミュニケーション能力の育成に主眼を置いた科目群を配置しています。

3. 「専門教育科目」の考え方

「専門教育科目」は、両学科がそれぞれ独自性をもった科目群で構成しています。

リハビリテーション学科の各専攻に配置した「専門基礎科目」には、理学療法士、作業療法士、視能訓練士としての基礎的知識を得る上で、必要不可欠である基礎医学に関する科目群を配置しています。

「専門科目」には、医療技術に精通した理学療法士、作業療法士、視能訓練士を育成するために必要である科目群を系統立てて配置しています。これらを学ぶ中で、教育目標としている施設や地域を問わず医療技術者としての高いコミュニケーション能力と倫理的判断力、豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成するために、教員との関わりが多く持てる演習を多く取り入れています。

本学の教育課程及び授業科目は、次表のとおりです。

＜リハビリテーション学科 理学療法専攻＞ 2019年度以前入学生

区 分			授 業 科 目	単位数		卒業要件	
				必修	選択		
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2	
			物理学		2		
			化学		2		
			情報科学		2		
			人間工学		2		
			環境と人間		2		
		人間と社会	社会学		2		
			人間関係論		2		
			ボランティア論		2		
			哲学		2		
			教育学		2		
			心理学		2		
	基礎教育科目	コミュニケーション	生命倫理学	2		2	
			基礎演習	1			
			文章表現法	1		3	
		外国語	コミュニケーション学	1			
			英語Ⅰ(教養英語)	1		1	
			英語Ⅱ(日常英会話)		1		
英語Ⅲ(専門英語)			1				
ドイツ語			1	1			
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造	中国語		1		
			解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)	1			
			解剖学Ⅱ(内臓系)	1			
			解剖学Ⅲ(神経系)	1			
			解剖学演習(体表解剖・上肢)	1			
			解剖学演習(体表解剖・下肢)	1			
		人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	1			
			生理学Ⅱ(植物的機能)	1			
			生理学演習	1			
			運動学総論	1			
			臨床運動学	1			
			運動学演習	1			
		心身の発達	人間発達学	1		1	
		疾病の成り立ち	病理学概論	2			
			内科学	1			
			整形外科	1			
			神経内科学	1			
			精神医学	2			
			小児科学	2			
		障害の成り立ち	リハビリテーション医学	2		2	
			老年医学		1		
		保健・医療・福祉の連携	スポーツ医学		1	1	
			保健医療論	1			
			社会福祉学	1			
			医療安全管理論	1			
			基礎理学療法学	理学療法総論	1		
				理学療法演習	1		
				運動療法総論	1		
				理学療法基礎用語	1		
				理学療法研究方法論	1		
				理学療法特論Ⅰ	1		
				理学療法特論Ⅱ	1		
	卒業研究				2		
	クリニカルリーズニング			2			
	理学療法評価学	運動器系検査法		1			
		神経系検査法		1			
		動作・画像解析学		1			
		理学療法評価学演習	2				
		理学療法治療学	高齢者機能障害学	2			
			脳・神経機能障害学Ⅰ(総論)	1			
	脳・神経機能障害学Ⅱ(各論)		1				
	骨・関節機能障害学(上肢)		1				
	骨・関節機能障害学(下肢・体幹)		1				
	内部機能障害学(循環器系)		1				
	内部機能障害学(代謝・呼吸器系)		1				
	発達機能障害学		1				
	物理学療法(温熱療法)		1				
	物理学療法(電気・牽引・水治療法)		1				
	義肢装具学		2				
	日常生活活動学		2				
	理学療法総合セミナーⅠ		1				
	理学療法総合セミナーⅡ		1				
	脳・神経系理学療法治療技術		1				
	骨・関節系理学療法治療技術		1				
	内部系理学療法治療技術		1				
	地域理学療法学		地域理学療法学	2			
		生活環境論	2				
	臨床実習	臨床実習Ⅰ(基礎)	1				
		評価実習前セミナー	1				
		臨床実習Ⅱ(評価)	3				
		臨床実習Ⅲ(総合前期)	7				
		臨床実習Ⅳ(総合後期)	7				
		合計			99		

＜リハビリテーション学科 理学療法専攻＞ 2020年度以降入学生

区 分			授 業 科 目		単位数		卒業要件
					必修	選択	
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学		2		2
			物理学			2	
			化学			2	
			情報科学			2	
			人間工学			2	
		人間と社会	環境と人間			2	
			社会学			2	
			人間関係論			2	
			ポランディア論			2	
			哲学			2	
	基礎教育科目	コミュニケーション	教育学			2	
			心理学			2	
			生命倫理学		2		2
			基礎演習		1		
			文章表現法		1		
		外国語	コミュニケーション学		1		3
			英語Ⅰ(教養英語)		1		1
			英語Ⅱ(日常英会話)			1	
			英語Ⅲ(専門英語)			1	
			ドイツ語			1	1
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造	中国語			1	
			解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)		1		
			解剖学Ⅱ(内臓系)		1		
			解剖学Ⅲ(神経系)		1		7
			解剖学演習(体表解剖 上肢)		2		
		人体の機能	解剖学演習(体表解剖 下肢)		2		
			生理学Ⅰ(動物的機能)		1		
			生理学Ⅱ(植物的機能)		1		
			生理学演習		1		
			運動学総論		1		6
		心身の発達	臨床運動学		1		
			運動学演習		1		
			人間発達学		1		1
		疾病の成り立ち	病理学概論		2		
			内科学		1		
			整形外科		1		
			神経内科学		1		9
			精神医学		2		
		障害の成り立ち	小児科学		2		
			リハビリテーション医学		2		2
			老年医学			1	
			スポーツ医学			1	1
		回復過程の促進	公衆衛生学		1		
			画像診断学		1		
			リハビリテーション栄養学		1		
			薬理学		1		5
			医療安全管理論		1		
		保健・医療・福祉の連携	保健医療論		1		
			社会福祉学		1		
			多職種連携演習 (IPE)		2		4
	専門教科科目	基礎理学療法学	理学療法総論		1		
			理学療法演習		1		
			運動療法総論		1		6
			理学療法基礎用語		1		
			理学療法研究方法論		1		
		理学療法管理学	理学療法特論		1		
			卒業研究			2	2
			クリニカルリーディング			2	
			理学療法管理学Ⅰ		1		
			理学療法管理学Ⅱ		1		2
		理学療法評価学	運動器系検査法		1		
			神経系検査法		1		
			動作・画像解析学		2		
			理学療法評価学演習		2		6
			理学療法総論		2		
		理学療法治療学	高齢者機能障害学		2		
			脳・神経機能障害学Ⅰ(総論)		1		
			脳・神経機能障害学Ⅱ(各論)		1		
			骨・関節機能障害学(上肢)		1		
			骨・関節機能障害学(下肢・体幹)		1		
			内部機能障害学(循環器系)		1		
			内部機能障害学(代謝・呼吸器系)		1		
			発達機能障害学		1		
			物理療法(温熱療法)		1		
			物理療法(電気・牽引・水治療法)		1		
			義肢装具学		2		
			日常生活活動学		2		
			理学療法総合セミナーⅠ		1		
			理学療法総合セミナーⅡ		1		
			脳・神経系理学療法治療技術		1		
			骨・関節系理学療法治療技術		1		
			内部系理学療法治療技術		1		
		地域理学療法学	地域理学療法学		2		
			生活環境論		2		4
		臨床実習	臨床実習Ⅰ(基礎)		1		
			通所／訪問リハ実習		1		
			評価実習前セミナー		1		
			臨床実習Ⅱ(評価)		4		
			評価実習後セミナー		1		
			臨床実習Ⅲ(総合前期)		7		
			総合前期実習後セミナー		1		
			臨床実習Ⅳ(総合後期)		7		
			総合後期実習後セミナー		1		
			合計				114

4. 履修方法等

1) 学期

学年は、4月1日から3月31日までで、その学年は、次の学期に分かれています。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

2) 授業

① 授業時間割

授業時間割表は、毎月初旬に翌月分を GSuite クラスルームで配信します。

なお、授業時間割表の変更、休講、補講等がある場合は、その都度 GSuite クラスルームで配信しますので始業前等には必ず確認してください。

② 授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

③ 集中授業

集中授業は、原則として夏季休業中及び冬季休業中に行われます。具体的な開講日・時限等は、授業時間割表にて確認してください。

④ 休講

大学又は担当教員のやむを得ない理由により、休講することがあります。休講の場合は、その都度 GSuite クラスルームで連絡します。また、休講の連絡がなく、始業時刻から 15 分を経過しても担当教員が教室に來られない場合は、事務室に連絡し指示を受けてください。

⑤ 補講

休講した授業科目は、補講を行うことがあります。補講は GSuite クラスルームで連絡しますので、履修者は通常の授業と同様に受講してください。

3) 履修方法

学則、教育課程表及び授業時間割表の定めるところに従い、各自が履修計画を検討し計画的に各科目を履修しなければなりません。

<履修上の注意事項>

- ア. 必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。
- イ. 同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。
- ウ. 既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

4) 履修登録

学生は、各年度の各学期に履修する選択科目について、本学の定める期日までに履修登録届を提出し、承認を得なければなりません。必修科目については、自動的に履修登録されますので、履修登録届は不要です。

履修登録がされていないと、授業に出席しても試験の受験資格が得られませんから、十分に注意してください。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、又は届け出た科目の履修を放棄することはできません。

<履修登録の上限単位数 (CAP 制) >

CAP 制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、各学年において履修登録できる単位数の上限を定めた制度です。

本学では、全学科・全専攻において1年間に履修登録できる単位数の上限を 55 単位としています。

5) 授業の出・欠席の取り扱い

- ① 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。
- ② 出欠席の取り扱いは次の各号によりますが、遅刻・早退・欠課・欠席等の該当事項が生じた場合は、本学所定の用紙により、「遅刻・早退・欠課・欠席届及び公認願」を提出しなければなりません。
 - ア. 出席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席した場合をいいます。
 - イ. 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいいます。
 - ウ. 欠課は、本学授業に出席した日のうちで、各授業時間において遅刻並びに早退に該当する範囲を超えた場合をいいます。
 - エ. 遅刻は、授業開始時刻、本学行事の日にあつては定められた登校時刻又は集合時刻の 20 分以内の遅れをいいます。
 - オ. 早退は、授業終了前、本学行事の日にあつては定められた解散時刻前の 20 分以内に退出した場合をいいます。
 - カ. 同一科目において遅刻、早退 2 回をもって 1 時限の欠課となります。
- ③ 公認の取り扱いは、次の各号によりますが、公認願を事務室へ提出し学長が認めた場合に限りま。
 - ア. 授業中の負傷・病気に伴う治療の場合
 - イ. 忌引きによる場合

父母	兄弟姉妹	祖父母	伯叔父母
7 日	5 日	3 日	2 日

ただし、遠隔地に赴く場合は、必要最低限の日数を認めることができる。

- ウ. 伝染病発生並びに罹患による登校停止の場合。
- エ. 本人の責めによらない不可抗力の場合
- ※ 公欠は本学が欠席事由を認めたものではあるが、授業の出席とみなすものではありません。
なお、公欠として認められたものは、授業開講数には含みません。
- ④ 各届・願は、本学所定の用紙により、原則として事前に事務室へ提出し、学長の承認を受けなければなりません。やむを得ない場合には、事後速やかに届け出るものとし、遅くとも 3 日以内（土・日・祝含まず）に事務室へ提出しなければなりません。
なお、②の遅刻・早退届については、当日教員に直接提出してください。

5. 選択科目の履修人数について

選択科目のうち、次に掲げる科目については、授業方法の形態及び教室の座席数の関係上、履修人数の制限を設けます。履修希望者が制限人数を超えた場合は、学内での抽選により履修者を決定します。

その他の選択科目についても教室の座席数等の事情により、人数調整の上履修者を決定します。

科目名	制限の人数
情報科学	40 名
英語Ⅱ（日常英会話）A	40 名
英語Ⅱ（日常英会話）B	60 名
英語Ⅱ（日常英会話）C	40 名

6. 臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、次表のとおり履修前提条件を満たしている必要があります。

履修前提条件を満たしていない人は、履修できませんので注意してください。

<リハビリテーション学科理学療法専攻実習科目の履修前提条件>

2019年度以前入学生

実習科目名	年次	履修条件科目(単位修得済み科目)
臨床実習Ⅱ(評価)	2	1年次、2年次必修科目すべて、かつ選択科目を含めて72単位以上
臨床実習Ⅲ(総合前期)	3	臨床実習Ⅱ(評価)
臨床実習Ⅳ(総合後期)	3	臨床実習Ⅲ(総合前期)

2020年度以降入学生

実習科目名	年次	履修条件科目(単位修得済み科目)
臨床実習Ⅱ(評価)	2	1年次、2年次必修科目すべて、かつ選択科目を含めて85単位以上
臨床実習Ⅲ(総合前期)	3	臨床実習Ⅱ(評価)、評価実習後セミナー
臨床実習Ⅳ(総合後期)	3	臨床実習Ⅲ(総合前期)、総合前期実習後セミナー

7. 試験、成績評価及び単位の授与

1) 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時期間外試験を行うことがあります。

試験は各授業科目の担当教員が行い、試験を受けることができる者は、当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席した者とします。

① 定期試験

前学期、後学期授業終了後に行います。

② 期間外試験

前学期試験、後学期試験の期間以外に行うことがあります。

③ レポート試験

上記の試験に代わり、レポート提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

④ 追試験

病気、その他正当な理由により試験を受けられなかった場合、願い出が認められた者に対し追試験を実施します。

⑤ 再試験

試験及び追試験に不合格となった者について、授業担当教員は1回に限り再試験を行うことができます。

2) 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から1週間以内に追試験願を事務室に提出しなければなりません。

なお、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引きや事故等による場合は証明できる書類等）の添付が必要です。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することとなります。

なお、追試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の追試験は行いません。

3) 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（1科目につき3,000円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

なお、再試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の再試験は行いません。

4) 受験上の注意

ア. 座席は、別途指定された席についてください。

イ. 学生証は、写真の面を上にして通路側の机の上に置いてください。なお、学生証を携帯していない者、有効期限の切れた学生証持参の者は受験できません。ただし、当日事務室にて当日のみ有効の受験特別許可証を発行します。手数料は1,000円です。

ウ. 試験に必要な筆記用具、消しゴム等以外のものを机の上に置かないでください。

エ. 監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退場を命じ、その試験は無効とします。

オ. 遅刻は、試験開始後30分までを認め、それ以後の入室は認めません。

カ. 退室は、試験開始後30分経過するまでは認めません。

キ. 試験実施中は、スマホ・携帯電話及び腕時計のアラーム等の電源を切ってください。

ク. 不正行為を行った者には退室を命じ、当該科目または以後の全科目の受験を認めません。また、当該学期の履修科目の一部または全部の単位を認定しません。詳細は学生便覧の「平成医療短期大学試験等における不正行為に対する取扱基準」でご確認ください。

また、不正行為と見なされてしまう可能性のある行為（例：筆記用具や消しゴムの貸し借り等）は、決して行わないでください。

5) 成績評価

成績の評価は次のとおりです。(学則第26条第2項)

(平成28年度以降入学者)

成績は、本人に秀、優、良、可、不可の評価をもって通知します。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

評価	前学期、後学期、期間外、 及びレポート試験等	追試験	再試験
秀	100点～90点	100点～90点	なし
優	89点～80点	89点～80点	なし
良	79点～70点	79点～70点	なし
可	69点～60点	69点～60点	100点～60点
不可	60点未満	60点未満	60点未満

<実習科目>

出席が当該実習科目の授業時間数の5/6以上を対象とし、成績評価は、秀(平成28年度入学者から適用)、優、良、可、不可とします。出席が当該実習科目の授業時間数の5/6に満たない場合は、補習実習を認める場合があります。

この場合は本学所定の申請用紙により、補習実習願を事務室に提出し、実習担当教員と学長の承認を得なければなりません。

<GPA> *グレード・ポイント・アベレージ

GPAとは、「秀」を4、「優」を3、「良」を2、「可」を1、「不可・失格」を0として各科目の成績を一定の基準で換算して、全体成績を数値で表記したものです。

[GPA算出方法] *小数第三位四捨五入

(平成28年度以降入学者)

$$\frac{([\text{秀}] \text{ 修得単位数} \times 4) + ([\text{優}] \text{ 修得単位数} \times 3) + ([\text{良}] \text{ 修得単位数} \times 2) + ([\text{可}] \text{ 修得単位数} \times 1) + ([\text{不可}] \text{ 修得単位数} \times 0)}{\text{総修得単位数} + (\text{不可} \cdot \text{失格}) \text{ 単位数}}$$

*GPAには、各期のGPAと入学からその時点までの通算GPAがあり、各期の成績表には両方のGPAが掲載されます。

*不可・失格について再履修で単位修得した場合は、過去の不可・失格の評価は通算GPAには算入されません。

*GPAは履修登録されたすべての科目が対象になります。よって、選択科目を必要単位数以上に履修申請した場合も、すべて対象になります。

*入学前既修得単位(単位認定科目)はGPA対象外です。

<GPAに基づく個別指導、退学勧告> (平成28年度入学者から適用)

成績不振の基準を、学期GPA1.5未満とし、該当する学生には次の各号により個別面談・指導等を行います。

- ① 学期GPAが1.5未満の場合は、指導教員による個別面談・指導を行います。
- ② 2期連続GPAが1.5未満の場合は、保護者同席のうえ指導教員による個別面談・指導を行います。
- ③ 3期連続または通算4学期のGPAが1.5未満の場合は、学長が退学勧告できます。

6) 成績発表

原則成績表を手渡しすることで発表とします。その際は必ず学生証を持参してください。

発表日時、場所等は時間割表に記載の上 GSuite クラスルームにてお知らせします。

なお、再試験の申し込みは成績発表の当日以降に行います。時間、場所等は GSuite クラスルームにてお知らせします。

【理学療法専攻及び作業療法専攻に適用】

平成30年度以前の入学者に限る

1) 再試験の条件

- ・専門教育科目(専門基礎科目・専門科目)(※対象外科目を除く)については、原則として、試験及び追試験に各期3科目まで不合格者となった者に限り1回のみ再試験を行うことができます。4科目以上不合格(追試験を含む)となった者には再試験を行うことはできず、下記2)により、次年次科目の履修は不可(以下「留年」という。)となります。

※<対象外科目>

次の科目は再試験受験制限となる3科目の対象外とします。

理学療法専攻…運動学演習、生理学演習、評価実習前セミナー、臨床実習科目

作業療法専攻…運動学演習、生理学演習、評価実習前セミナー、作業療法総合セミナーⅠ、臨床実習科目

- ・専門教育科目(専門基礎科目・専門科目)以外の科目の試験及び追試験に不合格となった者については、科目数にかかわらず、原則として1回に限り再試験を行うことができます。

2) 進級・仮進級

- ・原則として、当該学年に配当されている科目の単位を全て修得した場合に進級できます。

ただし、次の条件のもとで仮進級が認められ、次年次科目を履修できます。

<仮進級の条件等>

- ・試験の結果、成績保留となった科目が年次で3科目以下であること。
ただし、失格科目がある場合、臨床実習科目が不合格の場合は適用外とする。
- ・仮進級した場合は、成績保留科目における仮進級者試験によって成績判定します。
※仮進級者試験を受ける年次の授業の出席時間数は受験資格としません。
※仮進級者試験の成績評価は、再試験に準じて行います。
※仮進級試験は1科目につき3,000円の試験料が必要となります。
- ・進級または仮進級の条件を満たさない場合は留年となり、次年次科目の履修はできず、当該学年の単位未修得科目を再履修することとなります。

<臨床実習Ⅱ(評価)の履修前提条件>

- ・P11 に記した臨床実習Ⅱ(評価)の履修条件科目(単位修得済み科目)には仮進級科目も含まれます。よって、2年後期試験後に成績保留が3科目までの人は、後期の臨床実習Ⅱを履修できます。

※なお、次の科目は上記成績保留3科目の対象外とします。

理学療法専攻…評価実習前セミナー

作業療法専攻…評価実習前セミナー、作業療法総合セミナーⅠ

8. 単位について

1) 単位の計算方法

学則第24条により、次のように定めています。

第24条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
- 四 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組み合わせに応じ、次の表の換算時間により計算した総時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。

授業の種類	授業1時間当たりの換算時間
講義	3時間
演習	1.5時間
実習・実験・実技	1時間

2) 単位の考え方

1) に記載されているように、1単位の学修時間を45時間としながら、実際の講義については15時間(30時間)で1単位としています。これは、45時間の中に講義以外の事前・事後学習の時間が含まれるとする考え方によるものです。

9. 卒業要件、学位の授与及び国家試験

1) 卒業要件

本学を卒業するためには、本学に3年以上在学し、本学学則の別表1に定める授業科目の次の表に示す単位を修得しなければなりません。

2) 学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、リハビリテーション学科各専攻は「短期大学士(理学療法学)」(英訳名: Associate of Science in Physical Therapy)、「短期大学士(作業療法学)」(英訳名: Associate of Science in Occupational Therapy)、「短期大学士(視機能療法学)」(英訳名: Associate of Science in Orthoptics)の各学位が授与され、理学療法士、作業療法士、視能療法士の各国家試験の受験資格が得られます。

これらの国家試験は、厚生労働省により年1回実施されます。

<リハビリテーション学科 理学療法専攻の卒業要件単位数>

2019年度以前入学生

区 分			必 修	選 択	合 計
総 合 教 育 科 目	教養教育科目	人間と科学	2単位	2単位以上	4単位以上
		人間と社会	2単位	4単位以上	6単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	3単位	—	3単位
		外国語	1単位	1単位以上	2単位以上
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	人体の構造	5単位	—	5単位
		人体の機能	6単位	—	6単位
		心身の発達	1単位	—	1単位
		疾病の成り立ち	9単位	—	9単位
		障害の成り立ち	2単位	1単位以上	3単位以上
		保健・医療・福祉の連携	3単位	—	3単位
	専門科目	基礎理学療法学	7単位	2単位以上	9単位以上
		理学療法評価学	5単位	—	5単位
		理学療法治療学	20単位	—	20単位
		地域理学療法学	4単位	—	4単位
		臨床実習	19単位	—	19単位
合 計			89単位	10単位以上	99単位以上

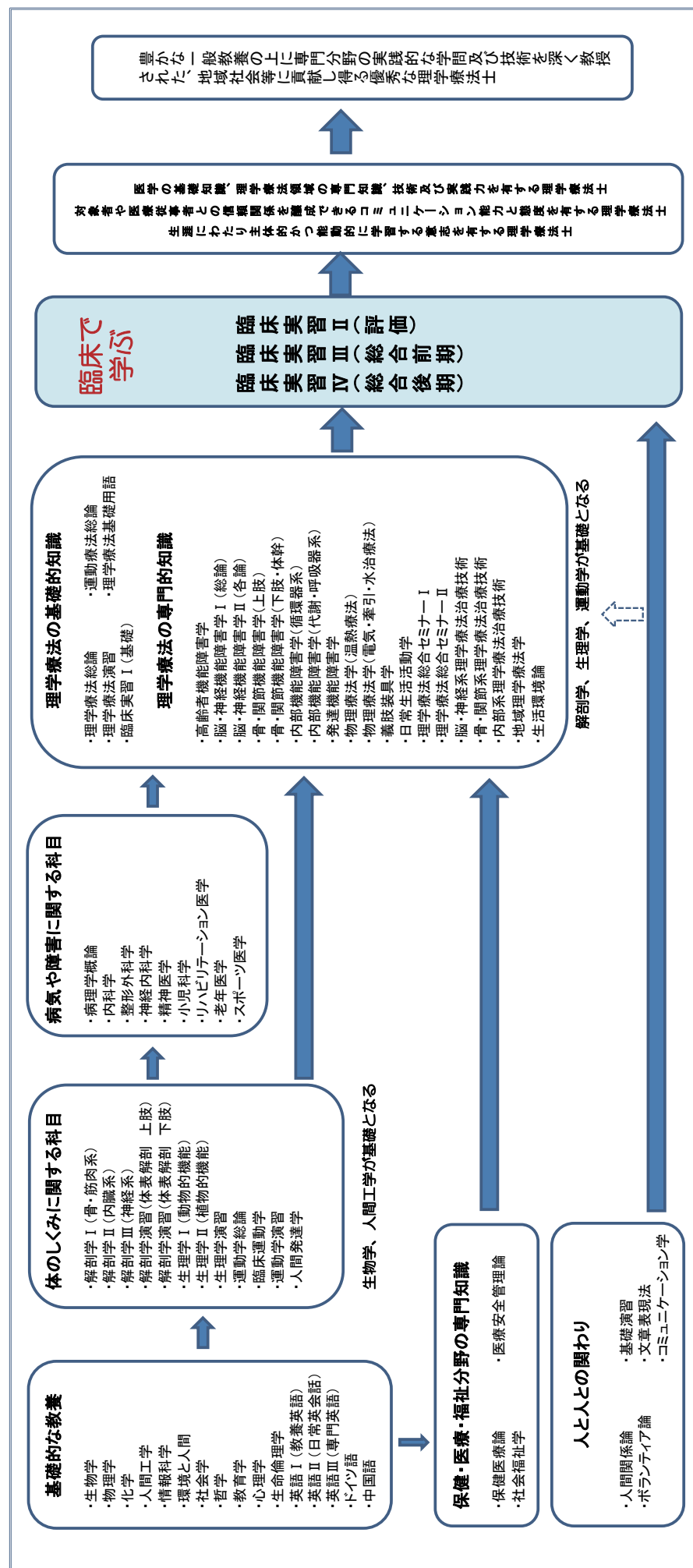
2020年度以降入学生

区 分			必 修	選 択	合 計
総 合 教 育 科 目	教養教育科目	人間と科学	2単位	2単位以上	4単位以上
		人間と社会	2単位	4単位以上	6単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	3単位	—	3単位
		外国語	1単位	1単位以上	2単位以上
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	人体の構造	7単位	—	7単位
		人体の機能	6単位	—	6単位
		心身の発達	1単位	—	1単位
		疾病の成り立ち	9単位	—	9単位
		障害の成り立ち	2単位	1単位以上	3単位以上
		回復過程の促進	5単位	—	5単位
		保健・医療・福祉の連携	4単位	—	4単位
	専門科目	基礎理学療法学	6単位	2単位以上	8単位以上
		理学療法管理学	2単位	—	2単位
		理学療法評価学	6単位	—	6単位
		理学療法治療学	20単位	—	20単位
		地域理学療法学	4単位	—	4単位
		臨床実習	24単位	—	24単位
合 計			104単位	10単位以上	114単位以上

科目関連図

各科目がどのようにに関連しているかを理解して学習をすすめる。

＜リハビリテーション学科理学療法専攻＞ 2019年度以前入学生



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜リハビリテーション学科理学療法専攻＞ 2019年度以前入学生

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖 上肢) 解剖学演習(体表解剖 下肢) 生理学Ⅰ(動物的機能) 生理学Ⅱ(植物的機能) 生理学演習 運動学総論 臨床運動学 運動学演習 人間発達学 病理学概論 内科学 整形外科学 神経内科学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 老年医学 スポーツ医学 保健医療論 社会福祉学 医療安全管理論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	理学療法総論 理学療法演習 運動療法総論 理学療法基礎用語 理学療法研究方法論 理学療法学特論Ⅰ 理学療法学特論Ⅱ 卒業研究 クリニカルリーズニング 運動器系検査法 神経系検査法 動作・画像解析学 理学療法評価学演習 高齢者機能障害学 脳・神経機能障害学Ⅰ(総論) 脳・神経機能障害学Ⅱ(各論) 骨・関節機能障害学(上肢) 骨・関節機能障害学(下肢・体幹) 内部機能障害学(循環器系) 内部機能障害学(代謝・呼吸器系) 発達機能障害学 物理療法学(温熱療法) 物理療法学(電気・牽引・水治療法) 義肢装具学 日常生活活動学 理学療法総合セミナーⅠ 理学療法総合セミナーⅡ 脳・神経系理学療法治療技術 骨・関節系理学療法治療技術 内部系理学療法治療技術 地域理学療法学 生活環境論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の習得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	臨床実習Ⅰ(基礎) 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

カリキュラムマップ＜リハビリテーション学科理学療法専攻＞ 2020年度以降入学生

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。



学の精神に基づく 全学…教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

教育目的

①①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士

- ①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士



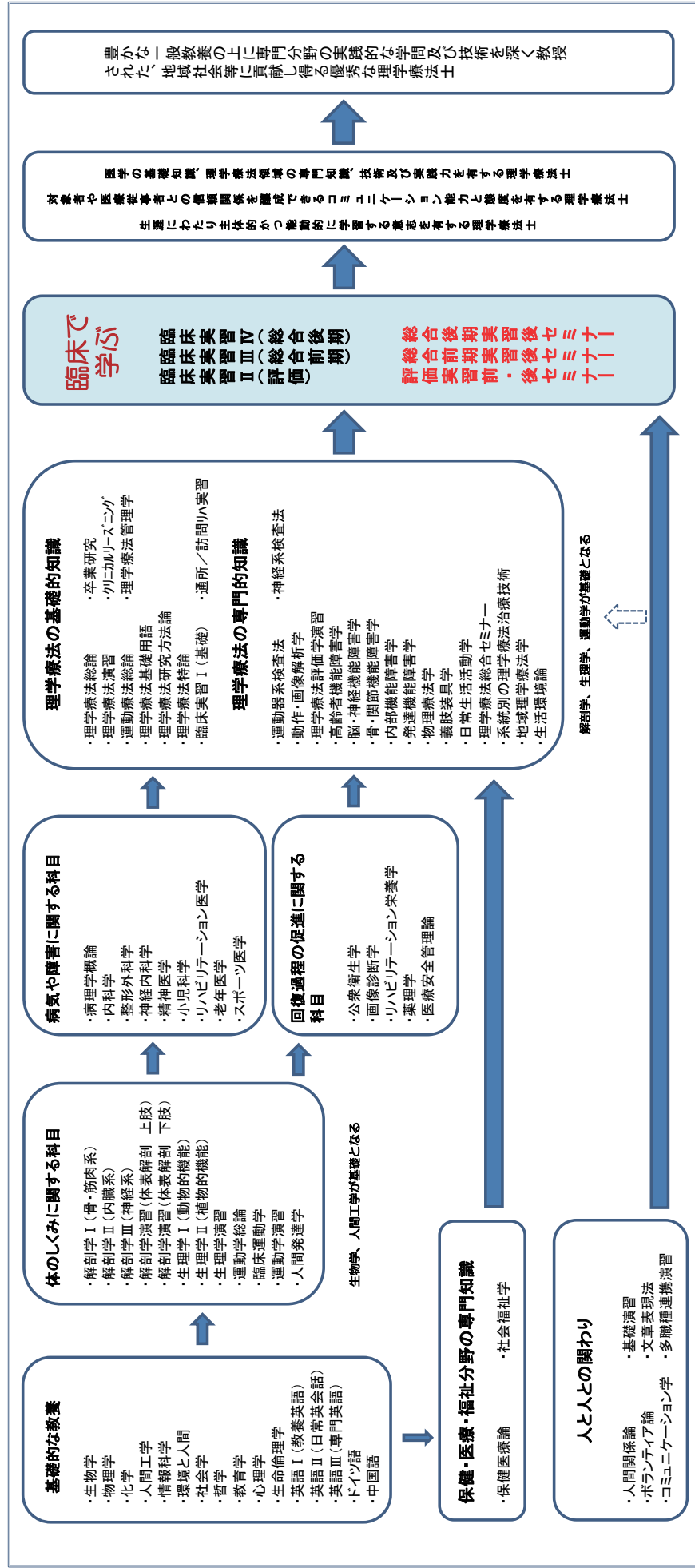
※ディプロマ・ポリシーの番号は、P3の該当番号

カリキュラム・ポリシー		教育目的に基づく		項目		1年次		2年次		3年次		学習成果		ディプロマ・ポリシー	
全学方針	学域方針	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	全学方針	学域方針	ディプロマ・ポリシー	理理学専攻専攻
社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身に付け、全学にわたっての総合教育科目を配置する。	地域社会に貢献するために、理理学専攻士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観を身に付け、社会の発展に貢献する。また、コミュニケーション能力を身に付けるため、人間とコミュニケーションを身に付ける。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	生物学 化学 人間工学 社会学 人間関係論 コミュニケーション能力 英語Ⅰ(教養英語)	情報科学 環境と人間 哲学 教育心理学 英語Ⅱ(日常英語) 英語Ⅲ(専門英語) 中国語	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会の発展に貢献する。また、コミュニケーション能力を身に付ける。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会の発展に貢献する。また、コミュニケーション能力を身に付ける。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	理理学専攻専攻	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会の発展に貢献する。また、コミュニケーション能力を身に付ける。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。
理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	(2) 理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	(2) 理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	理理学専攻専攻	(2) 理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。
理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	(3) 理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	(3) 理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。	理理学専攻専攻	(3) 理理学専攻士としての専門基礎知識と専門技術を身に付け、社会の発展に貢献する。また、理理学専攻士としての総合教育科目を配置する。

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

＜リハビリテーション学科理学療法専攻＞ 2020年度以降入学生



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜リハビリテーション学科理学療法専攻＞ 2020年度以降入学生

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖 上肢) 解剖学演習(体表解剖 下肢) 生理学Ⅰ(動物の機能) 生理学Ⅱ(植物の機能) 生理学演習 運動学総論 臨床運動学 運動学演習 人間発達学 病理学概論 内科学 整形外科学 神経内科学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 老年医学 スポーツ医学 公衆衛生学 画像診断学 リハビリテーション栄養学 薬理学 医療安全管理論 保健医療論 社会福祉学 多職種連携演習(IPE)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の習得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	理学療法総論 理学療法演習 運動療法総論 理学療法基礎用語 理学療法研究方法論 理学療法学特論 卒業研究 クリニカルリーズニング 理学療法管理学Ⅰ 理学療法管理学Ⅱ 運動器系検査法 神経系検査法 動作・画像解析学 理学療法評価学演習 高齢者機能障害学 脳・神経機能障害学Ⅰ(総論) 脳・神経機能障害学Ⅱ(各論) 骨・関節機能障害学(上肢) 骨・関節機能障害学(下肢・体幹) 内部機能障害学(循環器系) 内部機能障害学(代謝・呼吸器系) 発達機能障害学 物理療法学(温熱療法) 物理療法学(電気・牽引・水治療法) 義肢装具学 日常生活活動学 理学療法総合セミナーⅠ 理学療法総合セミナーⅡ 脳・神経系理学療法治療技術 骨・関節系理学療法治療技術 内部系理学療法治療技術 地域理学療法学 生活環境論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	臨床実習Ⅰ(基礎) 通所／訪問リハ実習 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価) 評価実習後セミナー 臨床実習Ⅲ(総合前期) 総合前期実習後セミナー 臨床実習Ⅳ(総合後期) 総合後期実習後セミナー	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

シラバス

リハビリテーション学科

理学療法専攻

◎ リハビリテーション学科 理学療法専攻

◆ 総合教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
教養教育科目	人間と科学	生物学	1年次前学期	江村正一	29
		物理学	1年次前学期	中村 琢	31
		化学	1年次前学期	武藤吉徳	33
		情報科学	1年次後学期	福岡大輔	35
		人間工学	1年次前学期	山田宏尚	37
		環境と人間	1年次後学期	大藪千穂	39
	人間と社会	社会学	1年次前学期	伊原亮司	41
		人間関係論	1年次前学期	神戸博一	43
		ボランティア論	1年次前学期	益川優子	45
		哲学	1年次後学期	竹内章郎	47
		教育学	1年次後学期	益川優子	49
		心理学	1年次後学期	大井修三	51
		生命倫理学	3年次前学期	谷口泰弘	53
基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習	1年次前学期	辻 圭一、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努	55
		文章表現法	1年次前学期	弓削 繁	57
		コミュニケーション学	1年次後学期	近藤ひろえ	59
	外国語	英語Ⅰ(教養英語)	1年次前学期	ジャマリ・マルジャン	61
		英語Ⅱ(日常英会話)A	1年次後学期	ジャマリ・マルジャン	63
		英語Ⅱ(日常英会話)B	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	65
		英語Ⅲ(専門英語)	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	67
		ドイツ語	1年次後学期	安藤彰浩	69
		中国語	1年次後学期	橋本永貢子	71

◎ リハビリテーション学科 理学療法専攻

◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門基礎科目	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)	1年次前学期	千田隆夫	73
		解剖学Ⅱ(内臓系)	1年次前学期	江村正一	75
		解剖学Ⅲ(神経系)	1年次後学期	堀 信宏、近藤直実、河村章史、大場かおり、藤橋雄一郎	77
		解剖学演習(体表解剖 上肢)	1年次前学期	田島嘉人、亀山咲子	79
		解剖学演習(体表解剖 下肢)	1年次後学期	田島嘉人、亀山咲子	82
	人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	1年次前学期	川島 卓	85
		生理学Ⅱ(植物的機能)	1年次後学期	川島 卓	87
		生理学演習	1年次後学期	河合克尚、藤橋雄一郎、植木 努	89
		運動学総論	1年次前学期	堀 信宏	91
		臨床運動学	1年次後学期	曾田直樹	93
		運動学演習	2年次前学期	曾田直樹、大場かおり、田島嘉人、石田裕保	95
	心身の発達	人間発達学	1年次前学期	大森正英	97
	疾病の成り立ち	病理学概論	1年次後学期	武内康雄、山本容正	99
		内科学	2年次前学期	近藤直実、平野智久、山本眞由美、高田信幸、坂 義人、古田弥生	101
		整形外科	2年次前学期	西本 裕	103
		神経内科学	2年次前学期	木村暁夫、下畑享良、林 祐一、吉倉延亮、伏屋公晴、矢口智規	105
		精神医学	2年次前学期	宮地幸雄	107
		小児科学	2年次前学期	近藤直実、近藤富雄、堀田 亮	109
	障害の成り立ち	リハビリテーション医学	1年次後学期	西本 裕	111
		老年医学	1年次後学期	武内康雄	113
		スポーツ医学	1年次後学期	松岡敏男	115
	回復過程の促進	公衆衛生学 ※2	1年次後学期	大森正英	117
		画像診断学 ※2	3年次後学期	辻圭一、河合克尚、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎	119
		リハビリテーション栄養学 ※2	1年次前学期	久保和弘	121
		薬理学 ※2	2年次前学期	大津航	123
		医療安全管理論	1年次後学期	眞田正世	125
	保健・医療・福祉の連携	保健医療論	1年次前学期	松岡敏男	127
		社会福祉学	1年次後学期	竹内章郎	129
		多職種連携演習(IPE) ※2	2年次後学期	田島嘉人、亀山咲子 他	131

※1:2019年度以前入学生

※2:2020年度以降入学生

◎ リハビリテーション学科 理学療法専攻
◆ 専門教育科目 ◆

科目区分	科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門科目	基礎理学療法学	理学療法総論	1年次前学期 長谷部武久	133
		理学療法演習	1年次前学期 植木 努、石田裕保、藤橋雄一郎、辻 圭一	135
		運動療法総論	1年次後学期 長谷部武久、河合克尚、亀山咲子	137
		理学療法基礎用語	1年次前学期 藤橋雄一郎	139
		理学療法研究方法論	2年次前学期 長谷部武久	141
		理学療法学特論Ⅰ ※1	3年次前学期 河合克尚、辻 圭一、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎	143
		理学療法学特論Ⅱ ※1	3年次後学期 河合克尚、辻 圭一、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎	145
		理学療法特論 ※2	3年次後学期 河合克尚、辻 圭一、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎	147
		卒業研究	3年次前学期 曾田直樹、大場かおり、田島嘉人	149
		クリニカルリーズニング	3年次前学期 堀 信宏、曾田直樹、亀山咲子	151
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ ※2	2年次後学期 岸本泰樹	153
		理学療法管理学Ⅱ ※2	3年次前学期 岸本泰樹	155
	理学療法評価学	運動器系検査法	2年次前学期 曾田直樹、辻 圭一、藤橋雄一郎、植木 努	157
		神経系検査法	2年次前学期 河合克尚、辻 圭一、石田裕保、亀山咲子	159
		動作・画像解析学	2年次前学期 堀 信宏、石田裕保	161
		理学療法評価学演習	2年次後学期 河合克尚、大場かおり、曾田直樹、田島嘉人、藤橋雄一郎、植木 努、辻 圭一、石田裕保、亀山咲子	163
	理学療法治療学	高齢者機能障害学	2年次前学期 堀 信宏	166
		脳・神経機能障害学Ⅰ（総論）	2年次前学期 堀 信宏、大場かおり	168
		脳・神経機能障害学Ⅱ（各論）	2年次後学期 堀 信宏、大場かおり	170
		骨・関節機能障害学（上肢）	2年次後学期 田島嘉人	172
		骨・関節機能障害学（下肢・体幹）	2年次前学期 曾田直樹	174
		内部機能障害学（循環器系）	2年次前学期 長谷部武久、河合克尚	176
		内部機能障害学（代謝・呼吸器系）	2年次後学期 河合克尚、亀山咲子	178
		発達機能障害学	2年次後学期 松田充弘	180
		物理療法学（温熱療法）	2年次前学期 大場かおり	182
		物理療法学（電気・牽引・水治療法）	2年次後学期 辻 圭一	184
		義肢装具学	2年次後学期 石田裕保、篠田信之	186
		日常生活活動学	2年次前学期 石田裕保、大場かおり、亀山咲子	188
		理学療法総合セミナーⅠ	2年次前学期 石田裕保、長谷部武久、辻 圭一、藤橋雄一郎、植木 努	190
		理学療法総合セミナーⅡ	2年次後学期 石田裕保、長谷部武久、辻 圭一、藤橋雄一郎、植木 努	192
		脳・神経系理学療法治療技術	3年次前学期 堀 信宏、藤橋雄一郎	194
		骨・関節系理学療法治療技術	3年次前学期 曾田直樹、田島嘉人	196
		内部系理学療法治療技術	3年次前学期 河合克尚	198
	地域理学療法学	地域理学療法学	2年次後学期 堀 信宏	200
		生活環境論	1年次後学期 植木 努	202
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（基礎）	1年次後学期 長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	204
		通所／訪問リハ実習 ※2	2年次前学期 長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	206
		評価実習前セミナー	2年次後学期 曾田直樹、河合克尚、大場かおり、田島嘉人、石田裕保、辻 圭一、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	208
		臨床実習Ⅱ（評価）	2年次後学期 長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	210
		評価実習後セミナー ※2	2年次後学期 長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	212
		臨床実習Ⅲ（総合前期）	3年次前学期 長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	214
		総合前期実習後セミナー ※2	3年次前学期 長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	216
		臨床実習Ⅳ（総合後期）	3年次後学期 長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	218
		総合後期実習後セミナー ※2	3年次後学期 長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子	220

※1:2019年度以前入学生 ※2:2020年度以降入学生

リハビリテーション学科 理学療法専攻

教養教育科目
基礎教育科目

授業科目名		担当教員				
生物学		江村 正一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
すべての生物の基本構造である「細胞」についての理解をもとに、遺伝、発生、生命の進化と多様性などについて学び「生命」とは何かを考える。生物学で得た知識と理解が、将来、医療に携わるために修めなければならない、他の多くの科目の基礎となる。特に解剖学と生理学の学習にとって直接関係のある事象が多く出て来ますので、その部分については特に理解を深めてください。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 細胞・組織・器官について説明できる。 ② 遺伝・発生について説明できる。 ③ 進化・多様性について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	細胞とその構造について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
2	細胞膜の構造と機能について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
3	細胞の増殖について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
4	遺伝情報とその伝達について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
5	ヒトの遺伝と先天性異常について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
6	生殖について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
7	発生について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
8	呼吸系・消化系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
9	循環系・免疫系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	神経系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
11	内分泌系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
12	生命の進化と多様性について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
13	ヒトの起源と進化について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
14	生物と環境について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
15	人体の仕組みを学ぶことから生命とは何かを理解する	① ② ③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
課題に対するレポート提出（100％）						
使用教科書						
系統看護学講座 生物学 / 高畑ほか.--第10版--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03189-9						
参考図書						
適宜、参考資料を配布する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	課題に対する模範となる記述を掲示するとともに、質問をメールでも受け付ける。 E-mail:s.emura@heisei-iryuu.ac.jp					
備考						

授業科目名		担当教員				
物理学		中村 琢				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 前学期	2単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この授業は物理学の様々な分野について短期間で概括的に学習するものである。特に看護やリハビリテーションなど医療・看護の職に就く際には物理学の知識は必須であり、本授業では現場で働く際に役に立つ物理学の原理、原則についても扱う。後半では放射線についても扱い、実習を含める。授業の形態は一方的な情報伝達でなく、オンライン上でグループワークなど、学習者の主体的な学び（アクティブラーニング）を取り入れる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①物理学の学習内容について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②学習した内容を活用して計算、思考、探究することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物理学の基礎知識 第1回と第2回はパワーポイントで説明します。	①	中村		シラバスと教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)
2	自然界の階層性 第1回と第2回はパワーポイントで説明します。	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)
3	力学の基礎 1 第3回以降は黒板に板書します。	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)
4	力学の基礎 2	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)
5	力学の基礎 3	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)
6	波動 1	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)
7	波動 2	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)
8	光と音の性質	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)
9	電気と磁気	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。 。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	電流と電圧	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
11	原子と原子核	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
12	放射線の性質	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
13	放射線の利用と被ばく	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
14	放射線の測定	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
15	放射線被ばく防護	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
知識・理解・思考・判断・表現・技能、関心・意欲・態度の観点を総合的に判断する。 定期試験（50%）、時間内レポート・課題（30%）、授業参加態度（20%）						
使用教科書						
ここからスタート物理学 / 為近和彦、--裳華房、2018年、9784785322649 必ずしも教科書に沿って扱うわけではありません。学習者の実態に応じ授業中で使い方を説明します。						
参考図書						
自然科学の基礎としての物理学，原康夫，学術図書出版社，2014年，体系看護学 基礎科目 物理学，平田雅子，メヂカルフレンド社，2006年						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	レポートの総評を授業で説明する。レポート課題を出す前に、評価指標について詳しく説明します。					
備考	1. オフィスアワー：講義終了後20分程度。電子メールでの質問に随時対応します。 2. 質問等：講義時間中や授業終了後に受け付けます。Zoomのチャット機能での質問にもできるだけ対応しますが、受講者数が多い場合は電子メールで問い合わせてください。 3. 電子メールアドレス：nakamura@gifu-u.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
化学		武藤 吉徳				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
化学は「物質」を理解することを目的とする。医療技術に関わる多くの装置や薬品、そして人体など全てのものが物質で構成されているので、化学の知識は医療分野の基礎として非常に重要である。この講義では、化学の基礎的な内容を無機化学、有機化学の全般に亘ってなるべくわかり易く解説するよう努める。また、医療に関連する事項をできる限り多く取り上げて、専門科目への橋渡しとなるようにしたい。						
学 修 の 到 達 目 標						
①生体物質や医薬品を構成する元素や化学結合の特徴が理解できる。 ②主要な有機化合物について、その構造や性質を説明できる。 ③医療の場で出会う様々な物質、薬品について科学的特性を把握できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物質の特性	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
2	原子と分子	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
3	化学結合	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
4	物質の三態・溶液とコロイド	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
5	塩化物	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
6	酸・アルカリ	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
7	無機化合物	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
8	放射性元素	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
9	有機化合物概要	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脂肪族炭化水素	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
11	酸素、窒素を含む有機化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
12	カルボン酸、その他	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
13	芳香族化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
14	脂環・複素環化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
15	生体物質	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
評価基準：化学物質に関する知識・理解を重要視する。 定期試験 (100%)						
使用教科書						
系統看護学講座基礎分野「化学」 / 奈良雅之. --第7版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03181-3						
参考図書						
舟橋弥益男・渡辺昭次 著 「炭素化合物の世界」東京教学社						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出されたレポートにコメントをつけて返却する。					
備考	授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。					

授業科目名		担当教員				
情報科学		福岡 大輔				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 後学期	2単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
情報科学において基礎となるデジタル化とネットワークによる情報の蓄積・交換を中心として、情報社会のすがたを描きつつ情報システムやビックデータを活用した業務や生活の変革について検討する。さらに、医療分野をはじめとした情報通信技術や人工知能の活用について調査し、レポートやプレゼンテーションを作成する過程をとおして、問題解決に情報手段を活用するための情報活用能力を身につける。このために、本学が整備しているgoogleのclassroomをはじめとした各種サービスを利用する。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 情報社会の特徴を理解し、将来の社会像や働き方、生活等を具体的に描いて論述できる。 ② 情報手段を効果的に活用して協働学習を行い、課題解決を効果的に推進することができる。 ③ 本学の提供するgoogle classroomをはじめとした各種サービスを活用する基礎技能を習得する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	情報とコンピュータおよび通信ネットワーク， google classroomの利用	① ③			配布資料を読み情報科学への理解を深める(120分)	配布資料を読みまとめる(120分)
2	Society 5.0が描く情報社会の現在と未来を知る	①			Society5.0について事前調査(120分)	Society5.0を説明できるようにまとめる(120分)
3	社会インフラにおけるデータ活用	①			社会インフラと情報技術について事前調査(120分)	社会インフラと情報技術についてまとめる(120分)
4	医療分野における情報化の進展	①			医療現場における情報システムについて事前調査(120分)	医療現場における情報システムについてまとめる(120分)
5	無線通信を活用するこれからの医療	①			医療現場における無線通信技術の活用について事前調査(120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分)
6	情報通信技術を活用したマルチアクセス環境におけるレポート作成(google ドキュメント利用)	② ③			レポートのアウトライン作成(120分)	レポートの修正・加筆(120分)
7	情報通信技術を活用した共同作業によるプレゼンテーション作成(google プレゼンテーション利用)	② ③			プレゼンテーションのアウトライン作成(120分)	プレゼンテーションの修正(120分)
8	情報通信技術を活用したこれからの医療に関する調査報告	①			調査報告の検討(120分)	調査報告の修正(120分)
9	進化する自動車関連技術	①			自動運転技術についての事前調査(120分)	専門用語を説明できるようにまとめる(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	人工知能の進展による社会の変化	①			人工知能の仕組みについて調査(120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分)
11	情報社会への備えに関する現状調査と課題設定	②			調査課題の事前検討(120分)	調査課題の再検討(120分)
12	情報社会への備えに関する調査項目の検討と調査フォームの作成(google Forms利用)	② ③			調査のアウトライン検討(120分)	レポートの修正・加筆(120分)
13	情報社会への備えに関する調査結果の集計とグラフ作成(google スプレッドシート利用)	② ③			調査結果のまとめ方の事前検討(120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分)
14	情報社会への備えに関するプレゼンテーションとハンズオンの作成(google ハングアウト利用)	② ③			プレゼンテーションのアウトライン作成(120分)	プレゼンテーションの修正(120分)
15	情報社会への備えに関する調査研究の報告	①			調査研究報告発表の検討(120分)	調査研究報告の修正(120分)
	レポート試験					
評価基準・評価方法						
① 知識・理解は、授業中の対話状況、質疑応答等での評価と数回的小レポートで評価する。(30%) ② 情報手段の活用及び態度は、classroom利用状況、課題提出、成果物で評価する。(20%) ③ 思考・判断は、授業中の対話、レポートにおける論述における批判的思考に基づく論理展開の深さで評価する。(50%)						
使用教科書						
なし						
参考図書						
情報科学基礎-コンピュータとネットワークの基本, 伊東俊彦, ムイスリ出版, 2015, ISBN978-4-89641-235-2						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	授業では資料配布、課題提出・評価等はGoogle classroomを用いて実施し、教師と学生、学生相互のコミュニケーションに活用する。その内容はclassroom内で公開して共有する。					
備考	授業時間以外にもコミュニケーションのためにclassroomへのアクセスが必要となる。					

授業科目名		担当教員				
人間工学		山田 宏尚				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
人間が普段無意識に行っている身体運動や生命維持活動は、筋肉・骨格・内臓・血管など身体の各部位に働く力やモーメントをはじめとした物理学的メカニズムによって成立している。本講義では、医療行為の具体例に基づいて、身体活動の物理学的なメカニズムを学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 人間の身体活動に関わる物理学の基礎を身につけることができる。 ②物理的根拠に基づく治療行為を実践するための基礎を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
2	重いものを持つにはどうしたらよいか (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
3	重いものを持つにはどうしたらよいか (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
4	看護ボディメカニクスの物理 (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
5	看護ボディメカニクスの物理 (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
6	身近な圧力 (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
7	身近な圧力 (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
8	呼吸器と吸引の物理 (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
9	呼吸器と吸引の物理 (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	点滴静脈内注射の物理（１）	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
11	点滴静脈内注射の物理（２）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
12	循環器の物理（１）	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
13	循環器の物理（２）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
14	感覚器の物理	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
15	体温制御の物理，総復習	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
・評価基準： 知識の修得度と計算能力（目標①）、応用的思考能力（目標②） ・評価方法： 定期試験（70%）、小テスト・宿題・授業態度（30%）で評価する。						
使用教科書						
看護学生のための物理学 / 佐藤和良.--第5版--医学書院，2014年，ISBN978-4-260-02051-0						
参考図書						
適宜紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出された課題について全体の総評コメントを口頭にて公開する					
備考	・毎回の授業で小テストを実施し、随時課題を課す。 ・オフィスアワー： 講義前後の時間に非常勤講師室で待機する。 ・質問： 講義中やオフィスアワーに直接、それ以外にメール（yamada@gifu-u.ac.jp）で随時受け付ける。					

授業科目名		担当教員				
環境と人間		大藪 千穂				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
資源・環境問題を解決し、持続可能な社会を構築することが、21世紀最大の課題である。しかし、そのためのアプローチの方法は、まだ、見出されていない。この講義では、環境問題は人間の問題であるとの観点に立ち、環境と人間の関係を、生活と情報によってむすびつけ、環境問題を根本的にとらえなおし、環境問題の解決法を考え、持続可能な社会を展望する。また、人間の成長・発達や脳疾患のリハビリ等に対して、環境が果たす重要な役割を考察する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①受講者ひとりひとりが、自分で問題解決の手がかりを、考え、見出すことができる。 ②既存の考え方や方法にとらわれることなく、自分自身の考え方をもち、発展させることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	環境問題とは何か？	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
2	環境問題の原点、水俣病の問題を、生産、消費、環境から考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
3	家庭生活から環境問題の本質を探る。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
4	衣生活から環境を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
5	食生活から環境を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
6	簡易生ゴミ分解器を製作し、その活用法を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
7	河川環境と人間の関係を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
8	情報から環境と人間を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
9	人間形成に対する情報と環境の意味を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳障害者の発達、脳疾患のリハビリを、環境と情報の観点から捉えなおす。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
11	環境教育のあり方を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
12	アーミッシュと現代社会を比較する。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
13	近代のライフスタイルを再考する。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
14	生態学の意味を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
15	環境と情報から、持続可能な社会を展望する。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
評価基準は、知識・理解、思考・判断、授業態度の総合であるが、特に、各自のオリジナルな思考を重視する。評価方法は、レポート（50%）、小レポート・小テスト（30%）、授業態度等（20%）による。						
使用教科書						
21世紀の情報とライフスタイル / 杉原利治.--論創社、2001年、ISBN978-4-8460-0261-9						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。					
備考	毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。					

授業科目名		担当教員				
社会学		伊原 亮司				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この講義は、現代社会のあり方について学ぶ。なかでも、ほとんどの人にとって切実なテーマである＜働くこと＞に焦点をあてて、現代社会のあり方を理解する。わたしたちは、人生の早い段階から＜働くこと＞を意識させられ、その準備をするように煽られている。しかし、働く場の実態については無知なまま、耳に優しい言葉ばかりを聞かされる。本講義は、現代社会における労働の現実を理解し自分たちの働き方を構想することを目的とする。医療関連の仕事に就く予定である受講者は、「就活」にはさほど困らないかもしれない。しかし、働き出してから、「いじめ」、「うつ病」、「過労死」といった様々な問題に直面する可能性がある。医療従事者は「感情労働者」ともいわれ、専門知識のみならず、コミュニケーションの仕方や感情の表出の仕方など、人格に関わる側面が重視される。感情労働に付随する問題点を理解し、「うつ病」や「過労死」から自分の身を守る術を習得して欲しい。						
学 修 の 到 達 目 標						
①現代社会における働く場の実態を理解できる ②その際に、いかなる視点から「現実」を切り取ればいいか、分析枠組みを理解することができる ③自分自身で職場の実態を捉えられるようになる ④＜働くこと＞に対する自分のスタンスを考えることができる ⑤その際、狭義の「能力」の形成に励むだけでなく、自分の「身の守り方」にも留意することができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	イントロダクションー＜働くこと＞とは	②			テキストの「はじめに」と「おわりに」を読み、概要を理解する（120分）	講義を踏まえた上で、テキストの全体像をイメージする（120分）
2	従来の社会と働き方ー「日本的経営」と「企業社会」	① ②			テキストの第一章を読み、概要を理解する（120分）	第一章を読み直し、ドラッカーの経営思想を復習する（120分）
3	労働社会の変容ー学校、会社、家庭の関係	① ③			テキストの第一章から、現代社会の変容の概要を理解する（120分）	戦後日本の労働社会の変容を自らたどる（120分）
4	働く場の実態Ⅰー過労死・過労自殺	① ③			テキストの第四章を読み、概要を理解する（120分）	テキストの第四章から、過労死と過労自殺の違いを復習する（120分）
5	組織や役割への過剰適応	④			テキストの第四章から、組織への「過剰適応」について頭に入れる（120分）	逸脱と過剰適応との違いを復習する（120分）
6	働く場の実態Ⅱー「うつ病」	① ③			テキストの第三章を読み、概要を理解する（120分）	第三章を読み直し、精神疾患と労働との関係を復習する（120分）
7	感情労働の特質	④			テキストの第三章から、「感情労働」の特徴をつかむ（120分）	肉体労働、知的労働との違いを理解する（120分）
8	働く場の実態Ⅲー「ハラスメント」	① ③			テキストの第二章を読み、概要を理解する（120分）	日産の事例を追いながら、いじめとハラスメントとの違いを理解する（120分）
9	経営合理化と過度のプレッシャー	④			テキストの第二章から、相互扶助と相互監視のメカニズムを理解する(120分)	職場における過度のプレッシャーが生じる理由を考える（120分）。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	働く場の実態Ⅳ－職場秩序の悪化	① ③			職場秩序の悪化のメカニズムについて、概要を理解する（120分）	現在の職場における「秩序」の崩壊理由を整理する（120分）
11	非正規雇用の増大	① ③			雇用規制の緩和と非正規雇用の増大の実態について理解する（120分）	非正規雇用が増大した契機・時期・理由を整理する（120分）
12	新しい働き方とは	① ④			テキストの第六章を読み、概要を理解する（120分）	「日本の経営」から新自由主義に基づく経営への推移を整理する（120分）
13	社会貢献という働き方	① ④			テキストの第七章を読み、概要を理解する（120分）	「社会貢献」の問題点について整理する（120分）
14	働くということを考え直す	④ ⑤			テキストの第七章を読み、＜働く＞ということを考え直す（120分）	賃労働とは何かを考え直す（120分）
15	労働を規制する、勤勉さを相対化する	④ ⑤			テキストの第八章を読み、概要を理解する（120分）	講義を踏まえた上で、自らの働き方を構想する（120分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
授業への参加態度（20％）、レポート（20％）、テスト（60％）などから総合的に評価。						
使用教科書						
私たちはどのように働かせるのか / 伊原亮司. --こぶし書房, ISBN978-4-87559-299-0						
参考図書						
講義中に適宜紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義前に、予習時にわからなかったことを聞く。また、講義の最後に、理解が不十分な点を意見してもらう。					
備考						

授業科目名		担当教員				
人間関係論		神戸 博一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この講義では、日常生活や職場、家族、医療の現場などで起こる様々な人間関係について理解し、より良い人間関係を築くために学びます。まず人間関係の基本的な意義・視点から、職場での人間関係論、生涯にわたる人間発達と人間関係、更に人間関係を構成する自己と他者、人間関係の成立と維持、対立について学びます。次いで人間関係を円滑に進めるために、コミュニケーションの基礎・基本、マスコミ、インターネットなども学びます。なお、人間関係は、Human Relationなので、授業計画の中で、HRと略して使います。						
学 修 の 到 達 目 標						
テキストの内容について、学生自身が考え、充分に理解し、そこから実践できるレベルを目標とします。 ①人間関係の意義・視点について考えることができる。⑥人間関係が成立し、維持するルール、葛藤・対立への対処法を学び、実践できる。 ②職場の人間関係と対処法について理解できる。⑦コミュニケーションの基礎、基本が理解できる。 ③生涯の人間発達と人間関係について知り、応用できる。⑧コミュニケーションの種類、その長短が理解できる。 ④人間関係の一方である自己が理解できる。⑨マスコミの基本、影響について理解できる。 ⑤他者が理解できる。⑩インターネットと人間関係について知る。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	シラバス（成績評価の試験、学習対策、成績評価の基準など）第1章人間関係の中の自己と他者 A人間関係論とは	①			シラバス、①関係的存在としての人間、生理的早産について（120分）	身近なHRでは何があるか、生理的早産の意味とは何か（120分）
2	野生児について	①			フランスやインドの野生児と社会、HR（120分）	野生児の定義、特殊な「実験」の意味とその結果は（120分）
3	メーヨーのホーソン実験	②			②人間関係論のはじまりで、ホーソン実験の概要とインフォーマル論について（120分）	ホーソン実験のポイント、その結論とインフォームドコンセントとの関係（120分）
4	人間関係の発達 ― エリクソンの理論	③			③人間関係の発達で、その段階と課題、HRを理解する（120分）	特に、乳児期、青年期、老年期について、子どもの虐待をデータからみる（120分）
5	B自己認知 ― 自己概念	④			①自己概念で、文化の相違 ②関係的自己とは（120分）	鏡に映った自己とは西欧的自己と日本的自己との対比・比較（120分）
6	自己認知 ＝ 自己評価	④			③自己評価で、他者との比較の仕方 ④自己呈示の意味や目的、内面化（120分）	下方比較、上方比較の相違について（120分）
7	C 対人認知 ― 印象形成、バイアス	⑤			①印象形成で、断片の情報と全体像との関係 ②バイアス、偏見について（120分）	ステレオタイプの具体例を挙げる 予言の自己成就とは（120分）
8	第2章 対人関係と役割 ― A 対人関係の成立	⑥			他者との関係が成立する魅力や好意の条件は6つあり、その内容を理解する（120分）	カメレオン効果、単純接触効果、錯誤帰属とは（120分）
9	B 対人関係の維持	⑥			①社会的交換で、対人関係を維持する条件の4つ ②私的利益と公的利益のジレンマ（120分）	社会的交換の4つのモデルのうち、どれが良いと考えるか 囚人のジレンマ（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	C 対人関係の葛藤と対処	⑥			①葛藤の分類で、その3つの水準 ②認知のバイアス ③不合理な思考 ④対処 (120分)	原因帰属のバイアスとH R、葛藤への対処法と有効性、燃え尽き症候群 (120分)
11	第5章 A コミュニケーション ― 基本	⑦			①コミュニケーションの定義 ②コミュニケーションの目標 (120分)	コミュニケーションのモデルとは (120分)
12	B 対人コミュニケーション	⑦			①コミュニケーションの機能 ②コミュニケーションのチャネル (120分)	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴と種類 (120分)
13	コミュニケーションの種類 ― メリット・デメリット	⑧			③口頭と書面の相違 ④コンテキストと文化 (120分)	高コンテキストと低コンテキストの比較、医療のコンテキスト (120分)
14	C マスコミュニケーション ― 影響・効果	⑨			①映像メディアと活字メディア ②マスメディアの効果 (120分)	マスメディアの効果についての研究の変化 (120分)
15	D I C Tの発達とコミュニケーション	⑩			①インターネットや②SNSの利用状況、注意点 ③人間関係への影響 (120分)	S N S利用するさいの注意点、最近の社会問題について (120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
持ち込み物なしの筆記試験(100%)学んだことの理解、記憶、表現力などが評価されます。ただし、新学期の社会環境によっては、オンライン授業(資料配付)に切り替え、提出課題の点数化による評価に変えます。						
使用教科書						
系統看護学講座基礎分野 人間関係論 / 石川ひろの 他.―第3版―医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03170-7						
参考図書						
特に指摘しない。教科書の章ごとに、その最後に「参考文献」一覧が提示されているので、必要に応じ、利用する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義がある程度進展した段階で小テスト(10分ぐらい)を予告し、実施します。この小テストは、持ち込みなしで実施し、次回以降の授業で小テストの答案を返却します。解答の状況、正解や解答のポイントなどについてコメント、解説します。オンライン授業になった場合は、メールでやり取りします。jiemon13@outlook.jp					
備考	教科書『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』(石川ひろの編)を利用し、特にその第1章と第2章、第5章を学びます。授業の前後の時間帯に非常勤講師室を訪問することをお勧めします。1年後期「コミュニケーション学」がありますが、本講義と内容的なかかわりが強く、「事前学習」と位置付けられるでしょう。					

授業科目名		担当教員				
ボランティア論		益川 優子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義においては、1990年代中頃より日本社会に普及・定着したボランティア活動について、普及・定着の社会的背景、ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義、ボランティア活動が社会にもつ意味・意義、そしてボランティア活動によって切り拓かれる新たな社会のあり方等について概括的認識を得るとともに、そうした認識に基づいて現代社会の諸問題・課題の解決に主体的・能動的に参画しようとする、ボランティアとしての態度・心構えを形成することを目標とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①ボランティア活動の定義について歴史的背景を踏まえながら説明できる。 ②ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 ③ボランティア活動を支援する意味とボランティア活動支援専門機関の役割について理解し、説明することができる。 ④ボランティア活動を通じて社会に参画しようとする主体的・能動的な態度・心構えが形成されている。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ボランティアとは何か	①			自身の持つ「ボランティア」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
2	ボランティアにかかわる思想と歴史の変遷	①			ボランタリズム、利他主義、ボランティア・アクションという言葉について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
3	ボランティア活動の現状と課題	① ②			NPO法人の活動分野、認定NPO法人制度について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
4	ボランティアと現代社会	① ② ④			自己実現、ボランティア・セクターについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
5	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み	① ② ③			COS、セツルメント運動について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
6	ボランティアに期待される社会的役割	② ③			ノーマライゼーション理念、ソーシャル・アクションについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
7	地域社会のボランティア	② ③ ④			ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョンについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
8	環境とボランティア	② ③ ④			ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョンについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
9	災害ボランティア	② ③ ④			東日本大震災等の大規模災害において、被災者の生活復興に関する課題を調べる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	国際ボランティア	② ③ ④			NGO、シンパシーとエンパシーについて調べておく。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
11	ボランティア学習	② ③ ④			生涯学習、ESDについて調べておく。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
12	ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター	③			JVCAについて調べておく。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
13	ボランティア組織の運営	③			OJT、Off-JT、SDの違いについて調べておく。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
14	ボランティアの可能性と展望	④			ボランタリズムとボランタリズムの逆説について考察してくる。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
15	ボランティア活動と自分	④			これまでの学習を踏まえ、自身にとってのボランティアの意義と社会的役割について考察してくる。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
受講態度（時間内レポートを含む）30%、レポート70%						
使用教科書						
なし						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	※授業時間内で作成して頂いた小レポートは、コメントをつけて返却いたします。 ※学期末レポートについては、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。					
備考	質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。					

授業科目名		担当教員				
哲学		竹内 章郎				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
自由・平等・友愛（共同性）は、近代社会全般の基礎とされるが、この講義では、自由と共同性との関連も重視しながら、平等とはいかなることかの解明を中心に、格差や不平等が広まる現実を根本から（ラディカルに）理解することを目指す。近代思想史や哲学史の理解も、そのための手段であるという位置づけで、講義をしたいと考えている。						
学 修 の 到 達 目 標						
①大きな問題を根本から考える姿勢を身に付けるために、抽象度の高い言葉を理解しこれがある程度使えるようにする。 ②近代思想・近代哲学の基本を一定程度理解できる。 ③現代社会の課題の基本を捉える姿勢を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス（全体の進行について、資料の使い方など）	①			資料の前書きの熟読（120分）	講義内容の復習（120分）
2	現代において平等を問うことの意味＜教科書 iii～vii頁＞	③			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
3	平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義(1)＜教科書1～14頁＞	①			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
4	平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義(2)＜教科書14～31頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
5	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(1)＜教科書33～44頁＞	②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
6	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(2)＜教科書44～54頁＞	②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
7	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(3)＜教科書54～68頁＞	②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
8	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(4)＜教科書～68頁＞	②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
9	悪平等はなぜ生まれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題(1)＜教科書69～93頁＞	①			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	悪平等はなぜ生まれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題(2)＜教科書93～117頁＞	①			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
11	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論(1)＜教科書119～143頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
12	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論(2)＜教科書143～166頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
13	新たな平等論の体系の構築に向けて(1)＜教科書 167～185頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
14	新たな平等論の体系の構築に向けて(2)＜教科書185～200頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
15	新たな平等論の体系の構築に向けて(3)＜教科書200～215頁＞	① ②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
授業への取り組みと定期試験の結果による。						
使用教科書						
使用しない(講義に先立って、講義全体に関する資料を配布する。)						
参考図書						
必要に応じて講義中に紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義について、適宜配布する質問用紙に記入してもらい、その都度応答する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
教育学		益川 優子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義は、人間が生き、成長・発達していく上で教育がどのような意義を持ち、社会においてどのような役割をはたすのかについて考察していきます。また、教育をとりまく現代の諸問題を多面的に捉えつつ、教育という営みの現代的意義についても考察していきます。						
学 修 の 到 達 目 標						
①教育の概念と機能、その役割について説明できる。 ②人間の生涯発達理論について説明できる。 ③他者とのかかわりを導く技法を使うことができる。 ④現代の教育と教育を取り巻く諸問題について自分の考えを持つことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	教育の概念	①			自身の持つ「教育」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
2	学ぶということ・教えるということ	①			第1回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
3	生涯発達理論①乳児期～幼児期	②			第2回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
4	生涯発達理論②児童期～青年期	②			第3回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
5	生涯発達理論③成人期～老年期	②			第4回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
6	教育の営みと教育を取り巻く諸問題	① ④			第5回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
7	他者とのかかわり	③			第6回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
8	他者とのかかわりを導く技法	③			第7回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
9	教育の目標と評価	①			第8回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	教育のデザイン	①			第9回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
11	キャリア教育	④			第10回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
12	ジェンダーとセクシュアリティ	④			第11回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
13	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	④			第12回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
14	生涯教育	④			第13回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
15	シティズンシップ教育	④			第14回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
受講態度30%、定期試験70%						
使用教科書						
なし						
参考図書						
適宜紹介いたします。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	※定期試験については、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。					
備考	質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。					

授業科目名		担当教員				
心理学		大井 修三				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
心理学を正しく理解していると、人と人が関わる場所では、相手の理解に強力な武器となる。なぜなら、①心理学は他者理解の学問だからである。医療従事者と患者さん、医療従事者同士、日常の人間関係など。しかし、「心理学」という言葉は知っていても、心理学を正しく理解している人はなかなかいない。それは、心理学をきちんと勉強した人がなかなかいないことである（授業1）。そこで本授業では、相手の心を理解するということとはどういうことか（授業2, 3, 4, 5, 6, 7）、③一人一人違うということとはどういうことか（授業8, 9, 10, 11）、④相手に目的に向かって動いてもらうということとはどういうことか（授業12, 13, 14, 15）、の3点を中心に、医療現場で他者との関係をうまく成立させることに役に立つ心理学の話をする。なるべく日常の状況に合わせた事例を紹介しながら、他者理解に必要な視点を育む。						
学 修 の 到 達 目 標						
これらの授業を通して、①相手の「心」を直接把握することができないこと、②相手の「心」は推測でしか扱えないこと、③同じ状況でも人によって違う心が推測されること、④自分の心を相手にわかってもらうためには推測し易い情報を提供しなければならないこと、その上で相手との人間関係を考えなければいけないことを理解して、人間関係に活用することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	イントロダクション：「行動」を説明する「心」：授業の概要、評価の方法	①			テキストのイントロダクションを読み、PPW資料の該当部分を考える。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
2	「心」を知る方法：直接覗くことはできない「心」	①			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
3	「心」を知る方法：「行動」から「心」を推測する	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
4	「心」を知る方法：「心」の推測には行動と刺激の情報が必要	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
5	「相手の心」は私の中に出来上がる：相手の「心」は主観的解釈	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
6	我々の理解とは？：現象の主観的な理解	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
7	科学的学問としての心理学：主観性と客観性	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
8	心理学の中心テーマ：個人差	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
9	個人差を規定する要因1：遺伝	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	個人差を規定する要因2：環境	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
11	個人差を規定する要因3：遺伝と環境の相互作用	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
12	要求・動因・行動とフロイト理論	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
13	行動を出現させるもの：動因と誘因	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
14	動機づけの機能	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
15	要求の生得性と習得性	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価は、毎回授業で紹介される内容を理解し、自らの身近な事象に利用できるようになっていくかで見ると同時に、そのための参考資料は、試験結果（90%）、毎回の授業で提出するコミュニケーションカード（10%）である。						
使用教科書						
教科書は特に用いない。 （授業に必要な資料は、授業開始時及び時間中に配付する。）						
参考図書						
適宜、紹介する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	毎回の授業の終わりにコミュニケーションカードを提出してもらう。ここには授業内容のまとめと同時に授業中に解決できなかった質問も書いてよい。その質問には、翌授業回で解説する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
生命倫理学		谷口 泰弘				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業方ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
バイオエシックス（生命倫理学）の基礎的な事項を学ぶ。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に係る職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の医療に関する倫理的問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説する。						
学 修 の 到 達 目 標						
医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。 ①バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳を理解する。 ②講義の各論から、医療に係る倫理的問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	バイオエシックス総論①（ガイダンス、基礎概念）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第1章前半部分	復習（120分） 教科書第1章前半部分と配布資料
2	バイオエシックス総論②（歴史的背景WWⅡ以前）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第1章後半部分	復習（120分） 教科書第1章後半部分と配布資料
3	バイオエシックス総論③（歴史的背景WWⅡ以後）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第2章前半部分	復習（120分） 教科書第2章前半部分と配布資料
4	自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第3章部分	復習（120分） 教科書第3章部分と配布資料
5	倫理理論の考え方（応用倫理学からのアプローチ）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第2章後半部分	復習（120分） 教科書第2章後半部分と配布資料
6	生殖補助医療の問題①（人工授精、体外受精、代理母）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第4章前半部分	復習（120分） 教科書第4章前半部分と配布資料
7	生殖補助医療の問題②（出生前診断、着床前診断、人工妊娠中絶）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第4章後半部分	復習（120分） 教科書第4章後半部分と配布資料
8	遺伝子をめぐる問題（ヒトゲノムの利用、遺伝子特許、個人情報、エンハンスメント）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第5章部分	復習（120分） 教科書第5章部分と配布資料
9	ライフサイエンス研究をめぐる問題（再生医療、ヒトES細胞研究、ヒトiPS細胞研究）	②	谷口	講義	予習（120分） 再生医療に関する倫理的問題を調べる	復習（120分） 配布資料を復習する

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳死・臓器移植をめぐる問題（脳死の定義、臓器移植法、移植システム）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第6章部分	復習（120分） 教科書第6章部分と配布資料
11	終末期をめぐる問題①（尊厳死、安楽死）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第7章前半部分	復習（120分） 教科書第7章前半部分と配布資料
12	終末期をめぐる問題②（治療中止、鎮静、緩和医療）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第7章後半部分	復習（120分） 教科書第7章後半部分と配布資料
13	医療と法律（医療事故関係、医療契約）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第14章部分	復習（120分） 教科書第14章部分と配布資料
14	広義のバイオエシックス（動物倫理、環境倫理）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第10章部分	復習（120分） 教科書第10章部分と配布資料
15	研究をめぐる倫理（研究不正、倫理委員会、オーサーシップ、利益相反等）	②	谷口	講義	予習（120分） 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を予め調べる	復習（120分） 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を復習する
	定期試験（筆記）	① ②	谷口	試験		
評価基準・評価方法						
評価基準は、知識・理解および思考とする。その評価方法は、定期試験を実施して評価する（80%） ミニレポート等の提出物の内容も評価に入れる（20%）						
使用教科書						
生命倫理・医事法 / 塚田敬義ほか、改訂版—医療科学社、2018年、ISBN978-4-86003-497-9						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	実施する定期試験およびミニレポートについては、総評を掲示する。					
備考	適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けませんが、講義終了後に教室に残り質問等について対応する（この時間を活用してください）。					

授業科目名		担当教員				
基礎演習		辻 圭一・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努（代表教員 辻 圭一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。		辻圭一（理学療法士）・石田裕保（理学療法士）・藤橋雄一郎（理学療法士）・植木努（理学療法士）				
授 業 概 要						
本講義では、学生生活のあり方やレポートの書き方など身近なテーマから、社会的マナーやルール、あるいは社会人として知るべきテーマについて論じ、社会のルールをしっかりと理解することを目的とする。加えて、医療系学生として必要な学習方法を習得する。さらに、知識を他者に伝達する方法を体験しコミュニケーション能力の向上を図る。						
学 修 の 到 達 目 標						
①学生生活のあり方、社会的マナーやルールが理解できる ②話し合いを通じて他者の考え方が理解できる ③医療系学生としての学習方法を身につける						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、レポートの書き方と提出方法	①	辻	講義	特になし	実際にレポート書式を自分で作成しましょう（90分）
2	社会的マナー＜礼儀＞やルール	①	辻	講義	マナー、ルールについて意味を調べておいて下さい。（45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
3	グループワーク1＜テーマ：教養・社会性・医療と経済＞発表および討論	②	藤橋	演習	この1週間分のニュースを見直して下さい。（45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
4	グループワーク2＜テーマ：福祉・労働の意義・人間関係＞発表および討論	②	藤橋	演習	この1週間分のニュースを見直して下さい。（45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
5	学習方法総論（大学での学習方法、自己学習の取り組み方、インターネットの活用）	③	植木	演習	普段の予習の方法についてまとめておいて下さい。（45分以上）	講義で習った方法を実践してみてください。（45分以上）
6	学習方法各論 1（基礎医学の学習方法およびグループワークの進め方）	③	植木	演習	前回の講義内容を見直して下さい。（45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
7	学習方法各論 2（他者への知識の提供方法）	③	石田	演習	前回の講義内容を見直して下さい。（45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
8	学習方法各論 3（個人間での知識の共有方法）	③	石田	演習	前回の講義内容を見直して下さい。（45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
9	学習方法各論 4（学習における記録の残し方）	③	辻	演習	前回の講義内容を見直して下さい。（45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	演習1（グループワーク：課題の提示方法）	③	石田	演習	前回の講義内容を見直して下さい。 （45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
11	演習2（グループワーク：学習内容の提示方法）	② ③	藤橋	演習	前回の講義内容を見直して下さい。 （45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
12	演習3（グループワーク：シェア学習の実践①）	② ③	植木	演習	前回の講義内容を見直して下さい。 （45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
13	演習4（グループワーク：シェア学習の実践②）	② ③	辻	演習	前回の講義内容を見直して下さい。 （45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
14	演習5（グループワーク：ペア学習の実践①）	② ③	石田	演習	前回の講義内容を見直して下さい。 （45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
15	演習6（グループワーク：ペア学習の実践②）	② ③	藤橋	演習	前回の講義内容を見直して下さい。 （45分以上）	講義資料を元に自分でまとめておいて下さい（45分以上）
	レポート課題					
評価基準・評価方法						
受講態度（50%）、レポート（50%）						
使用教科書						
PT・OT 国家試験共通問題頻出キーワード1800 / 中島雅美/中島喜代彦. --南江堂, 2013年, ISBN978-4-524-26895-5 PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート 第3版 / 中島雅美. --医歯薬出版, 2018年, ISBN978-4-263-26551-2						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	レポートは成績発表後に返却します。					
備考	講義内容に質問があれば、研究室に問い合わせる事。 <辻研究室 k.tsuji@heisei-iryuu.ac.jp>					

授業科目名		担当教員				
文章表現法		弓削 繁				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
将来医療や介護等の世界で働く者にとっては、患者やスタッフ等とのコミュニケーション力や文章作成力がきわめて大切なものになってくる。そこでこの講義では、自らの国語力を知り基礎学力を高めるために毎回初めに小テストを行う。そして次に教科書に沿って文章表現の基礎を学び、手紙文・公用文・作文・論説文・レポートなどの書き方を実践的に身につけていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①豊かな国語力を身につけ、場面や状況に応じた適切なコミュニケーションができる。 ②自分の意見や考えを的確な文章にして表現することができる。 ③専門科目で求められるレポートや、社会人・職業人に必要な種々の文章を作成することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	講義の内容と方法についての説明と、ことばの機能に関する概説。以下、毎回小テストを行い、自己採点する。	①			シラバスと教科書に目を通し、授業の意図・内容を理解しておく。(60分)	言葉の機能を存在・認識というキーワードから考え、その大切さを理解する。(100分)
2	文章表現の基礎知識～原稿用紙の使い方	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
3	文章を書く時の注意点～悪文の種類とその直し方	① ②			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
4	文章を書く時の注意点～間違った言葉遣い、表現	① ②			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
5	レポート・小論文の様式～頭書き・本文・注記・文献の引用など	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
6	レポート・小論文の用語と文体～話し言葉と書き言葉、常体と敬体、など	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
7	論理的な文章構成～帰納法と演繹法、頭括法と尾括法、三段構成と四段構成など	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
8	作文もしくは小論文を書く～授業前半の総括として	② ③			作文・小論文の表題と文章構成を考えて来る。(120分)	作文・小論文を書き上げ、推敲する。(180分)
9	敬語の基礎～敬語の種類と用法	①			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	敬語使用上の注意点～相手との関係性と場面性	①			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
11	手紙の種類と様式～頭語と結語、前文・本文・末文など	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
12	手紙文の作成～礼状・挨拶状を書く	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
13	公用文の種類と様式～案内状・会議録などを書く	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
14	就職関係文書の書き方～履歴書・エントリーシートなど	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。(60分)	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。(100分)
15	社会問題をテーマにした小論文の作成～授業全体の総括として	② ③			課題テーマの資料・データを収集し、文章構成を考えて来る。(140分)	小論文を書き上げ、推敲する。(180分)
	定期試験 筆記試験(小テスト・教科書からの基礎問題と、課題テーマについての論述問題)					
評価基準・評価方法						
小テスト(学習態度と基礎学力を評価)20%、提出課題(学習意欲と文章表現力を評価)20%、定期試験(総合的な国語力と文章作成力を評価)60%。なお、定期試験は直前の勉強では対応しきれないので、日々の学習を怠らないこと。						
使用教科書						
日本語表現法-2 1世紀を生きる社会人のたしなみ / 庄司達也ほか、一改訂第2版—翰林書房, 2016年, ISBN978-4-87740-316-0						
参考図書						
必要に応じて講義中に紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回実施する小テストは真面目に取り組んだか否かを評価して返却(オンライン授業の場合は何回か分をまとめて正解プリントを配布)、作文・レポート課題については問題点をいくつかに整理して、文章作成の勘所を教示する。					
備考	教科書には提出用の原稿用紙が綴じ込まれているので忘れずに持ってくる。質問は随時受け付けますが、学習相談などは月・火・水の授業時間前後に対応します。気軽に声をかけてください。					

授業科目名		担当教員				
コミュニケーション学		近藤　ひろえ				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年　後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。		近藤ひろえ（人材育成研修講師）自治体・企業・大学など含めコンスタントに年間、100件以上の研修を行う。日本認知療学会正会員、産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント、メンタルヘルスマネジメント検定、心理相談専門員、NLPプラクティショナー資格、など資格多数				
授　業　概　要						
・コミュニケーションの重要性を理解する。 ・自分自身のコミュニケーションのスキルについて深く振り返り、医療現場において、患者さん・医療スタッフとの間でよりよい人間関係を構築するための具体的なコミュニケーション能力を身につける。 ・グループディスカッション、ペアワークなど体験、実践を中心とした講義を行う。						
学　修　の　到　達　目　標						
①非言語コミュニケーションの重要性を理解し、実践できる ②年代が違う人への挨拶、返事など、日常的なコミュニケーションができる ③自分の気持ち・考えなどを明確に相手に伝えることができる ④相手の言葉の背景にある気持ちや考えを想像しコミュニケーションすることができる ⑤医療現場におけるコミュニケーションの重要性と求められているスキルを学ぶ						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	・この授業の目的・到達目標について知る ・コミュニケーションの重要性とトレーニング方法について学ぶ	① ② ③ ④ ⑤				授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
2	・医療現場でのコミュニケーションの重要性を学ぶ ・医療スタッフと患者さんとのギャップについて学ぶ	④ ⑤			医療現場でのコミュニケーションの重要瀬について考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
3	・コミュニケーションスキルを知っていてもなぜ使えないのか、その仕組みについて学ぶ ・相手の気持ちを受けとめるための柔軟な考え方にする方法を学ぶ	① ② ③ ④ ⑤			日常生活でどんなつぶやきをしているかをまとめてくる(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
4	非言語情報の重要性を学び、初対面の人や環境が違う人とどのようにコミュニケーションを始めればよいかを学ぶ	① ② ⑤			自分は初対面の人とどのようにコミュニケーションをとっているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
5	相手の本当に伝えたいことを受けとめるための聴き方について学ぶ	② ④ ⑤			自分は普段どのような聴き方をしているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
6	前回の授業で学んだことをケーススタディを通じて実践し、自分の身につける	② ④ ⑤			どんな場面で聴き方の種類を発揮しているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
7	コミュニケーションに欠かせない他者への興味・関心力の重要性を知り、興味・関心を示すことができるような質問力について学ぶ	① ② ③ ④ ⑤			初対面の人と会話するときに困っていることを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
8	前回の授業で学んだことをロールプレイングを通じて実践し、自分の身につける	① ② ③ ④ ⑤			前回の授業のスキルを実践して気づいたことをまとめる(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
9	なぜミスコミュニケーションが起こるのか、仕組みを学ぶ。どのように説明することが必要かを学ぶ	③			自分の伝えるスキルで改善したいところを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	前回の授業の続きとして、具体的な伝え方のスキルを体験しながら学ぶ	③			学科の説明を1分間にまとめて発表できるようにする(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
11	前回の授業の続きとして、実際に説明する場面を想定してロールプレイングをする。自分の良い点や今後の課題を見つける	③			プレゼンの練習をしてくる(60分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
12	自分の気持ちを伝える、相手に言いにくいことを伝える時の表現方法を学ぶ	③ ⑤			言いにくいことを相手に伝える場合、自分はどういう伝え方をしているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
13	医療スタッフとして知っておかなければならない、敬語・クッション言葉などの接遇用語を学ぶ	② ③ ④ ⑤			敬語・接遇表現で知りたいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
14	今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する	① ② ③ ④ ⑤			今までの授業を振り返って、質問したいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
15	今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する	① ② ③ ④ ⑤			今までの授業を振り返って、質問したいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
	定期試験 無し					
評価基準・評価方法						
・授業態度（授業への関わり方） 60% ・レポートの内容（複数回レポート提出） 40%						
使用教科書						
コミュニケーション学 ワークブック 2021年版 / 近藤ひろえ. --非売品,						
参考図書						
・授業の進行に伴って、その都度紹介する。 ・適宜、教材として使用するプリントなども配付する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	・コメント、口頭でフィードバック					
備考	・自分のコミュニケーションの問題・悩みなどなんでもいいので課題をもって授業に臨んでください。 ・Eメールアドレスは、初回講義時間内にお知らせします。					

授業科目名		担当教員				
英語Ⅰ（教養英語）		ジャリ マルジャン				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この科目は話すおよび書くことの発信力強化を目的とした科目です。今の大学生に求められる、さまざまな情報を収集し、それらを伝える力、そして自分の考えを述べる力を高めるよう構成されています。扱っている話題は、スマートフォンやアルバイト、理想のパートナーやSNS投稿、ボランティア活動、食や睡眠といった、大学生の皆さんにとって身近なものになっています。楽しみながら、積極的にクラスメイトと意見交換をして、英語での発信力を高めていってください。						
学 修 の 到 達 目 標						
①日常の色々な場面でよく使われる決まった言い方に慣れ、一般的な質問の仕方とその答え方を身に付ける。 ②英文雑誌記事や新聞の記事、またメールの英文に触れ、日常の話題とその英語に触れて会話力を高める。 ③英文メールに慣れ、自分でもメール文を書ける自信をつける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	Were You Texting While Walking ?頻度を表す副詞と数量を表す表現 パラグラフの構造①	① ②				その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
2	Do You Work part-time? 動詞＋ to不定詞（todo）／動名詞（－ing） パラグラフの構造② 支持文	② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
3	He Has a great Smile, and He’s Rich! 見た目や性格を表す形容詞 パラグラフの構造③結論文	② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
4	Did You Enjoy Playing Basketball? be動詞・一般動詞の過去形 2つの語・句・節をつなぐ接続詞（and/but）	② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
5	Manners: Be a Good Guest! 現在進行形と過去進行形（be-ing） 文の構成：主語と動詞、形式主語	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
6	Call Me When You Get There 命令形 2つの事柄を並べて説明する（one is ～, the other is ～）	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
7	Dogs Are So Much Better 比較級と最上級 文頭で内容を展開する副詞（Therefore/However）	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
8	You Could Have Pool Parties! 存在や所有を表す表現（There is/are, has/have） ・理由と結果をつなぐ接続詞（because/so）	② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
9	We Are Going on a Cruise! 未来を表す表現（be going to／will／be -ing） コンマ（,）の使い方①／大文字の使い方	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Have You Ever Volunteered Before? 現在完了形の4つの用法 コンマ（,）の使い方②	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
11	Think Before You Post! 提案や義務を表す助動詞（had better/should, must/have to） 例を挙げて主題を展開する（for example）	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
12	You Lied to Her! Wh 疑問文と間接疑問文 Eメールの構成	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
13	Are You Sleeping Well? 数えられる名詞と数えられない名詞 パラグラフの構造④ 論理の展開	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
14	Why Do You Want to Work Here? Yes/ No 疑問文、Which 疑問文、Wh 疑問文 ・文書の書式設定	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
15	You Should Make Wise Food Choices 時や条件を表す副詞節 キーワードやフレーズを使って要約を書く	① ② ③			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
予習復習、宿題をきちんと行い、私語なく受講し、暗唱英文等の小テストを受ける授業参加度（50％）と、定期試験の結果（50％）で評価する。						
使用教科書						
English Beams: Essential Skills for Talking and Writing / 金星堂 , 2018年, ISBN978-4-7647-4018-1						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		使える英語力の育成 具体的な英語の使用場面を意識しながら、inputからoutputへと進むバランスの良い活動を通して、自然な流れで英語運用能力を身につけることができる内容・構成になっています。				

授業科目名		担当教員				
英語Ⅱ（日常英会話）A		ジ ャリ マルジャン				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この科目は話すおよび書くことの発信力強化を目的とした科目です。今の大学生に求められる、さまざまな情報を収集し、それらを伝える力、そして自分の考えを述べる力を高めるよう構成されています。扱っている話題は、スマートフォンやアルバイト、理想のパートナーやSNS投稿、ボランティア活動、食や睡眠といった、大学生の皆さんにとって身近なものになっています。楽しみながら、積極的にクラスメイトと意見交換をして、英語での発信力を高めていってください。						
学 修 の 到 達 目 標						
①初級の基本的な日常の英語を聞いて、一定程度聞き取りができる。 ②日常の色々な場面でよく使われる決まった言い方に慣れ、一般的な質問の仕方とその答え方について学ぶ。また、Dialogue（対話）を読んだり、聞いたりして、理解できる。 ③テキストの対話文をペアーで練習し、自分で積極的に発話する態度を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	Introduction Unit, Self-check, Useful Expressions	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
2	On the plane,……please, ～をお願いします、～をください。	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
3	At the currency Exchange I'd like to …… . ～したいのですが	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
4	At the Hotel 1 Could you …… ? ～していただけますか？	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
5	At the Hotel 2 Is / Are there ? ～ ありますか ？	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
6	On the Train / Bus Does this …… ? これは～しますか？	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
7	Sightseeing 1 Where is / are …… ? ～はどこですか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
8	Review 1, Units 1-6 の復習	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
9	Shopping 1 May I ……? ～してもいいですか、～できますか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Shopping 2 I'm looking for ～を探しているのですが	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
11	At the post office How much is / are ? ～はいくらですか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
12	Sightseeing 2 Do you have ? ～ はありますか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
13	At the Restaurant Could I have ? ～をもらえますか	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
14	At the Hospital / Pharmacy I have ～ (症状) です、～があります	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
15	Review 2, Units 7-12 の復習	① ② ③			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
予習復習、宿題をきちんと行い、私語なく受講し、暗唱英文等の小テストを受ける授業参加度 (50%) と、定期試験の結果 (50%) で評価する。						
使用教科書						
My First Trip, Key Phrases for Traveling Abroad / センゲージラーニング株式会社, ISBN978-4-86312-242-0						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		本科目で沢山のフレーズを使いこなし、さまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。各Unitにおいて8つのアクティビティで構成されています。前半では、ひとつの基本フレーズを学習し、そのフレーズを使ってペアワークを中心に会話の練習を行います。後半では、さまざまな話題に関して文章を読めると便利な内容や聞き取りなどの実践的なリーディングとリスニングのアクティビティに取り組みます。				

授業科目名		担当教員				
英語Ⅱ（日常英会話）B		ミルボト セイト モハマト				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 後学期	1単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授業概要						
本講義では、英語によるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。その際、英語の伝達的な機能のみにとどまらず、文化・社会とのかかわりについても考慮する。毎回さまざまな言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることも目的の一つとする。						
学修の到達目標						
①英語の受信能力（リーディング・ライティング）だけではなく、発信能力（リスニング・スピーキング）を高める。 ②英語の伝達的な機能のみではなく、英語と文化・社会とのかかわりなどへの理解を高め、多様な情報を様々な方向から理解・解釈する力の育成を目指す。授業終了時には英語の受信能力及び発信能力が向上し、実践することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	Week 1: Giving Directions and Helping Target: 道案内で使える英語表現	① ②				学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
2	Week 2: Talking about Yourself Target: 自己紹介で使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
3	Week 3: Host Family Target: 留学生などを迎える時に使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
4	Week 4: Commuting by Train Target: 電車の乗換説明に使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
5	Week 5: Taking Classes Target: 物事の描写に使える英語表現（1）	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
6	Week 6: Talking with a Teacher Target: 褒める時に使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
7	Week 7: Finding Friends Target: 自分の趣味や好みを伝える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
8	Week 8: Potluck Target: パーティーなどの集まりで使える英語表現	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)
9	Week 9: Sumo Target: 物事の描写に使える英語表現（2）	① ②			教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分)	学習したことを復習し、会話練習をする(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Week 10: Four Seasons Target: 好きな季節の説明に使える英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
11	Week 11: Green Tea Target: 物事の描写に使える英語表現 (3)	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
12	Week 12: Japanese Food Target: 料理の説明に使える英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
13	Week 13: Part-time Jobs Target: アルバイト先で使える英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
14	Week 14: Shopping at a Clothing Shop Target: 買い物で使える英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
15	Week 15: Asakusa Target: オススメの場所を紹介する英語表現	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (60分)
	試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
授業参加態度・小テスト・・・40%, 理解度判定・・・60%						
使用教科書						
Welcome To Nippon, Buiding International Friendship / 朝日出版社, ISBN978-4-255-15613-2						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		ー使える英語力の育成 具体的な英語の使用場面を意識しながら、inputからoutputへと進むバランスの良い活動を通して、自然な流れで英語運用能力を身につけることができる内容・構成になっています。皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行います。				

授業科目名		担当教員				
英語Ⅲ（専門英語）		ミルボト セイト モハマト				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義では、ホスピタル・イングリッシュによるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。発音や聞き取りの練習により、スピーキングやリスニングの能力を育成する。「読む」「聞く」「話す」という3つの技能を育て、英語の運用能力を総合的に養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
毎回さまざまな医療に関する言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることを目指す。 ①正しい発音と適切なパターンで発話することができる。 ②医療英語によるコミュニケーションに必要なリスニング力を身につけ、状況の聞き取りができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	①				その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
2	Lesson 1: Reception Desk（救急外来受付）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
3	Lesson 2:Examination Room（診察室）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
4	Lesson 3: Giving Injection（注射をする）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
5	Lesson 4: Explanation to a Family Member（患者の家族への説明）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
6	Lesson 5:Self-Introduction and First Meal（自己紹介と初めての食事）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
7	Lesson 6: Orientation to the Ward（入院病棟を案内する）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
8	Lesson 7: Asking Height, Weight, and Temperature（身長、体重、体温を尋ねる）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
9	Lesson 8: Obtaining the Patient's History（患者歴をとる）小テスト	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Lesson 9: Checking the Patient's Condition (患者の状態をチェックする)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
11	Lesson 10: Blood Test Explanation (血液検査の説明)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
12	Lesson 11: Drawing a Blood Sample (採血)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
13	Lesson 12: Explaining about the Operation: Basic Procedures (手術についての説明: 基本的手順)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
14	Lesson 13: Explaining about the Operation: Anesthesia (手術についての説明: 麻酔)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
15	Lesson 14: Taking the Patient into Surgery (手術室への搬送)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
授業参加態度・小テスト・・・40%, 理解度判定・・・60%						
使用教科書						
Essential English For Nurses 5th Edition(学生版) / Paul Zito & Masako Hayano. 一社総研, ISBN978-4-7760-1861-2						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行う。 学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。				

授業科目名		担当教員				
ドイツ語		安藤 彰浩				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。		安藤彰浩（ドイツ語通訳）				
授 業 概 要						
ドイツ語における初級の基礎知識の習得を目指す。インターネット（動画サイトYou Tube 等でニュース放送を見る）を活用して、ドイツ人の話す生のドイツ語に触れる機会を設ける。ドイツ社会における時事的、文化的話題を提供して、ドイツの歴史や文化に対する興味を喚起する。						
学 修 の 到 達 目 標						
ドイツ語の基本的な表現に親しむ。ドイツ語学習を通じて言葉の感覚を磨き、自分をより正確に表現する力を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	発音。数字0～12。挨拶				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
2	自己紹介。 — 動詞の現在人称変化 ich/Sie				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
3	自己紹介。 — 動詞の現在人称変化 du				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
4	第三者の紹介。 — 動詞の現在人称変化 三人称単数 er/sie				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
5	身の回りのもの。 — 格変化：主格（1格）。複数形				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
6	買い物・家族。直接目的格（4格）。 — 所有冠詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
7	お土産。間接目的語（3格）。 — 人称代名詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
8	趣味。時間表現。曜日 — 不規則動詞の現在人称変化				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
9	道をたずねる。 — 前置詞の格支配1、命令形				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Eメール。月と季節 — 前置詞の格支配2				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
11	手紙。時間表現2 — イントネーションと文アクセント				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
12	料理・レストラン — 会話表現				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
13	ドイツ鉄道 — 分離動詞・非分離動詞、zu不定詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
14	ベルリンへの旅 — 話法の助動詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
15	ドイツの歴史、文化について。 — 文法のおさらい				次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
理解度、積極参加を重視 定期試験（60％）、小試験（20％）、授業への取り組み（20％）						
使用教科書						
シュピッツェ1 コミュニケーションで学ぶドイツ語 / 朝日出版社,						
参考図書						
必要に応じて紹介						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法		課題の習得を総合的に評価してコメントする。				
備考		毎回、動画サイトを使って、ドイツ人の生活や文化を紹介する。				

授業科目名		担当教員				
中国語		橋本 永貢子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
現代中国語の初歩を学ぶ。基礎的な中国語の習得を通じて、中国語が一言語としてどのような特徴を持っているのかを学び、また、中国人とコミュニケーションをとる場合に必要な知識や中国語の背景にある中国の文化や社会についても理解を深め、将来医療従事者になった場合にも役に立つ教養を身に付ける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①発音記号が読めるようになること ②基礎的な文法を習得し、簡単な日常会話ができるようになること						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	中国語の概要、声調	①			テレビやラジオ、インターネット等で、中国語の音を聞いてみる。(30分)	声調練習を行い、マスターする(30分)
2	母音(1)	①			声調の復習をする。(30分)	単母音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
3	子音	①			単母音の復習をする。(30分)	子音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
4	母音(2)	①			子音の復習をする。(30分)	複母音・鼻母音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
5	発音のまとめ	①			複母音・鼻母音の復習をする。(30分)	ピンインの書き方と発音の仕方を覚える。(30分)
6	挨拶のしかた	① ②			ピンインの書き方と発音の仕方の復習をする。(30分)	中国語での挨拶の仕方を練習しマスターする。(30分)
7	動詞述語文(1)	① ②			中国語での挨拶の仕方を復習する(30分)	教科書第2課本文の発音練習を行う。(30分)
8	動詞述語文(2)、連体修飾語と疑問文(1)	① ②			教科書第2課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。(30分)	教科書第3課の本文の発音練習を行う。(30分)
9	連体修飾語と疑問文(2)	① ②			教科書第3課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。(30分)	教科書第1課から第3課の復習をする。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	存在を表す文 (1)	① ②			教科書第1課から第3課の復習をする。 (30分)	教科書第4課の本文の発音練習を行う。 (30分)
11	存在を表す文 (2) 、所在を表す文 (1)	① ②			教科書第4課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	教科書第5課の本文の発音練習を行う。 (30分)
12	所在を表す文 (2)	① ②			教科書第5課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	教科書第4課と第5課の復習をする。 (30分)
13	助動詞を用いた文 (1)	① ②			教科書第6課の本文の発音練習を行う。 (30分)	教科書第6課の本文の発音練習を行う。 (30分)
14	助動詞を用いた文 (2)	① ②			教科書第6課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	会話練習に必要な表現を復習する。 (30分)
15	実践的な中国語会話練習	① ②			会話練習に必要な表現を発音練習する。 (30分)	教科書第1課から第3課の復習をする。 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
発音とリスニングを重視する。毎回の授業における理解度や発音の状況 (20%) と学期中数回行う小テスト (30%) 、および期末テストの結果 (50%) から総合的に評価する。						
使用教科書						
医療系学生のための初級中国語 / 山田真一. --白帝社, ISBN978-4-89174-979-8						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	課題に対しては、次の授業の際に点検あるいは採点したものを返却しまた解説する。					
備考	連絡先メールアドレス: ran@gifu-u.ac.jp					

リハビリテーション学科 理学療法専攻

専門基礎科目

授業科目名		担当教員				
解剖学Ⅰ（骨・筋肉系）		千田 隆夫				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授業概要						
成人の骨は約200個あり、関節でつながって筋の収縮によって動く。骨と関節と筋をあわせて運動器と呼ぶ。快適な日常生活を営むには、骨と関節と筋の働きが非常に重要である。骨・関節・筋に障害が起こると、動作や運動が制約される。理学療法・作業療法の多くは、運動器の働きを正常に戻すために行われている。したがって、理学療法士・作業療法士をめざす諸君にとっては、運動器の知識は非常に重要である。この授業では、人体の骨・関節・筋の概略について学び、様々な人体の運動への骨・関節・筋の関わりについて理解を深める。						
学修の到達目標						
①全身の骨格を構成する個々の骨の名称、数、形状、構造上の特徴を列挙し、筋・血管・神経・内臓との関係を説明できる。 ②骨と骨の連結様式を列挙し、それに基づく関節の運動を説明できる。 ③全身の骨格筋の名称、起始・停止、形状、作用、支配神経を列挙し、様々な運動にどの筋がどのように関与するかを説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	骨の一般構造・骨化・機能	①		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)
2	関節の一般構造・種類・運動	②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)
3	脊柱を構成する骨と関節	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)
4	胸郭を構成する骨と関節	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)
5	上肢を構成する骨と関節	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)
6	下肢を構成する骨と関節	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)
7	頭蓋を構成する骨と関節①	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)
8	頭蓋を構成する骨と関節②	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)
9	筋の構造・機能	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す(30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	頭部の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す (30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる (30分)
11	頸部の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す (30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる (30分)
12	胸腹部の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す (30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる (30分)
13	背部の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す (30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる (30分)
14	上肢の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す (30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる (30分)
15	下肢の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す (30分)	指定教科書の該当ページの図のカラーリングを完成させる (30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験（100％）で評価する。						
使用教科書						
人体解剖カラーリングブック【補訂版】 / Twietmeyer・McCracken 天野修、千田隆夫ほか監訳、一丸善出版、2020年、978-4-621-30563-8 医療系学生のための解剖見学実習ノート / 千田隆夫、小村一也、一アドスリー、2020年、978-4-904419-96-0 C3047						
参考図書						
1) カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学、坂井建雄編集、メディカルビュー社 2) トートラ解剖学 Tortora・Nielsen著 小沢一史、千田隆夫、高田邦昭、依藤 宏監訳、丸善出版						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	試験の正解例の掲示					
備考	講義以外に、Eメール（tsenda@gifu-u.ac.jp）でも質問等を受け付ける。					

授業科目名		担当教員				
解剖学Ⅱ（内臓系）		江村 正一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
心臓をはじめとした循環器系、気管支、肺などの呼吸器系、食道・胃・腸などの消化器系および内分泌腺と尿生殖器について学ぶ。いくつかの臓器が一体となって機能し、生命が維持されていることを理解する。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 循環器・呼吸器・消化器・内分泌腺・泌尿器・生殖器の各器官について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	解剖学総論	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
2	循環器系Ⅰ / 心臓について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
3	循環器系Ⅱ / 動脈について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
4	循環器系Ⅲ / 門脈について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
5	循環器系Ⅳ / 静脈・リンパ管について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
6	呼吸器系Ⅰ / 鼻・喉頭・気管と気管支について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
7	呼吸器系Ⅱ / 肺について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
8	消化器系Ⅰ / 口腔・食道について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
9	消化器系Ⅱ / 胃・小腸・大腸について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	消化器系Ⅲ / 肝臓・胆嚢・膵臓について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
11	内分泌腺 / 視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
12	泌尿器 / 腎臓・尿管・膀胱について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
13	発生	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
14	生殖器 / 男女生殖器について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
15	各内臓が密接な関係にあることを理解する	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(60分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(60分)
	筆記試験					
評価基準・評価方法						
筆記試験結果(100%)						
使用教科書						
系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 / 坂井建雄ほか. 一第10版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03171-4						
参考図書						
適宜、参考資料を配布する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	試験の模範解答を掲示するとともに、質問をメールでも受け付ける。 E-mail s.emura@heisei-iryuu.ac.jp					
備考						

授業科目名		担当教員				
解剖学Ⅲ（神経系）		堀 信宏・近藤 直実・河村 章史・大場 かおり・藤橋 雄一郎（代表教員 堀 信宏）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義 ねこバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）、近藤直実（医師）、河村章史（作業療法士）、大場かおり（理学療法士）、藤橋雄一郎（理学療法士）				
授 業 概 要						
解剖学Ⅲ（神経系）では主に中枢、末梢、自律神経系と感覚器について学びます。理学療法士、作業療法士にとって神経解剖の知識は、将来対象となる脳血管障害やパーキンソン病、多発性硬化症、脊髄損傷といった身体機能障害を理解する基礎となるだけでなく、認知症や高次脳機能障害といった認知面の基礎にもなります。また、臨床（国家試験でも）中枢神経系の画像に触れる機会が増え、解剖を基に治療プランを作成している。以上より、構造と機能の理解は必要不可欠です。						
学 修 の 到 達 目 標						
①ニューロンの基本構造や脳、脊髄、脊髄神経、脳神経、自律神経の構造について理解する。 ②上肢に分布する腕神経叢の枝や、下肢に分布する腰仙骨神経叢の枝の走行を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	臨床に繋がる神経解剖学	① ②	近藤		教科書の内容を確認し、新しい用語について調べる。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
2	神経系総論：神経の区分、神経の構成、髄膜と脳室系	①	藤橋		教科書P.229-237を読み、内容を確認しましょう（30分）。	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。
3	中枢神経系：脊髄、脳幹	①	堀		教科書P.241-251を読み、内容を確認しましょう（30分）	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）
4	中枢神経系：小脳	①	堀		教科書P.251-255を読み、内容を確認しましょう（30分）	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）
5	中枢神経系：大脳（間脳、大脳皮質の構造）	①	堀		教科書P.256-263を読み、内容を確認しましょう（30分）	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）
6	中枢神経系：大脳皮質（大脳皮質の機能局在）	①	堀		教科書P.263-267を読み、内容を確認しましょう（30分）	「まとめの絵」について、教科書を使用し再確認しましょう（30分）
7	中枢神経系：神経路（体性感覚神経路、平衡覚の神経路）	①	藤橋		教科書P268-271を読み、内容を確認しましょう（30分）。	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。
8	中枢神経系：神経路（錐体路系、錐体外路系）	①	藤橋		教科書P274-277を読み、内容を確認しましょう（30分）。	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。
9	末梢神経系：脊髄神経（自律神経）	①	藤橋		教科書P311-314を読み、内容を確認しましょう（30分）。	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	末梢神経系：概論及び腕神経叢と関連する末梢神経	②	河村		教科書(1)p.278-291及び教科書(2)p.294-299を通読する(30分)	配布資料(腕神経叢)の整理(30分)
11	末梢神経系：腰神経叢と関連する末梢神経	②	河村		教科書(1)p.291-293の通読及び配布資料(腕神経叢)の確認(30分)	配布資料(腰神経叢)の整理(30分)
12	末梢神経系：仙骨神経叢と関連する末梢神経	②	河村		教科書(1)p.293-300の通読及び配布資料(腰神経叢)の確認(30分)	配布資料(仙骨神経叢)の整理(30分)
13	脳神経：Ⅰ-Ⅵ脳神経	①	大場		「病気がみえる7」のp242-p261を確認しておきましょう。(30分)	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう(30分)。
14	脳神経：Ⅶ-Ⅻ脳神経	①	大場		「病気がみえる7」のp262-279を確認しておきましょう。(30分)	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう(30分)。
15	感覚器：皮膚，視覚，平衡感覚	①	大場		解剖学(医学書院)の視覚器と聴覚器の箇所を確認しておくとい良いでしょう。(30分)	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう(30分)。
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
期末試験95%(各担当が行う小テストを基に出題する。参加度・態度を加味する)。小テスト5%。						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 / 野村巖--医学書院, 2020年, ISBN978-4-260-03922-2 病気がみえる7 脳・神経 / 医療情報科学研究所.--第2版--メディックメディア, 2017年, ISBN978-4-89632-686-4						
参考図書						
プロメテウス解剖学アトラス頭頸部/神経解剖 第3版, 坂井建雄ら監訳, 医学書院, 2019						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テスト後、授業内で実施(採点し返却する場合もある)。					
備考	範囲が広いので、各担当が行う小テストをしっかりと取り組み、覚えること。解らない内容は後回しにせず、その都度整理につとめることが大切です。この神経系解剖は、2年生の神経系疾患の基礎になるので、ここをしっかりと勉強しておく、後の学修に有益になる。					

授業科目名		担当教員				
解剖学演習（体表解剖 上肢）		田島 嘉人・亀山 咲子（代表教員 田島 嘉人）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	2単位(60時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		田島嘉人（理学療法士）、亀山咲子（理学療法士）				
授 業 概 要						
解剖学演習(体表解剖)では、理学療法士として必要な皮膚からの視察・触察の技術を学ぶ。具体的には筋の形状、起始停止を確認し、その走行と役割を確認する。関節を構成する靱帯・関節包などから生じる問題について考察を加える。理学療法士はこの視診や触診を基に障害部位の評価や治療を行う職種である。二次元的に学んだ知識を三次元的に捉え、治療対象部位を適切に視察・触察する能力を身につける事、患者様に可能な限り負担のない形で治療を行える事が本演習の目的である。三次元的に組織をイメージできるように超音波診断装置を用いる。小テストを頻回に実施し、知識の習得度合いについて確認を行っていく。又、同時に医療に携わる者として基本的態度を身につけることが出来るようにする。授業形式は主にICTを活用した反転授業形式を取り、予習、講義、復習をすることで、触診技術を高める。また、一部演習では、臨床の理学療法士の方にティーチングアシスタントとして参加して頂き、臨床における心構えや知識、技術などについて学ぶ。予習復習の方法については講義および配布資料にて詳細に伝える。						
学 修 の 到 達 目 標						
①治療対象部位を適切に視察・触察する知識、技術を身につけることができる ②患者様に可能な限り負担のない形で治療を行える臨床対応力を身につけることができる ③超音波診断装置を用いて組織を三次元的にイメージすることができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	解剖学用語 運動学基礎 触診技術の基本 1 学習方法	①	田島 亀山	講義	ビジュアル版 筋肉と関節のしくみがわかる事典 p.46,4750,51について理解と記憶をしておくこと(30分)	授業内容の長期記憶化(30分)
2	解剖学用語 運動学基礎 触診技術の基本 2	①	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）のp.2-9を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
3	肩関節 骨 肩甲棘 肩峰 内側縁 外側縁 上角 下角	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
4	肩関節 骨 肩甲棘 肩峰 内側縁 外側縁 上角 下角	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
5	肩関節 骨 烏口突起 肩鎖関節 胸鎖関節 大結節 小結節 鎖骨 ① 臨床対応力とは	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
6	肩関節 骨 烏口突起 肩鎖関節 胸鎖関節 大結節 小結節 鎖骨	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
7	肩関節 筋 小円筋 大円筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
8	肩関節 筋 小円筋 大円筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
9	肩関節 筋 棘上筋 棘下筋 肩甲下筋 烏口腕筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	肩関節 筋 棘上筋 棘下筋 肩甲下筋 烏口腕筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
11	肩関節 筋 三角筋 僧帽筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
12	肩関節 筋 三角筋 僧帽筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
13	肩関節 筋 大・小菱形筋 大胸筋 小胸筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
14	肩関節 筋 大・小菱形筋 大胸筋 小胸筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
15	肩関節 筋 前鋸筋 広背筋 肩甲挙筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
16	肩関節 筋 前鋸筋 広背筋 肩甲挙筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
17	肘関節 骨 外側上顆 内側上顆 橈骨頭 上腕筋 上腕二頭筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
18	肘関節 骨 外側上顆 内側上顆 橈骨頭 上腕筋 上腕二頭筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
19	肘関節 筋 上腕三頭筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
20	肘関節 筋 上腕三頭筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
21	手関節 骨 橈骨尺骨茎状突起 手根骨	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
22	手関節 骨 橈骨尺骨茎状突起 手根骨	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
23	前腕 筋 円回内筋 前腕屈筋群	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	前腕 筋 円回内筋 前腕屈筋群	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
25	前腕 筋 前腕伸筋群 腕橈骨筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
26	前腕 筋 前腕伸筋群 腕橈骨筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
27	前腕 筋 総指伸筋 浅指屈筋 深指屈筋 虫	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
28	前腕 筋 総指伸筋 浅指屈筋 深指屈筋 虫	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
29	前腕 筋 長母指外転筋 短母指伸筋 長母指伸筋 長母指屈筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
30	前腕 筋 長母指外転筋 短母指伸筋 長母指伸筋 長母指屈筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
	定期試験（筆記及び実技）					
評価基準・評価方法						
小テスト、実技チェック、臨床対応力（被検者などに対する態度・言葉使い）、期末試験（筆記・実技）100% 評価については第1回講義で詳細に明示します。評価方法で分からないところがあればいつでも確認してください。						
使用教科書						
運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）改訂第2版 / 林典雄.--メジカルビュー社、978-4-7583-1136-6 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 第3版 / 坂井建雄ほか監訳.--医学書院、978-4-260-02534-8						
参考図書						
・配布資料（体表サブブックなど） ・ビジュアル版 筋肉と関節のしくみがわかる事典 竹井 仁 著(西東社)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストの返却 実技チェック 臨床対応力チェック					
備考	臨床における全ての治療の基本である体表解剖の知識は、いわば臨床において知っていて当たり前知識であることを認識し、ひたすら努力して習得するようにして下さい。覚える内容は明瞭です。ただ、量が多いため毎日の積み重ねが大変重要になります。授業では“治療者”としての知識を持ちながら“患者”に接するよう心がけてください。毎回小テストを実施し、できる限り早く返却します。覚えきれていないところ、理解していないところを確認して次につなげるようにして下さい。授業時間内に理解できないところがあれば、できる限り早く質問にきてください。y.tajima@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
解剖学演習（体表解剖 下肢）		田島 嘉人・亀山 咲子（代表教員 田島 嘉人）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	2単位(60時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー-(2)(3)理学ディプロマポリシー-(2)(3)(4)の達成に寄与している。		田島嘉人（理学療法士）、亀山咲子（理学療法士）				
授 業 概 要						
解剖学演習(体表解剖)では、理学療法士として必要な皮膚からの視察・触察の技術を学ぶ。具体的には筋の形状、起始停止を確認し、その走行と役割を確認する。関節を構成する靱帯・関節包などから生じる問題について考察を加える。理学療法士はこの視診や触診を基に障害部位の評価や治療を行う職種である。二次元的に学んだ知識を三次元的に捉え、治療対象部位を適切に視察・触察する能力を身につける事、患者様に可能な限り負担のない形で治療を行える事が本演習の目的である。三次元的に組織を捉えるために超音波診断装置を用いる。小テストを頻回に実施し、知識の習得度合いについて確認を行っていく。又、同時に医療に携わる者として基本的態度を身につけることが出来るようにする。授業形式は主にICTを活用した反転授業形式を取り、予習、講義、復習をすることで、触診技術を高める。予習復習の方法については講義および配布資料にて詳細に伝える。						
学 修 の 到 達 目 標						
①治療対象部位を適切に視察・触察する知識、技術を身につけることができる ②患者様に可能な限り負担のない形で治療を行える臨床対応力を身につけることができる ③超音波診断装置を用いて組織を三次元的にイメージすることができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	触診の基本 学習方法	①	田島 亀山	講義	配布資料を熟読しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
2	股関節 骨 骨盤（上前腸骨棘、下前腸骨棘、JL、上後腸骨棘、坐骨結節、大転子、RNL）	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
3	股関節 骨 骨盤（上前腸骨棘、下前腸骨棘、JL、上後腸骨棘、坐骨結節、大転子、RNL）	① ②	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
4	股関節 筋 大殿筋 中殿筋 梨状筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
5	股関節 筋 大殿筋 中殿筋 梨状筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
6	股関節 筋 長内転筋 大内転筋 薄筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
7	股関節 筋 長内転筋 大内転筋 薄筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
8	股関節 筋 縫工筋 大腿筋膜張筋 腸腰筋 スカルパ三角	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
9	股関節 筋 縫工筋 大腿筋膜張筋 腸腰筋 スカルパ三角	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	膝関節 骨 膝（膝蓋骨、膝蓋靱帯、脛骨粗面、内転筋結節）腓骨頭、近位脛腓	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
11	膝関節 骨 膝（膝蓋骨、膝蓋靱帯、脛骨粗面、内転筋結節）腓骨頭、近位脛腓	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
12	膝関節 筋 大腿四頭筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
13	膝関節 筋 大腿四頭筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
14	膝関節 筋 グループワーク	① ② ③	田島 亀山	演習	今までに学習した筋について復習しておくこと(30分)	授業内容の長期記憶化(30分)
15	膝関節 筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
16	膝関節 筋 大腿二頭筋 半腱様筋 半膜様筋 膝窩筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
17	膝関節 筋 大腿二頭筋 半腱様筋 半膜様筋 膝窩筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
18	足関節 骨 足（内外果、遠位脛腓、距骨、距骨頭、載距突起、踵骨、舟状骨粗面）足部（第1中足骨、第5中足骨粗面）	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
19	足関節 骨 足（内外果、遠位脛腓、距骨、距骨頭、載距突起、踵骨、舟状骨粗面）足部（第1中足骨、第5中足骨粗面）	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
20	足関節 筋 前脛骨筋 長母指伸筋 長指伸筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
21	足関節 筋 前脛骨筋 長母指伸筋 長指伸筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
22	足関節 筋 後脛骨筋 長母指屈筋 長指屈筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
23	足関節 筋 後脛骨筋 長母指屈筋 長指屈筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	足関節 筋 ヒラメ筋 腓腹筋 長腓骨筋 短腓骨筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
25	足関節 筋 ヒラメ筋 腓腹筋 長腓骨筋 短腓骨筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
26	体幹 骨 乳様突起 外後頭隆起 胸骨柄 頸切痕 多裂筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
27	体幹 骨 乳様突起 外後頭隆起 胸骨柄 頸切痕 多裂筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
28	体幹 筋 各脊椎棘突起 多裂筋	① ② ③	田島 亀山	演習	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
29	体幹 筋 各脊椎棘突起 多裂筋	① ② ③	田島 亀山	講義	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）の今回分を事前に読み理解しておくこと、および今回分の動画を視聴し、実技練習をしておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
30	触診について 臨床における触診	① ② ③	田島 亀山	演習	今までに学習したすべての筋を復習しておくこと（30分）	授業内容の長期記憶化(30分)
	定期試験（筆記及び実技）					

評価基準・評価方法

小テスト、実技チェック、臨床対応力（被検者などに対する態度・言葉使い）、期末試験（筆記・実技）100%評価については第1回講義で詳細に明示します。評価方法で分からないところがあればいつでも確認してください。

使用教科書

運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）改訂第2版 / 林典雄.--メジカルビュー社--978-4-7583-1137
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 第3版 / 坂井建雄ほか監訳.--医学書院, 978-4-260-02534-8

参考図書

- ・配布資料（体表サブブックなど）
- ・ビジュアル版 筋肉と関節のしくみがわかる事典 竹井 仁 著(西東社)

課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストの返却
備考	臨床における全ての治療の基本である体表解剖の知識は、いわば臨床において知っていて当たり前知識であることを認識し、ひたすら努力して習得するようにして下さい。覚える内容は明瞭です。ただ、量が多いため毎日の積み重ねが大変重要になります。授業では”治療者”としての知識を持ちながら”患者”に接するよう心がけてください。毎回小テストを実施し、できる限り早く返却します。覚えきれていないところ、理解していないところを確認して次につなげるようにして下さい。授業時間内に理解できないところがあれば、できる限り早く質問にきてください。y.tajima@heisei-iryuu.ac.jp

授業科目名		担当教員				
生理学Ⅰ（動物的機能）		川島 卓				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
生理学の外界に対して反応する機能（動物的機能）全般について講義する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①末梢神経系と中枢神経系の働きを学び人の感覚情報をもとにいかにより運動が起こされるかを理解する。 ②正常な生理機能の理解をもとに、神経障害などに伴う各種病態症状についての原因を正しく理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	生理学について／細胞機能の基礎 体液組成、細胞の構造、細胞の物質移動	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
2	細胞の興奮発生／神経細胞 興奮移動 膜電位 興奮の伝導	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
3	筋の収縮／骨格筋の構造 筋肉の収縮 筋収縮力学 筋のエネルギー発生	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
4	シナプス伝達／神経筋伝達 平滑筋 中枢神経系の情報伝達 神経伝達物質 シナプスの可塑性	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
5	自立神経系／交感神経・副交感神経の内臓諸器官への作用	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
6	脊髄／脊髄反射 誘発筋電図	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
7	脳幹 小脳①／脳幹の姿勢反射 小脳の神経回路	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
8	小脳②基底核／小脳と大脳協調 小脳障害 基底核の神経経路 基底核障害	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
9	大脳／運動の起動と出力	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	体性感覚／皮膚受容器 神経伝導路 大脳感覚野	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
11	味覚 嗅覚 聴覚 前庭感覚／感覚受容器 神経伝導路 大脳中枢	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
12	視覚①／網膜 視物質 視覚の中核	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
13	視覚②／感覚としての視覚 眼球運動	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
14	脳の高次機能 1／大脳の神経回路と機能 連合野機能 言語機能	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
15	脳の高次機能 2／大脳辺縁系 視床下部 記憶 睡眠 脳波	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
学期末定期試験の成績による (100%)。						
使用教科書						
生理学テキスト / 大地睦男.--第8版--文光堂, 2017年, ISBN978-4-8306-0229-0						
参考図書						
・標準理学療法学・作業療法学 生理学 岡田隆夫、長岡正範 医学書院 ・コメディカル 専門基礎科目シリーズ 「生理学」桑名俊一 荒田晶子 編著／理工図書 ・神経科学―脳の探求 ベイヤーズ 他 西村書店						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		教科書以外に、関連項目のプリントを適宜配布する。				

授業科目名		担当教員				
生理学Ⅱ（植物的機能）		川島 卓				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
生理学の生命維持に関する機能（植物的機能）全般について講義する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①生命機能維持にはどうしても必要な人体の植物的機能の知識と理解を深める。 ②病態症状の原因を正確に理解すること。 専門科目習得のための基礎知識となる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	血液①／血漿と血漿タンパク質 赤血球	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
2	血液②／白血球 免疫 血液型 血小板 血液凝固 線維素溶解	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
3	心臓①／心臓の構造 心臓内伝導系 自律神経による調節	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
4	心臓②／心筋の収縮 心電図 心臓の収縮	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
5	循環①／血管系の区分 血圧調節	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
6	循環②／静脈系の循環 動脈血圧 循環調節 特殊部位の循環	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
7	呼吸①／呼吸のメカニズム	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
8	呼吸②／肺のガス交換 呼吸運動の調節	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
9	消化と吸収①／消化管の構造と神経支配 消化管運動	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	消化と吸収②／消化液の分泌 栄養素の分解吸収	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
11	内分泌①／ホルモン 視床下部 下垂体	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
12	内分泌②／甲状腺 副腎 膵臓 性ホルモン	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
13	生殖／男性・女性生殖生理 妊娠	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
14	腎機能／ネフロン構造、糸球体ろ過 体液調節	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
15	代謝と栄養／日常の生理学	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
期末定期試験成績による (100 %)。						
使用教科書						
生理学テキスト / 大地睦男.--第8版--文光堂, 2017年, ISBN978-4-8306-0229-0						
参考図書						
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 岡田隆夫、長岡正範 医学書院 ・コメディカル 専門基礎科目シリーズ 「生理学」 桑名俊一 荒田晶子 編著/理工図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考	教科書以外に、関連項目のプリントを適宜配布する。					

授業科目名		担当教員				
生理学演習		河合 克尚・藤橋 雄一郎・植木 努（代表教員 河合 克尚）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	演習 オムハス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚（理学療法士）・藤橋雄一郎（理学療法士）・植木努（理学療法士）				
授 業 概 要						
生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を演習を通して確認し、理解を深める。動物の生理学では、神経や筋の組織観察をもとに筋の活動や生化学反応の観察を行ったり、筋電計の測定を実施する。植物的生理学では、体温、心電計、呼吸機能の測定を実施する。また、グループワークを通して、測定結果から実際の生体反応についてを考察する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①誘発筋電図より、神経線維の種類や伝道速度について理解する。 ②体温の身体部位による違いと体温調節の仕組みを理解する。血圧、脈拍が神経性に調節される仕組みを理解する。 ③心電図および呼吸機能検査（スパイロメトリー、フローボリューム曲線）について理解する。 ④観察した組織について、その組織（器官）の構造と機能の関係について理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	誘発筋電図 <教科書：第6章（運動系）>	①	藤橋		生理学にて学んだ「神経伝導の法則」について復習しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
2	誘発筋電図 <教科書：第6章（運動系）>	①	藤橋		生理学にて学んだ「神経線維（運動・感覚神経）」の分類について確認しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
3	誘発筋電図 <教科書：第6章（運動系）>	①	藤橋		誘発筋電図について確認しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
4	誘発筋電図 <教科書：第6章（運動系）>	①	藤橋		誘発筋電図について確認しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
5	脈、血圧、体温 <教科書：第14章（循環）第21章．Ⅲ（体温）>	②	植木		脈、血圧、体温について確認しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
6	脈、血圧、体温 <教科書：第14章（循環）第21章．Ⅲ（体温）>	②	植木		脈、血圧、体温について確認しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
7	脈、血圧、体温 <教科書：第14章（循環）第21章．Ⅲ（体温）>	②	植木		脈、血圧、体温について確認しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
8	脈、血圧、体温 <教科書：第14章（循環）第21章．Ⅲ（体温）>	②	植木		教科書：第14章（循環）第21章．Ⅲ（体温）について確認しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
9	心電図と呼吸機能の測定	③	河合		教科書（第13章：心臓、第15章：呼吸）に目を通しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	心電図と呼吸機能の測定	③	河合		教科書（第13章：心臓、第15章：呼吸）に目を通しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
11	心電図と呼吸機能の測定	③	河合		教科書（第13章：心臓、第15章：呼吸）に目を通しておくこと（20分）	レポート課題に取り組むこと（40分）
12	顕微鏡による組織観察（神経、筋を中心に）	④	河合		主に神経細胞、筋細胞の構造を学習しておくこと（30分）	授業で観察した組織について、構造と役割を復習しておくこと（30分）
13	顕微鏡による組織観察（神経、筋を中心に）	④	河合		主に神経細胞、筋細胞の構造を学習しておくこと（30分）	授業で観察した組織について、構造と役割を復習しておくこと（30分）
14	顕微鏡による組織観察（神経、筋を中心に）	④	河合		主に神経細胞、筋細胞の構造を学習しておくこと（30分）	授業で観察した組織について、構造と役割を復習しておくこと（30分）
15	顕微鏡による組織観察（神経、筋を中心に）	④	河合		主に神経細胞、筋細胞の構造を学習しておくこと（30分）	授業で観察した組織について、構造と役割を復習しておくこと（30分）
	レポート提出					
評価基準・評価方法						
評価方法は、レポート（100%）とする。						
使用教科書						
配布資料						
参考図書						
・生理学テキスト（文光堂） ・その他適宜紹介する						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポートはコメントを記載しフィードバックします。					
備考	質問等がある場合は、授業中やオフィスアワーを積極的に活用して下さい。					

授業科目名		担当教員				
運動学総論		堀 信宏				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）				
授 業 概 要						
運動学は人の身体運動の仕組みに関する学問です。動作や活動の改善を求める理学療法士・作業療法士にとって基礎となります。講義では「骨・関節・筋・神経」の解剖と、運動を解釈するための「力学」、日常生活の基本となる「姿勢・歩行」を学習します。これらの複数の視点から人の動作や活動を捉え理解を進めることで、障害者が「何故動けなくなるのか」が見えてきます。						
学 修 の 到 達 目 標						
①人の運動・姿勢を捉えるための筋・骨・関節・神経の基礎を学ぶ。 ②力学の基礎を理解する。例題を通じて解き方を理解し、国家試験問題を解けるようにする。 ③バランス・姿勢・歩行の基礎知識を学び、異常姿勢・異常歩行を説明できるようにする。運動学習を学ぶ。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	身体運動の軸と面、および運動の名称（方向）	①	堀	講義	テキストp.14を読 んでおきましょう （120分）	ワークシートと小テ ストの内容を理解し ておきましょう （120分）
2	運動器の構造と機能（骨）	①	堀	講義	基礎運動学のp.60- 66を読んでおきまし ょう（120分）	ワークシートと小テ ストの内容を理解し ておきましょう （120分）
3	運動器の構造と機能（関節）	①	堀	講義	テキストp.12-14を 読んでおきましょう （120分）	ワークシートと小テ ストの内容を理解し ておきましょう （120分）
4	運動器の構造と機能（筋の構造）	①	堀	講義	テキストp.15-17を 読んでおきましょう （120分）	ワークシートと小テ ストの内容を理解し ておきましょう （120分）
5	運動器の構造と機能（筋の収縮）	①	堀	講義	テキストp.18-20を 読んでおきましょう （120分）	ワークシートと小テ ストの内容を理解し ておきましょう （120分）
6	運動器の構造と機能（神経）	①	堀	講義	基礎運動学のp.88- 93を読んでおきまし ょう（120分）	ワークシートと小テ ストの内容を理解し ておきましょう （120分）
7	生体力学の基礎1（運動の法則，仕事，速度 など）	②	堀	講義	テキストp.2-6を読 んでおきましょう （120分）	ワークシートと小テ ストの内容を理解し ておきましょう （120分）
8	生体力学の基礎2（てこ，剛体など）	②	堀	講義	テキストp.7-10を読 んでおきましょう （120分）	ワークシートと小テ ストの内容を理解し ておきましょう （120分）
9	生体力学を用いた計算	②	堀	講義	力学の配布資料を理 解しておきましょう （120分）	計算問題の解き方を 修得しておきまし ょう（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	姿勢（重心，支持基底面）	③	堀	講義	テキストp.112-114を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう（120分）
11	姿勢（姿勢制御・バランス）	③	堀	講義	テキストp.114-119を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう（120分）
12	正常歩行1（歩行周期，歩幅，ケイデンスなど）	③	堀	講義	テキストp.122-126を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう（120分）
13	正常歩行2（歩行時の関節の動き，筋活動，重心移動など）	③	堀	講義	テキストp.127-129を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう（120分）
14	異常歩行	③	堀	講義	テキストp.130-131を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう（120分）
15	運動学習	③	堀	講義	テキストp.134-142を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう（120分）
	中間試験を1回，定期試験1回，合計2回実施					
評価基準・評価方法						
試験は中間試験と期末試験の，計2回試験実施する．試験範囲はシラバスの1～6（中間），7～14（期末）．シラバス15はテスト範囲から除外．中間試験と期末試験の総得点を100％として本試を評定する．再試験は全範囲とする．						
使用教科書						
基礎運動学 / 中村隆一ほか．--第6版補訂--医歯薬出版，2015年，ISBN978-4-263-21153-3 15 レクチャーシリーズ 理学療法作業療法テキスト運動学 / 小島悟責任編集--中山書店，2012年，ISBN978-4-521-73664-8 講義後に小テストを実施する．						
参考図書						
・PT/OT国家試験対策ワークブック計算問題，川島圭司著，医歯薬出版，2017 ・PTOT基礎から学ぶ運動学ノート，中島雅美，医歯薬出版，2016						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テスト後，授業内で実施する．					
備考	本講義は内容が濃く，範囲が広いので2つに分けて知識の修得を目指す．それぞれのテスト範囲毎にしっかり取り組むこと．再試験は範囲が広がるので注意すること（シラバス1～14）．毎回，ワークシートを配布します．授業後の復習に活用してください．					

授業科目名		担当教員				
臨床運動学		曾田 直樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹（理学療法士）				
授 業 概 要						
ヒトの関節の特徴をバイオメカニクスの観点からその動きを理解することを目的とする。またその理論に基づき骨関節機能障害学や骨関節治療技術、病態運動学、動作分析への応用を学習できることを期待する。講義ではグループでのディスカッションやディベートを行い理解を深めていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①上肢の解剖学について理解できる。 ②下肢の解剖学について理解できる。 ③上肢の運動学について理解できる。 ④下肢の運動学について理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	概論：筋の走行と軸と面の関係、筋肉の役割について	① ② ③ ④	曾田	講義		授業内容の復習をすること（60分）
2	肩関節：肩甲上腕関節の機能	① ③	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
3	肩関節：第2肩関節の役割について	① ③	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
4	肩関節：肩甲胸郭関節の役割について	① ③	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
5	肘関節：肘関節に付着する靱帯について	① ③	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
6	肘関節：回内・回外運動のメカニズム	① ③	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
7	手関節：掌屈・背屈のメカニズム	① ③	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
8	手関節：手関節の靱帯・筋肉	① ③	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
9	股関節：下肢のアライメント、股関節に付着する靱帯	② ④	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	股関節：股関節周囲筋の役割	② ④	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
11	膝関節：特徴的な動き・アライメント	② ④	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
12	膝関節：筋肉、半月板の役割	② ④	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
13	足関節：骨の構造、底屈・背屈のメカニズム	② ④	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
14	足関節：靭帯・筋肉について	② ④	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
15	上肢および下肢の解剖学と運動学について	① ② ③ ④	曾田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視 評価方法：中間試験（45%）、期末試験（45%）、態度・意欲（小テスト、授業参加度など）にて総合的に判断する。						
使用教科書						
参考図書						
・筋骨格系のキネシオロジー 原著：Donald A 監訳：島田智明ら 医歯薬出版株式会社						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義内で答えなどを解説					
備考						

授業科目名		担当教員				
運動学演習		曾田 直樹・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保（代表教員 曾田直樹）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習 ねこバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹（理学療法士）、大場かおり（理学療法士）、田島嘉人（理学療法士）、石田裕保（理学療法士）				
授 業 概 要						
運動学総論、臨床運動学で学んだ知識を演習によって確認する。生体が運動や動作を実施したときの反応を測定し、データを用いて研究報告レポートを作成する。測定機器は理学療法士に関連の深いものを使用しますので、その取り扱いに習熟できるよう努力して下さい。レポート作成においては、基礎知識と実際の測定データを比較し自分なりの考察をすることで、運動についての理解が深まる。グループワークを通じて運動学の理解を深める。						
学 修 の 到 達 目 標						
①グループ活動を通じて協力、報告、連絡、相談の重要性を学ぶ。 ②平衡機能・筋力・歩行分析を測定する意義を説明できる。 ③平衡機能・筋力・歩行分析を機器を用いて評価することができる。 ④平衡機能・筋力・歩行分析の結果の意味を考察することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動学演習オリエンテーション	① ② ③ ④	曾田			レポートの作成 (60分)
2	演習内容の説明	① ② ③ ④	曾田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
3	レポート作成について	① ② ③ ④	曾田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
4	重心動揺（意義）	① ② ③ ④	大場		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
5	重心動揺（測定方法）	① ② ③ ④	大場		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
6	重心動揺（実施）	① ② ③ ④	大場		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
7	重心動揺（論文作成）	① ② ③ ④	大場		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
8	筋機能測定（意義）	① ② ③ ④	曾田 田島		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
9	筋機能測定（測定方法）	① ② ③ ④	曾田 田島		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	筋機能測定（論文作成）	① ② ③ ④	曾田 田島		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
11	筋機能測定（論文作成）	① ② ③ ④	曾田 田島		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
12	歩行分析（意義）	① ② ③ ④	石田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
13	歩行分析（測定方法）	① ② ③ ④	石田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
14	歩行分析（実施）	① ② ③ ④	石田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
15	歩行分析（論文作成）	① ② ③ ④	石田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
	レポート提出					
評価基準・評価方法						
評価基準および評価方法：グループ活動への取り組み状況（10%）、研究レポートの内容（90%）						
使用教科書						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義内で解説					
備考	オフィスアワー 曾田 月曜日 12:15～13:15 大場 火曜日 16:30～17:30 田島 水曜日 16:30～17:30 石田 火曜日 16:30～17:30					

授業科目名		担当教員				
人間発達学		大森 正英				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 前学期	1単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
人間の胎生期から老年期までの身体的発達と心理的発達の主要な現象を取り上げ講義する。新生児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、中年期、老年期の基本的な特徴について、生物学的な面のみならず社会とのかかわりの中で複雑に発達していく過程に関する理解を深め、医療関係者として必要な知識、応用技術を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①人間の発達段階の特徴を理解する ②小児期の重要性を広く理解する ③発達と環境、文化との関連を正しく認識する ④青年期の特徴と重要性について理解を深める ⑤中年期～老年期の変化の実態を把握する ⑥学んだ知識を実生活ならびに医療関連の仕事に生かす						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	人間の発達の特徴	① ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
2	人間の本能と行動	① ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
3	胎生期から誕生へ	① ②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
4	乳幼児の発育と発達	① ② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
5	子どもの身体発育発達に影響する因子	② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
6	身体発育の指標	① ② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
7	子どもの心の発達	① ② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
8	幼児～学童の運動機能	① ②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
9	小児栄養	① ② ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	小児期の発達障害、疾病	① ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
11	青年期の身体的、心理的発達	① ④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
12	中年期における心身の変化と人間としての成長、発達	① ⑤			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
13	老年期における心身の変化と日常生活	⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
14	老化の進展と健康	① ⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
15	超高齢社会の人間発達学	① ⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価基準：専門的な知識の修得と講義内容の理解を重視。専門用語を用いて現象を理解し、説明する能力を評価する。従って、試験問題には、記述問題を半数出題する。 評価方法：筆記試験ならびに適時提出を求める課題（レポート）によって行う。評価割合はそれぞれ90%、10%						
使用教科書						
人間発達学 ヒトはどう育つのか / 竹下研三.--中央法規，2009年，ISBN978-4-8058-3096-3						
参考図書						
その都度、講義時間に紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		修得すべき知識が多いので、個々の知識を体系化し、相互に関連づけて記憶するように努めること。課題や試験問題に対する解説はその都度行う。在学時の質問は随時、受け付ける。メール等による質問も歓迎するが、学務課経由でお願いしたい。				

授業科目名		担当教員				
病理学概論		武内 康雄・山本 容正（代表教員 武内 康雄）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	2単位(30時間)	講義 机2ハス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		武内康雄（医師）				
授 業 概 要						
病気を引き起こす原因を、病気の捉え方の歴史的移り変わりとともに概論で解説する。次いで、病気の状態を大きく、代謝異常、循環障害、炎症と免疫、進行性病変、腫瘍、老化、先天異常と奇形に分類し、それぞれの病的状態に見られる変化を分かりやすく解説する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①変性と化生、炎症と免疫、循環障害の病態病理の概要を説明できる。 ②代謝障害、遺伝子異常、先天異常、老化の概要を説明できる。 ③腫瘍の病理学的分類を説明でき、腫瘍発生のメカニズムや治療法を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	病気と病理学	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
2	細胞の異常－変性、化生、再生、修復	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
3	先天異常	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
4	循環障害（１）循環系の働き、出血と凝固	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
5	循環障害（２）虚血と梗塞、血圧異常、疾患と病態	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
6	代謝異常	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
7	老化	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
8	感染と感染症（１）感染症と病原体	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
9	感染と感染症（２）感染症の発症と防御機構	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	免疫機構と免疫異常（１）免疫機構と疾患	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
11	免疫機構と免疫異常（２）再生医療	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
12	炎症	①	山本		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
13	腫瘍（１）腫瘍の分類	③	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
14	腫瘍（２）癌の特性	③	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
15	腫瘍（３）腫瘍マーカー診断、治療	③	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。（120分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。（120分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
期末筆記試験100%						
使用教科書						
なるほど なっとく！ 病理学病態形成の基本的なしくみ / 小林正伸. 第2版--南山堂, 2019年, ISBN978-4-525-15162-1						
参考図書						
大橋健一、谷澤 徹、藤原正親、柴原純二著 「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①」 (医学書院)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	試験解答の一部を公開する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
内科学		近藤 直実・平野 智久・山本 眞由美・高田 信幸・坂 義人・古田 弥生（代表教員 近藤 直実）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 机2バス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		近藤直実（医師）、平野智久（医師）、山本眞由美（医師）、高田信幸（医師）、坂義人（医師）、古田弥生（看護師）				
授 業 概 要						
内科系疾患などの病態・診察・診断・治療について、およびそのアプローチを学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各論としては循環器系、代謝、内分泌系、消化器系、腎臓疾患、呼吸器系、血液疾患など、実際の理学療法に関連性の高い疾患を中心に学修し、概要を説明することができる。 近年重要性が増している予防医学についての基礎知識の概要説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	循環器分野①心臓の解剖、生理や虚血性心疾患、不整脈などについて学習する。	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
2	循環器分野②	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
3	循環器分野③	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
4	代謝・内分泌分野①糖尿病の病態・機序・合併症・治療について学ぶ	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
5	代謝・内分泌分野②肥満・メタボリック症候群を中心に代謝疾患について学ぶ	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
6	代謝・内分泌分野③内分泌疾患の種類と機序について学ぶ（間脳・下垂体、甲状腺、副腎を中心に）	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
7	消化器分野①生体維持の基本となる消化器疾患について学ぶ。	①	古田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
8	消化器分野②	①	古田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
9	腎臓器疾患①腎臓機能障害について学習する。	①	坂		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	腎臓器疾患②	①	坂		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
11	呼吸器分野①呼吸器機能の基礎と呼吸器疾患全般について学ぶ。	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
12	呼吸器分野②	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
13	呼吸器分野③	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
14	呼吸器分野④	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
15	血液疾患 血液疾患について学ぶ。	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験（90%）、小テスト（10%）						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 内科学 / 鎌倉矩子ほか監修. --第3版（7刷）--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-01707-7						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストなどにコメントして返却など					
備考						

授業科目名		担当教員				
整形外科学		西本 裕				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		西本裕（医師）				
授 業 概 要						
運動器の外傷、疾患について、病因、経過、診断法、治療法を概説する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①骨、関節、靱帯、筋肉、末梢血管、脊髄、末梢神経の損傷、障害について述べるができる。 ②筋、骨格系の感染症、腫瘍、先天異常、発育障害、関節リウマチ、骨粗鬆症を含む代謝疾患、退行性疾患など整形外科的疾患について述べるができる。 ③特に、脊椎固定術、人工関節置換術を中心に生体内人工材料にとって必要な条件、体内での経過について理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動器の外傷、障害 総論	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
2	上肢の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
3	下肢の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
4	区画症候群、複合性局所疼痛症候群	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
5	体幹の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
6	脊髄損傷	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
7	骨関節感染症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
8	関節リウマチ	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
9	関節退行性疾患	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	循環障害、骨端症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
11	先天異常、発育障害、神経筋疾患、側弯症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
12	骨粗鬆症を含む代謝疾患	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
13	骨・軟部腫瘍	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
14	脊椎退行性疾患、絞扼性神経障害	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
15	生体内人工材料	③	西本	講義	第8,9,14回の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
毎回のミニテスト(25%)、定期試験(75%)						
使用教科書						
標準整形外科学 / 井樋栄二ほか監修.--第14版--医学書院, 2020年, 978-4260038805						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回、前回のミニテストへの全体的講評。 定期試験については、解答例を掲示する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
神経内科学		木村 暁夫・下畑 享良・林 祐一・山田 恵・吉倉 延亮・竹腰 顕 (代表教員 木村 暁夫)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 机2ハス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		木村暁夫(医師)、下畑享良(医師)、林祐一(医師)、山田恵(医師)、吉倉延亮(医師)、竹腰顕(医師)				
授 業 概 要						
①神経内科で扱う神経疾患の病態・診断・治療法について学び、理解を深める。 ②個々の神経疾患における障害部位・認められる神経学的異常所見・異常検査所見に関し理解を深める。 ③個々の神経疾患の治療の現状およびリハビリテーションの意義・注意点を理解する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①個々の神経疾患の疾患名と病態に関し理解し、診断・治療法に関して具体的に説明できる。 ②個々の神経疾患におけるリハビリテーションの必要性和施行時の注意点を理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	神経変性疾患Ⅰ(パーキンソン病)	① ②	下畑		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
2	神経変性疾患Ⅱ(パーキンソン関連疾患)	① ②	下畑		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
3	神経変性疾患Ⅲ(脊髄小脳変性症)	① ②	山田		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
4	神経変性疾患Ⅳ(運動ニューロン疾患)	① ②	山田		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
5	認知症(アルツハイマー型認知症)	① ②	吉倉		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
6	認知症(非アルツハイマー型認知症)	① ②	吉倉		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
7	免疫性神経疾患(重症筋無力症など)	① ②	木村		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
8	免疫性神経疾患(多発性硬化症など)	① ②	木村		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
9	末梢神経障害Ⅰ	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	末梢神経障害Ⅱ	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
11	筋疾患Ⅰ	① ②	林		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
12	筋疾患Ⅱ	① ②	林		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
13	頭部外傷・脊髄損傷	① ②	林		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
14	脳腫瘍	① ②	林		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
15	脳炎・脳症	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
定期試験 (80%)、授業への取り組み姿勢 (20%) など総合的に判断						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 / 鎌倉矩子ほか編集. --第5版--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03817-1						
参考図書						
・臨床のための脳局所解剖学 (中外医学社) ・神経内科ハンドブック 鑑別診断と治療第5版 (医学書院) ・全ての内科医が知っておきたい神経疾患の診かた、考え方とその対応 (羊土社)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	それぞれの担当教員は、国家試験問題を参考に試験問題を作成し、その結果をみて、次年度以降の講義の仕方を工夫する					
備考	理学療法士 作業療法士国家試験問題解答と解説 (医師薬出版編)					

授業科目名		担当教員				
精神医学		宮地 幸雄				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		宮地幸雄（臨床心理士）				
授 業 概 要						
精神疾患についての基本的知識並びに精神疾患を罹患した人との基本的な援助方法を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①臨床場面で援助方法の基本が活用できるようになる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	人が生きるということについてを考える。	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
2	自殺について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
3	精神医学の歴史について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
4	こころの発達と防衛機制について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
5	臨床心理検査について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
6	よくみられる精神症状についてーその 1	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
7	よくみられる精神症状についてーその 2	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
8	統合失調症についてーその 1	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
9	統合失調症についてーその 2	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感情障害について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
11	心因性精神障害について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
12	知的障害・発達障害について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
13	心理療法について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
14	チームアプローチについて	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
15	医療従事者の姿勢について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験で評価する						
使用教科書						
精神医学テキスト―精神障害の理解と治療のために / 上島国利ほか.―改訂第4版―南江堂, 2017, ISBN978-4-524-25942-7						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		講師は臨床心理士。非医師であるが、精神科病院での事例を提示し臨床現場の話をしてみたい。				

授業科目名		担当教員				
小児科学		近藤 直実・近藤 富雄・堀田 亮（代表教員 近藤 直実）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義 机2バス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		近藤直実（医師）、近藤富雄（医師）、堀田亮（臨床心理士）				
授 業 概 要						
小児はただ単に体の小さな成人ではなく、つねに成長発達をする存在である。罹患しやすい疾患についても年齢によって異なる。このような小児の特徴を理解することが重要である。						
学 修 の 到 達 目 標						
①胎児・新生児期および小児特有の生理・病態生理を理解し、説明することができる。 ②胎児から子供の誕生、そして成長し次世代の子供を持つまでをひとつのLife cycle と捉え、この成長過程における生理と病態生理を理解し、説明することができる。 ③子供のCommon Disease ,特有な疾患を理解し説明することができる。すなわち、子供がよく罹患する疾患、頻度は低い子供特有な疾患について病態・診断・治療、予防法を学ぶ。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	小児科概論 成長と発達	① ②	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
2	成長と発達	① ②	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
3	新生児と疾患	① ②	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
4	先天異常 遺伝病	① ②	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
5	神経、筋疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
6	神経、筋疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
7	循環器疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
8	消化器疾患、内分泌疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
9	血液疾患、腫瘍性疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	腎、泌尿器疾患、目、耳の疾患 等	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
11	呼吸器疾患	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
12	感染症	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
13	アレルギー免疫疾患	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
14	こころの病気、障害	③	堀田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
15	発達、心理検査	③	堀田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験(80%)、小テスト(20%)						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学 / 奈良 勲ほか監修. --第5版(3刷) --医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03434-0						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストなどにコメントして返却など					
備考	資料などにて補足説明を行う。					

授業科目名		担当教員				
リハビリテーション医学		西本 裕				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		西本裕（医師）				
授 業 概 要						
① 疾病と障害の違い、障害のとらえ方を理解する(1, 2, 4)。 ② 脳血管障害のリハビリテーションについて理解する(3, 5-8)。 ③ 内部障害のリハビリテーションについて理解する(9, 10) ④ 運動器リハビリテーションについて理解する(11, 12) ⑤ 感覚器障害のリハビリテーションについて理解する(13) ⑥ リハビリテーションの根拠について考察し、創造的な思考を養う(14, 15)。						
学 修 の 到 達 目 標						
医療、福祉の領域でリハビリテーション医学の立場を説明することができ、実践時にどのように応用されているかについて述べることができる。 ①疾病と障害の違い、障害のとらえ方を理解する ④運動器リハビリテーションについて理解する ②脳血管障害のリハビリテーションについて理解する⑤感覚器障害のリハビリテーションについて理解する ③内部障害のリハビリテーションについて理解する ⑥リハビリテーションの根拠について考察し創造的な思考を養う						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	リハビリテーションの実際	①	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)
2	運動学・生理学	①	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)
3	脳卒中のリハビリテーション（ADL障害、QOLについて）	②	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)
4	障害分類、FIM（Functional Independence Measure）	①	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)
5	高次脳機能障害	②	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)
6	運動療法	②	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)
7	嚥下障害のリハビリテーション	②	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)
8	排尿障害のリハビリテーション	②	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)
9	心疾患のリハビリテーション	③	西本	講義	教科書の該当部分を 確認 (120分)	講義内容の整理と 確認 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	呼吸器のリハビリテーション	③	西本	講義	教科書の該当部分を確認 (120分)	講義内容の整理と確認 (120分)
11	切断と義足・義手	④	西本	講義	教科書の該当部分を確認 (120分)	講義内容の整理と確認 (120分)
12	装具・杖と車椅子	④	西本	講義	教科書の該当部分を確認 (120分)	講義内容の整理と確認 (120分)
13	平衡機能障害・聴力障害・視力障害	⑤	西本	講義	教科書の該当部分を確認 (120分)	講義内容の整理と確認 (120分)
14	障害者スポーツ	⑥	西本	講義	教科書の該当部分を確認 (120分)	講義内容の整理と確認 (120分)
15	廃用症候群	⑥	西本	講義	第1-14回の講義内容、および教科書の該当部分を確認 (120分)	講義内容の整理と確認 (120分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
毎回のミニテスト(25%)、定期試験(75%)						
使用教科書						
PT・OT・ST・ナースを目指すひとのためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 / 椿原彰夫編著. --改訂第3版--診断と治療社, 2017年, ISBN978-4-7878-2345-8						
参考図書						
義肢装具のチェックポイント 第8版 医学書院, 2014年, 日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会, ISBN978-4-260-01744-2						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考						

授業科目名		担当教員				
老年医学		武内 康雄				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択必修	1年 後学期	1単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		武内康雄（医師）				
授 業 概 要						
老化と疾病は密接な関係にあり、その両面から障害を捉えなければならない。この講義では老化についての生理学的変化や能力的変化を整理し、老年期症候群、認知症、廃用症候群など高齢者特有の疾患について解説する。さらに種々の疾患について高齢者の特徴を概説するとともに、容易に寝たきりに移行しうる危険性が高いことについて触れる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①高齢者の生理的・病的変化を理解し、老年症候群の症状を10以上挙げて説明できる。 ②高齢者に多い循環器・呼吸器・消化器・骨運動器・精神・神経・内分泌・血液免疫・腎泌尿器・皮膚口腔・耳鼻咽喉・眼疾患について、疾患を挙げて説明できる。 ③高齢者の医療・看護・介護・福祉について理解し、リハビリテーション・終末期医療について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	老化と老年病の考え方、加齢に伴う生理機能の変化	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）
2	加齢に伴う運動機能・精神心理面の変化、性差医療からのアプローチ	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）
3	高齢者の定義および人口動態、高齢者との接し方、高齢者の機能評価	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）
4	高齢者の薬物療法の考え方、高齢者に多い症候と老年症候群	①	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）
5	老年症候群、循環器疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）
6	循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、骨・運動器疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）
7	呼吸器疾患、消化器疾患、骨・運動器疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）
8	骨・運動器疾患、神経疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）
9	精神疾患、内分泌代謝疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。（30分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	内分泌代謝疾患、血液免疫疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。(30分)
11	腎疾患、泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。(30分)
12	感染症、耳鼻咽喉疾患、眼疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。(30分)
13	東洋医学・老年学からのアプローチ、社会学・経済学から見た高齢社会	③	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。(30分)
14	高齢者の医療、看護、介護・福祉、保健、高齢者のリハビリテーション	③	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。(30分)
15	高齢者の退院支援、高齢者の終末期医療	③	武内		講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。(30分)	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。(30分)
	定期試験（筆記）	① ② ③	武内			
評価基準・評価方法						
期末筆記試験100%						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 / 大内慰義編. --第4版--医学書院, 2014年, ISBN978-4-260-01984-2						
参考図書						
適時紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	試験解答の一部を公開する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
スポーツ医学		松岡 敏男				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択必修	1年 後学期	1単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
スポーツ医学はスポーツに関して医学面とスポーツ科学の両面から考える大事な学問であることを理解し、スポーツ医学に関して知識を深める。スポーツ医学はスポーツ選手の競技力向上や健康増進に役立て、良いコンディショニング作りを行う事に理解を深める。医療現場ではアスレティックリハビリテーションとしてリハビリテーションの重要性に理解を深める。外科的及び内科的なスポーツ疾患に理解を深める。運動時の身体的変化・効果を理解する(運動生理学の理解)						
学 修 の 到 達 目 標						
①スポーツの現場で競技力向上に役立てるコンディショニング作りの方法を学ぶ。 ②スポーツ医療現場ではリハビリテーションのノウハウを学び、実践できる。 ③スポーツ全般(スキル、メカニズム、フィットネス)の動作と障害の関係性に関して理解できる。 ④スポーツ全般的な生理学の基礎知識(神経、筋、代謝、循環、内分泌、栄養)を理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	スポーツ医学概論 (スポーツドクター、アスレチックトレーナーについて)	①			スポーツ医学の取り扱う分野の理解(30分)	コメディカルと連携の重要性の復習(30分)
2	スポーツと運動生理学 (運動による神経・筋について)	④			運動と生理機能の関連性を予習(30分)	運動の働きを理解(30分)
3	スポーツと運動生理学 (運動による呼吸・循環・内分泌・代謝について)	④			運動と生理機能の関連性を予習(30分)	運動の働きを理解(30分)
4	スポーツ心理(メンタルトレーニングの必要性)について	④			スポーツ医学の取り扱う分野の理解(30分)	スポーツ分野ではあるがスポーツ医学での位置づけ理解を深める(30分)
5	スポーツ栄養学について	③			スポーツ医学の取り扱う分野の理解(30分)	スポーツ分野ではあるがスポーツ医学での位置づけ理解を深める(30分)
6	ドーピング(アンチ・ドーピング)について	②			スポーツ医学の取り扱う分野の理解(30分)	スポーツ分野ではあるがスポーツ医学での位置づけ理解を深める(30分)
7	トレーニング理論・トレーニング実践について	③			スポーツ医学の取り扱う分野の理解(30分)	スポーツ分野ではあるがスポーツ医学での位置づけ理解を深める(30分)
8	コンディショニング(オーバートレーニング・テーピング・アイシング・マッサージ)について	①			スポーツ医学の取り扱う分野の理解(30分)	スポーツ分野ではあるがスポーツ医学での位置づけ理解を深める(30分)
9	運動処方(メディカルチェック・アスレティックリハビリテーション)について	②			スポーツ医学の取り扱う分野の理解(30分)	スポーツ分野ではあるがスポーツ医学での位置づけ理解を深める(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	子供・女性・高齢者のスポーツ医学について	②			スポーツ医学の取り扱う分野の理解(30分)	スポーツ分野ではあるがスポーツ医学での位置づけ理解を深める(30分)
11	スポーツと内科的疾患(突然死・熱中症など)について	②			スポーツとの関連性を調べておく(30分)	疾患に関する理解とリハに関する知識を整理しておく(30分)
12	内科的疾患と運動・スポーツについて	②			スポーツとの関連性を調べておく(30分)	疾患に関する理解とリハに関する知識を整理しておく(30分)
13	スポーツと外科的疾患(部位別疾患)	②			スポーツとの関連性を調べておく(30分)	疾患に関する理解とリハに関する知識を整理しておく(30分)
14	スポーツと外科的疾患(部位別疾患)	②			スポーツとの関連性を調べておく(30分)	疾患に関する理解とリハに関する知識を整理しておく(30分)
15	特殊環境の傷害・スポーツ救急について	②			スポーツとの関連性を調べておく(30分)	疾患に関する理解とリハに関する知識を整理しておく(30分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験(100%)による評価						
使用教科書						
スポーツ指導者のためのスポーツ医学 / 改訂第2版—南江堂, 2009年, ISBN978-4-524-24034-0						
参考図書						
授業中に補足のプリントを配付します。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	重要課題に対してはノートでの確認、復習事項として授業内で再確認を行う。					
備考	資料、パワーポイントを使用し、説明を行います。 オフィスアワー：授業終了後に質問の時間を取ります。また質問紙による質問には、次回の授業時に回答します。					

授業科目名		担当教員				
公衆衛生学		大森 正英				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
公衆衛生学は社会や集団を対象とした医学であり、個人の心身の疾病予防、健康の保持増進に止まらず、高齢社会対策、社会福祉、環境保全ならびに環境汚染防止など、社会全体、時に全地球をも対象とした多岐にわたる内容から構成されている。個人の健康を対象とした臨床医学とは異なる面からも人間及び社会と健康との関わりについて考えるとともに、その実践に必要な知識と技術を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①公衆衛生学とは何か、その内容と適応範囲について理解する。 ②近代社会になぜ公衆衛生学が必須なのか理解する。 ③日本の健康の現状を知り、公衆衛生学が時代とともに変化、発展していくことを学ぶ。 ④疾病の予防について公衆衛生学の面から考える。 ⑤環境問題について環境衛生学の立場から理解を深める。 ⑥健康増進活動の実態と効果について公衆衛生学的な視野からの考え方を身に付ける。 ⑦公衆衛生学で学んだことを実生活や実務に役立てる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	公衆衛生学概論 公衆衛生学とは何か	①			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。 (120分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。 (120分)
2	健康の現状 疾病構造の変化と健康の現状	① ②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。 (120分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。 (120分)
3	人口と寿命 平均寿命、平均余命、高齢化	② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。 (120分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。 (120分)
4	社会保障、社会福祉、医療制度 社会を支える各制度について学ぶ	③ ④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。 (120分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。 (120分)
5	疫学 疫学の手法、疾病予防と疫学	② ⑤			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。 (120分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。 (120分)
6	環境衛生学 大気、水、環境汚染、食環境など、環境と健康の関り	⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。 (120分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。 (120分)
7	労働衛生、学校保健 職場、学校の健康を守る	④ ⑦			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。 (120分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。 (120分)
8	健康増進医学、公衆衛生活動の展開	④ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。 (120分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。 (120分)

評価基準・評価方法	
評価基準：公衆衛生学に関する基礎知識、理解度及び公衆衛生学的思考法の確立の度合いを評価する 評価方法：筆記試験ならびに課題(レポート)による。割合はそれぞれ90%, 10%	
使用教科書	
イラスト公衆衛生学 / 石川哲也.--東京教学社, 978-4-8082-6055-2	
参考図書	
適時、紹介する	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	
備考	課題や試験問題に関する解説はその都度行う。授業中の質問は随時、受け付ける。メール等による質問も歓迎するが、事務局経由でお願いしたい。

授業科目名		担当教員				
画像診断学		辻 圭一・河合 克尚・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎（代表教員 辻 圭一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		辻圭一（理学療法士）・河合克尚（理学療法士）・大場かおり（理学療法士）・石田裕保（理学療法士）・藤橋雄一郎（理学療法士）				
授 業 概 要						
理学療法の評価において、画像から症状を推論することは重要である。評価に用いられる画像はレントゲン写真、CT、MRI、MRAなどの静止画像から、歩行などの動作を記録した動画にまで至る。これらの患者情報を元に、治療に必要な検査や症状の予後予測が可能となる。本講義では、画像を読み取り、患者の状態を把握できる力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①画像の種類を知り、特性を理解できる ②画像を元に症状を把握できる ③画像を元に必要な検査を抽出できる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	画像の種類と特性	①	河合	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (120分以上)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (120分以上)
2	脳神経疾患における画像の特性	②	藤橋	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (120分以上)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (120分以上)
3	脳損傷と高次脳機能障害の関連について	③	大場	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (120分以上)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (120分以上)
4	内部機能障害におけるデータの診かた	① ②	河合	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (120分以上)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (120分以上)
5	運動器疾患における画像の診かた	① ②	辻	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (120分以上)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (120分以上)
6	運動器疾患における画像からの検査項目抽出	③	辻	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (120分以上)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (120分以上)
7	動画を用いた日常生活動作の評価	③	石田	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (120分以上)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (120分以上)
8	小児疾患における画像の特性	② ③	辻	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (120分以上)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (120分以上)
	定期試験					

評価基準・評価方法	
期末試験100%	
使用教科書	
PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版 / 中島雅美・中島喜代彦・大村優慈.--医歯薬出版株式会社, 978-4-263-26590-1	
参考図書	
適宜紹介する	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	期末試験の方式、準備の方法、試験範囲については第1回に連絡します。
備考	幅広い知識を求める講義ですので、個人的に必要と思われる他科目の教科書も持参するように。

授業科目名		担当教員				
リハビリテーション栄養学		久保 和弘				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
栄養素は身体のエネルギー源であると同時に、身体の構成要素である。栄養状態は過剰でも不足でも心身機能に大きな影響を及ぼすため、リハビリテーションに求められる全人的な評価の一つの要素として患者の状態を正しく評価することが求められている。本科目では、各栄養素の基本的な性質や働き、基本的な栄養評価方法を理解するとともに、身体における栄養の役割を学習し、医療者に求められる栄養学の基礎を構築することを目標とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
各栄養素の基本的な性質や働きについて学び、リハビリテーションにおける栄養学の必要性について説明できる。 ①各栄養素の性質や働きを説明することができる ②基本的な栄養・代謝障害について説明できる ③基本的な栄養評価方法を説明できる ④栄養不良や過栄養の身体への影響を説明できる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	リハビリテーションにおける栄養の重要性・概念	① ② ③ ④			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (120分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。 (120分)
2	糖質・食物繊維の栄養的意味を理解する	① ② ③ ④			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (120分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。 (120分)
3	たんぱく質・アミノ酸の栄養的意味を理解する	① ② ③ ④			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (120分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。 (120分)
4	脂質・脂肪酸の栄養的意味を理解する。	① ② ③ ④			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (120分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。 (120分)
5	ビタミンの栄養的意味を理解する。	① ② ③ ④			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (120分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。 (120分)
6	ミネラル・水分の栄養的意味を理解する。	① ② ③ ④			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (120分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。 (120分)
7	基本的な栄養評価方法を理解する。	① ② ③ ④			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (120分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。 (120分)
8	身体活動・エネルギーの栄養的意味を理解する	① ② ③ ④			資料及び教科書該当ページに目を通す。 (120分)	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。 (120分)
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験（100％）により評価する。	
使用教科書	
リハベリック 生化学・栄養学 / 内山靖、藤井浩美、立石雅子 編.--第1版--医歯薬出版，2020年，ISBN978-4-263-26752-3	
参考図書	
いずれも閲覧・ダウンロード可 ●「日本人の食事摂取基準（2015年版）確定検討会」報告書 http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041824.html ●国民健康・栄養調査 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html ●日本食品標準成分表2015年版（七訂） http://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/1365297.htm	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	提出された課題について，適宜，授業中に補足的な解説を行う
備考	教科書，プリントを中心に授業をすすめる。

授業科目名		担当教員				
薬理学		大津 航				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		大津 航（獣医師）				
授 業 概 要						
薬物による人間の反応や作用機序の理解、投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。あわせて、薬物の副作用やその多剤服用（ポリファーマシー）症状についても学ぶ。これらを理解することにより、臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。各授業の最初には、前回の授業内容を復習する時間（質問形式）を設ける。各授業の最後には、その日の授業のまとめを行い、重要なポイントを確認する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①薬物の使用目的や薬物の作用機序、体内動態について理解できる。 ②薬物の取扱い、投与方法、副作用について理解できる。 ③各種疾患に対する薬物療法について理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	薬理学総論	①	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。 (60分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。 。（60分）
2	薬理学各論 抗感染症薬	① ②	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。 (90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。 。（150分）
3	薬理学各論 抗がん薬	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。 (90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。 。（150分）
4	薬理学各論 免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。 (90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。 。（150分）
5	薬理学各論 末梢神経に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。 (90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。 。（150分）
6	薬理学各論 中枢神経に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。 (90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。 。（150分）
7	薬理学各論 心臓・血管系に作用する薬物1	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。 (90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。 。（150分）
8	薬理学各論 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。 (90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。 。（150分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
期末試験の成績（100％）及び授業態度等を総合的に判断して評価する。	
使用教科書	
系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 / 吉岡充弘ほか.--第14版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03184-4	
参考図書	
リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理／宮越浩一編．羊土社，2019年，ISBN978-4-7581-0243-8	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	質問は授業中及び授業の終わりに常時受け付けている。また授業の最初に前回の復習を行っているので、その際に質問も受け付けている。
備考	

授業科目名		担当教員				
医療安全管理論		眞田 正世				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(30時間)		講義・演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		眞田正世（看護師）				
授 業 概 要						
安全はあらゆる分野において最も肝要な事である。特に近年、医療安全は医療界の最優先課題となっている。ここでは、医療安全と医療事故の問題に焦点をあて学習を進めたい。まず医療安全管理を学ぶ意義を理解し、その上で医療安全の基本的考え方を学ぶ。また、医療事故とリハビリテーションにおける関係を知り、その上で医療事故防止の考え方や医療事故発生時の対応を学ぶ。また、リハビリテーション学科の学生としての医療安全を学ぶことで、実習における安全管理の在り方を学ぶ。演習では、医療事故防止の実際をKYTを活用し、臨地での対応に結び付ける。						
学 修 の 到 達 目 標						
知識：①医療安全の基本的考え方と医療事故防止について述べることができる。 技術：②医療事故の分析手法やKYTを活用し、考察することができる。 態度：③医療安全管理に興味を持ち、取り組む姿勢を持つことができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	医療安全を学ぶ意義	① ③		講義		医療安全の歴史、医療安全推進対策 (60分)
2	医療安全の基本的考え方：ヒューマンエラー	① ③		講義		ヒューマンエラー (60分)
3	医療安全の基本的考え方：医療安全の用語とモデル	① ③		講義		医療安全の用語 (60分)
4	医療事故とリハビリテーションとの関係	① ③		講義	医療安全の用語 (20分)	看護業務と医療事故 (40分)
5	医療事故防止の考え方：組織としてと個人としての医療事故防止対策	① ③		講義		組織と個人の医療事故防止(60分)
6	医療事故防止の考え方：医療分析手法と危険予知訓練	②		講義 演習		医療事故分析手法 (60分)
7	事故後の対応	① ③		講義		医療事故後の対応 (60分)
8	インシデントレポートと活用の実際	① ③		講義 演習		インシデントレポートの活用(60分)
9	学生における医療安全	① ③		演習		5S、個人情報保護、危険認知と報告 (60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医療事故防止の実際：体位・姿勢の保持・移動	②		演習	KYT(60分)	体位・姿勢(60分)
11	医療事故防止の実際 1	②		演習		環境整備・感染防止・医療廃棄物の取り扱い (60分)
12	医療事故防止の実際 2	②		演習		理学療法・作業療法・視機能訓練における事故防止の実際 (60分)
13	医療事故防止の実際 3	②		演習		理学療法・作業療法・視機能訓練における事故防止の実際 (60分)
14	臨床における医療安全の実際	① ③		講義		
15	臨床における医療事故の実際	① ③		講義		臨床における医療事故防止(60分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
履修態度（20％）、筆記試験（80％）での総合評価						
使用教科書						
参考図書						
系統看護学講座 総合分野 医療安全（医学書院） R C A の基礎知識活用事例、等その他適宜紹介 学研eナッシング 厚生労働省の医療安全研修資料						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	レポート等に関してはコメントを記入する。または次回講義で説明をする。					
備考	教科書は特別使用しないが、必要時書籍紹介する。授業は毎回、パワーポイント使用して進める。 関連する教科と結び付けて学習し、単に知識に止まらず実践的能力として身につけてほしい。よって、積極的に学び取る姿勢で臨んでほしい。グループワークなどの演習も取り入れ出来るだけ参加型授業形態をとり、共に楽しく学べる授業としたい。（大声での雑談等で、授業を乱す学生は状況により退室とするが、教室全体の問題として当事者学生以外の学生に判断を委ねる）					

授業科目名		担当教員				
保健医療論		松岡 敏男				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 前学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
現在、健康や医療に関する情報が氾濫している。多くの情報の何が正しいのか、自分に本当に役にたつのか、また何を を取り入れ、実践すれば健康を維持、増進させることができるのか戸惑うばかりである。健康に良いとされていること であっても間違った方法を実践すれば健康を害することもある。また生活習慣により引き起こされる疾病も多く、日常 生活の重要性を考えさせられる。学生時代に正しい健康観を学ぶこと、並びによりよいライフスタイルを身につけ、健 康生活を実践できるようにすることと、医療に関するいろいろな問題に正しく理解が出来るような講義を行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①学生として将来に継続できる正しい健康感を身につけ、よりよい生活習慣の実践を行い、健康的な生活ができるよう に健康を学習する。 ②そしてそのために努力できるように心がける態度を身に着ける。 ③活力ある学生生活とはどのようなものかを理解する。 ④医療制度に関心を持ち、自分たちで解決できることを考え、より良いものにするための方向を模索する。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	健康について（健康感・医療・福祉など）	①			健康観に関して考 えておく（120分）	将来にわたる健康に 取り組む姿勢を作る （120分）
2	健康について（睡眠、日光浴、タバコ、温泉）	①			健康関連事項の正し い理解について （120分）	健康生活を送れるよ うに正しい健康理解 （120分）
3	健康について 運動の効果 ウォーキング・ジョギング	③			運動の功罪に関して 予習する（120分）	運動の正しい理解を する（120分）
4	運動処方・療法 ダイエットの功罪	②			運動の理解を深め健 康手段として取り入 れる方法に関して予 習する。（120分）	運動の正しい行い方 の理解をする（120分 ）
5	生活習慣病－肥満、糖尿病	②			生活習慣病とはどの 様な病気なのかを調 べておく（120分）	生活習慣の見直しを 考える（120分）
6	生活習慣病－高血圧、脂質異常、高尿酸血症	②			生活習慣病とはどの 様な病気なのかを調 べておく（120分）	生活習慣の見直しを 考える（120分）
7	高齢者・中年の健康・生活について	③			高齢者の生活・医療 に関して調べる （120分）	高齢者の実情の把握 、問題点の整理 （120分）
8	医療・保健に関して	④			医療に関する諸問題 に関して調べる （120分）	医療に関する問題点 の整理（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験（100％）により評価する。	
使用教科書	
教科書は使用しない。	
参考図書	
毎回授業に関するプリントを配布する。シラバスに掲げている関係事項についていろいろな書物や参考に記事などを調べること。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	重要課題に対して翌週授業時に復習の意味で問題点に関して話し合う時間を設ける。
備考	

授業科目名		担当教員				
社会福祉学		竹内 章郎				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
現在、社会福祉を含む社会保障全体が、大きな転換点にある。それは、社会保障を支える福祉国家体制それ自体の「危機」という大きな問題からくるものであるが、同時に、社会保障の基盤である社会権（法）の基本的理解の問題や資本主義市場と社会保障との関係などにも及ぶ問題から生じていることもある。この講義ではそうした大きな問題を、社会福祉の現場実践と関係づけて捉えることを通じて、社会福祉・社会保障の本質を解明したい。事前学習については、毎回、次回講義のための事前学習の範囲を指定する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①社会福祉を含む社会保障の現実を、その基礎に立ち返って理解する。 ②大きな制度的問題と社会福祉実践の現実とを結び付けて理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス（全体の進行について）、社会福祉と社会保障との関連について（善き生存としての福祉を中心に）	①			既配布の資料全体に目を通しておく（120分）	左記の講義内容とこれに関わる資料の再読（120分）
2	日本の社会保障・社会福祉の基礎：憲法25条（13条との関連）：プログラム規定・義務規定/行政裁量の理解	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
3	福祉国家体制の由来、措置制度と契約制度、福祉職と医療職、福祉の民営化・市場化問題	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
4	権利としての社会保障（1）：市民権と社会権との相違、私的所有と市民権	①			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
5	権利としての社会保障（2）：社会権の基礎、憲法14条との関連、申請主義の問題	①			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
6	福祉六法体制とそれ以降、戦後日本の社会保障制度の流れ	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
7	貧困問題と生活保護、社会手当制度、労災保険制度、雇用保険制度、年金保障制度	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
8	障害者福祉制度、子ども手当制度、高齢者福祉制度（公的介護保険制度）	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）

評価基準・評価方法	
最終のレポートによって評価する。講義内容の正確な理解に加えて、内容を表現する文章力も評価の対象とする。	
使用教科書	
教科書は使用せず、竹内が作成したレジメ及び資料にそって講義を行う。	
参考図書	
必要に応じて、講義中に紹介する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義中に、適宜、質疑応答を行う。
備考	資料及びレジメは、すべて、最初の講義時に配布する。

授業科目名		担当教員				
多職種連携演習（IPE）		田島 嘉人・亀山 咲子・他（代表教員 田島 嘉人）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位(30時間)	講義 ねこバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		田島嘉人（理学療法士）、亀山咲子（理学療法士）				
授 業 概 要						
地域包括ケアを実践する上で、医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。この授業では、専門職間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実践についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学科専攻を越えたグループワーク演習を通じて、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①多職種連携の意義について説明できる。 ②他の職種の役割を説明できる。 ③保健・医療・福祉における多職種連携の在り方を具体的に説明できる。 ④様々な職種の人々との共同を通して、保健・医療・福祉の諸課題に対処できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション 多職種連携とは	①	田島 亀山	講義	配布資料にて事前学習（120分）	配布資料にてレポート（120分）
2	多職種連携の意義 医療・福祉の中での理学療法士の役割	① ②	田島 亀山	講義	配布資料にて事前学習（120分）	配布資料にてレポート（120分）
3	多職種の役割を知る（1）	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習（120分）	今回学んだ職種について自己学習（120分）
4	多職種の役割を知る（2）	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習（120分）	今回学んだ職種について自己学習（120分）
5	多職種の役割を知る（3）	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習（120分）	今回学んだ職種について自己学習（120分）
6	多職種の役割を知る（4）	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習（120分）	今回学んだ職種について自己学習（120分）
7	多職種の役割を知る（5）	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習（120分）	今回学んだ職種について自己学習（120分）
8	多職種の役割を知る（6）	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習（120分）	今回学んだ職種について自己学習（120分）
9	多職種の役割を知る（7）	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習（120分）	今回学んだ職種について自己学習（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	多職種連携演習（１）	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習（120分）	配布資料にてレポート（120分）
11	多職種連携演習（２）	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習（120分）	配布資料にてレポート（120分）
12	多職種連携演習（３）	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習（120分）	配布資料にてレポート（120分）
13	多職種連携演習（４）	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習（120分）	配布資料にてレポート（120分）
14	多職種連携演習（５）	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習（120分）	配布資料にてレポート（120分）
15	多職種連携で必要とされる知識・技術の整理	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習（120分）	配布資料にてレポート（120分）
	課題					
評価基準・評価方法						
グループディスカッション参加度（50%）、レポート（期限提出）（50%）						
使用教科書						
参考図書						
配布資料						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	各講義の講義終了時に全体に向けてフィードバックを行う。					
備考						

リハビリテーション学科 理学療法専攻

専門科目

授業科目名		担当教員				
理学療法総論		長谷部 武久				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久（理学療法士）				
授 業 概 要						
この講義を通じて、理学療法の対象となる「障害」の概略、その「障害」に対する運動療法について運動生理学の観点から学び見識を深める。そして理学療法の過程に関する理解が深まるとともに、理学療法士を目指す動機が更に高まることを期待する。この科目は専門科目「理学療法基礎用語」「運動療法総論」を学ぶ上での基礎となる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①「障害」について述べることができる ②理学療法の過程について述べることができる ③運動療法の理論的背景（運動生理学）を理解できる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価について）				シラバスを熟読すること（30分）	授業内容の復習すること（30分）
2	リハビリテーションの理念とその対象	① ②			資料①p.1に目を通すこと（30分）	国際障害分類と理学療法士及び作業療法士法第2条（定義）を覚えること（30分）
3	障害構造モデルについて（機能障害）①	①			資料①p.1～2に目を通すこと（30分）	身体活動・運動を可能とする条件について復習すること（30分）
4	障害構造モデルについて（機能障害）と理学療法の対象疾患	①			資料①p.1～3に目を通すこと（30分）	運動機能障害の主な原因について復習すること（30分）
5	障害構造モデルについて（能力障害）	①			障害構造モデルについて復習すること（30分）	ADLを構成する活動について覚えること（30分）
6	障害構造モデルについて（社会的不利益）	①			障害構造モデルについて復習すること（30分）	機能障害・能力障害社会的不利益との関連性について理解を深めること（30分）
7	理学療法の過程（急性期理学療法）	②			障害構造モデルについて復習すること（30分）	急性期理学療法の目的と介入手段について復習すること（30分）
8	理学療法の過程（回復期理学療法）	②			急性期理学療法の目的と介入手段について復習すること（30分）	回復期理学療法の目的と介入手段について復習すること（30分）
9	理学療法の過程（維持期・生活期理学療法）	②			回復期理学療法の目的と介入手段について復習すること（30分）	維持期・生活期理学療法の目的と環境整備について復習すること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	処方から理学療法（治療）までの流れ	②			資料①p.5と資料②に目を通すこと（30分）	評価・問題点の抽出・訓練の流れを復習すること（30分）
11	国際生活機能分類	②			資料①p.5～7に目を通すこと（30分）	症例に基づいて分類化できるように復習すること（30分）
12	運動療法の効果とリスク	③			資料①p.8と資料③に目を通すこと（30分）	運動療法の原理・原則、訓練に関する基準を覚えること（30分）
13	運動とエネルギー代謝	③			資料④p.1～2に目を通すこと（30分）	運動を継続するために必要なことを復習すること（30分）
14	運動の種類と酸素摂取量①	③			資料④p.3～6に目を通すこと（30分）	酸素摂取量について復習すること（30分）
15	運動の種類と酸素摂取量②	③			資料④p.3～6に目を通すこと（30分）	運動の種類と酸素摂取量について説明できること（30分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
小テスト10%、筆記試験90%						
使用教科書						
下記の資料①～④を配布する ①理学療法総論 ②リハビリテーション医療_発症からの流れ ③運動療法の効果と原則、そして理学療法におけるリスク管理 ④エネルギー代謝						
参考図書						
・基礎運動学 第6版 医歯薬出版						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、理解度確認の小テストを実施直後に解答の解説を行う。					
備考	授業終了後やメールにて質問を受け付ける。 E-mail; t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
理学療法演習		植木 努・石田 裕保・藤橋 雄一郎・辻 圭一（代表教員 植木 努）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		植木努（理学療法士）、石田裕保（理学療法士）、藤橋雄一郎（理学療法士）、辻圭一（理学療法士）				
授 業 概 要						
学生主体によるPBL形式でのグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。理学療法を受ける患者を想定したシナリオから、自ら疑問を持ち自己学習による解決を目指すことで、学習方法を知り遂行する能力を身につける事を目的とする。またその体験を通じて将来、医療に携わる人間としての資質（態度）を身に付けられるよう、学生相互の交流・理解が行えるよう工夫する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①自己学習の習慣をつける ②問題解決能力を身につける ③理学療法の業務を理解する						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	PBLについて コアタイムの進め方と自己学習方法について	① ②	植木	講義		PBLの進め方について復習しておきましょう（60分）
2	プレゼンテーション方法について	① ②	藤橋	講義	PCのプレゼンテーションソフトの使い方に慣れましょう（60分）	講義内容を踏まえ、プレゼンテーションを作成してみましょう（60分）
3	肩関節コースシナリオ①コアタイム	① ② ③	石田 藤橋 辻 植木	演習	肩の解剖学、運動学を復習しておくこと（60分）	講義内の課題に取り組むこと（60分）
4	肩関節コースシナリオ①自己学習内容のディスカッション	① ② ③	石田 藤橋 辻 植木	演習	課題を発表できるようにまとめておく（60分）	ディスカッションの内容をまとめる（60分）
5	肩関節コースシナリオ②コアタイム	① ② ③	石田 藤橋 辻 植木	演習	肩の解剖学、運動学を復習しておくこと（60分）	講義内の課題に取り組むこと（60分）
6	肩関節コースシナリオ②自己学習内容のディスカッション	① ② ③	石田 藤橋 辻 植木	演習	課題を発表できるようにまとめておく（60分）	ディスカッションの内容をまとめる（60分）
7	肩関節コースシナリオ③コアタイム	① ② ③	石田 藤橋 辻 植木	演習	肩の解剖学、運動学を復習しておくこと（60分）	講義内の課題に取り組むこと（60分）
8	肩関節コースシナリオ③自己学習内容のディスカッション 発表準備	① ② ③	石田 藤橋 辻 植木	演習	課題を発表できるようにまとめておく（60分）	ディスカッションの内容をまとめる（60分）
9	肩関節コース グループ発表	① ② ③	石田 藤橋 辻 植木	演習	発表の準備（90分以上）	他グループの発表内容をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	肘関節コース・手関節コース シナリオ①コアタイム	① ② ③	石田 藤橋 辻植木	演習	肘や手の解剖学、運動学を復習しておくこと (60分)	講義内の課題に取り組むこと (60分)
11	肘関節コース・手関節コース シナリオ①自己学習内容のディスカッション	① ② ③	石田 藤橋 辻植木	演習	課題を発表できるようにまとめておく (60分)	ディスカッションの内容をまとめる (60分)
12	肘関節コース・手関節コース シナリオ②コアタイム	① ② ③	石田 藤橋 辻植木	演習	肘や手の解剖学、運動学を復習しておくこと (60分)	講義内の課題に取り組むこと (60分)
13	肘関節コース・手関節コース シナリオ②自己学習内容のディスカッション	① ② ③	石田 藤橋 辻植木	演習	課題を発表できるようにまとめておく (60分)	ディスカッションの内容をまとめる (60分)
14	肘関節コース・手関節コース グループ発表	① ② ③	石田 藤橋 辻植木	演習	発表の準備 (90分以上)	他グループの発表内容をまとめる (30分)
15	肩関節コース・肘関節コース・手関節コースのレポート作成	① ② ③	石田 藤橋 辻植木	演習	レポート作成の準備 (30分)	レポートの加筆、見直し (90分以上)
評価基準・評価方法						
コアタイム評価 (50%) 自己学習課題 (25%) グループ発表 (15%) レポート (10%)						
使用教科書						
プリント資料を配布する。						
参考図書						
適時紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		講義は少人数に分かれて行います。グループ等は随時連絡します。特にディスカッション参加、自己学習課題の提出が重要になります。自分の意見や考えを他者に伝える能力が医療職として必ず必要になります。その能力を養えるよう積極的に講義に参加してください。グループ発表についてはその場でフィードバックを行います。その他教員がいるときはいつでも質問は受け付けます。				

授業科目名		担当教員				
運動療法総論		長谷部 武久・河合 克尚・亀山 咲子 (代表教員 長谷部 武久)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 理学ディプロマポリシー(2) (3) (4)の達成に寄与している。		長谷部武久 (理学療法士) ・河合克尚 (理学療法士) ・亀山咲子 (理学療法士)				
授 業 概 要						
「理学療法総論」「理学療法演習」で修得した知識や考え方をもとに、症例検討を通して理学療法（主に運動療法）の専門知識を学ぶ。また、PBL方式によるグループ学習を取り入れることで、柔軟な課題発見、問題解決のための専門知識を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①運動器疾患に対する理学療法（主に運動療法）について説明できる ②解剖学・生理学の知識と運動療法を関連付けて考えられる ③自己学習能力およびコミュニケーション能力を身につける						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動療法の理論的背景①	① ②	長谷部	講義	教科書p. 1-32に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
2	運動療法の理論的背景②	① ②	長谷部	講義	教科書p. 33-44, 69-78に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
3	股関節疾患の理学療法（症例検討）①	① ② ③	長谷部 河合 亀山	演習	解剖学（股関節の構造）を復習しておくこと（30分）	課題に対する調べ学習（30分）
4	股関節疾患の理学療法（症例検討）②	① ② ③	長谷部 河合 亀山	演習	課題に対する調べ学習（30分）	グループ学習で得た知識の整理（30分）
5	股関節疾患の理学療法（症例検討）③	① ② ③	長谷部 河合 亀山	演習	股関節疾患の理学療法について調べる（30分）	課題に対する調べ学習（30分）
6	股関節疾患の理学療法（症例検討）④	① ② ③	長谷部 河合 亀山	演習	課題に対する調べ学習（30分）	グループ学習で得た知識の整理（30分）
7	股関節疾患の理学療法（グループ発表）	① ② ③	長谷部 河合 亀山	講義	発表資料の作成（30分）	他のグループ発表から得た知識の整理（30分）
8	膝関節疾患の理学療法（症例検討）①	① ② ③	長谷部 河合 亀山	演習	解剖学（膝関節の構造）を復習しておくこと（30分）	課題に対する調べ学習（30分）
9	膝関節疾患の理学療法（症例検討）②	① ② ③	長谷部 河合 亀山	演習	課題に対する調べ学習（30分）	グループ学習で得た知識の整理（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	膝関節疾患の理学療法（症例検討）③	① ② ③	長谷部河合山	演習	膝関節疾患の理学療法について調べる（30分）	課題に対する調べ学習（30分）
11	膝関節疾患の理学療法（症例検討）④	① ② ③	長谷部河合山	演習	課題に対する調べ学習（30分）	グループ学習で得た知識の整理（30分）
12	膝関節疾患の理学療法（グループ発表）	① ② ③	長谷部河合山	講義	発表資料の作成（30分）	他のグループ発表から得た知識の整理（30分）
13	下肢の運動器疾患に対する理学療法	③	長谷部河合山	講義	これまでのグループ学習で得た知識を整理する（30分）	時間内レポートの振り返りを行う（30分）
14	理学療法評価について	① ②	長谷部河合山	演習	運動器疾患に対する理学療法評価について調べる（30分）	評価項目が言えるようにする（30分）
15	運動療法の実際	① ②	長谷部河合山	演習	運動器疾患に対する運動療法について調べる（30分）	運動療法の種類が言えるようにする（30分）
評価基準・評価方法						
宿題レポート（40%）、時間内レポート（40%）、グループ活動の参加度（20%）						
使用教科書						
15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 運動療法学 / 解良武士ほか. --石川朗--中山書店, 978-4-521-73671-6						
参考図書						
基礎運動学 第6版 医歯薬出版						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、宿題レポートはコメントを入れて返却する。					
備考	授業終了後やメールにて質問を受け付ける。 t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp k.kawai@heisei-iryuu.ac.jp s.kameyama@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
理学療法基礎用語		藤橋 雄一郎				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		藤橋雄一郎（理学療法士）				
授 業 概 要						
本講義では、医療・医学、特に理学療法(リハビリテーション)に関する用語・知識・理解を深めます。理学療法（士）の歴史や役割、業務内容、求められる人間性等も学びます。障害を持たれた当事者を招き、理学療法を受けた体験談や普段の生活、障害者スポーツについて話を聞き、ディスカッションを行います。また、障害者スポーツ体験を通し、グループワークにて意見交換を行います。ディスカッション、グループワークでは、自らの意見を述べたり、他者の意見を聴き、目指すべき理学療法（士）について再考しましょう。						
学 修 の 到 達 目 標						
①自身が目指す理学療法士像を説明できる ②理学療法士法を説明できる ③リハビリテーション関連職種について説明できる ④理学療法士の職域について説明できる ⑤理学療法専門用語を理解する ⑥自身の意見を述べるができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション これから学ぶ理学療法（医療）とは	① ⑥		講義	あなたが理学療法士を目指す理由が述べられるよう準備しましょう（30分）。	あなたの目指す理学療法士像について講義の内容を踏まえ再考しましょう（30分）。
2	理学療法士に求められる要素	① ⑥		講義	今までの様々な経験（学生生活・部活動）を振り返り、苦労や成功体験等を述べるができるよう準備しましょう（30分）。	理学療法士免許取得までの3年間で身に着けた社会性・態度・知識について再確認しましょう（30分）。
3	リハビリテーション・理学療法の歴史	① ⑤		講義	教科書P.12-20を読み国内の出来事やリハビリテーションについて確認しましょう（20分）。	nomalization、Independent Livingなどの説明ができるよう復習しましょう（40分）。
4	理学療法士法および作業療法士法	② ⑤		講義	教科書P.194-200を読みましょう（20分）。	理学療法士法が説明できるようにしましょう（40分）。
5	理学療法士の職域、職能団体	② ③ ⑤		講義	教科書P.40-64を読みましょう（20分）。	理学療法士の職域が説明できるようにしましょう（40分）。
6	リハビリテーション関連職種	③ ⑤		講義	医師、作業療法士、言語聴覚士について調べましょう（20分）。	作業療法士・言語聴覚士を説明できるよう復習にしましょう（40分）。
7	世界の理学療法	② ④ ⑤		講義	教科書P.66-88を読みましょう（20分）。	理学療法士養成課程、ダイレクトアクセスが説明できるよう復習しましょう（40分）。
8	本邦の理学療法	② ④ ⑤		講義	教科書P.89-98を読みましょう（20分）。	本邦の理学療法と世界の理学療法の違いが説明できるようにしましょう（40分）。
9	疾患と障害の分類（国際疾病分類・国際生活機能分類）	⑤		講義	国際疾病分類、国際障害分類、生活機能分類の内容を確認しましょう（20分）。	国際障害分類と国際生活機能分類の違いが説明できるよう復習しましょう（40分）。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	理学療法の進め方	② ④ ⑤		講義	自身が過去に病院・診療所を受診した時の、診察までの流れを確認しておきましょう (20分)。	理学療法実施までの流れが説明できるようにしましょう (40分)。
11	理学療法における対象者評価	② ④ ⑤		講義	教科書P.132-147を読みましょう (20分)。	対象者評価 (アセスメント) の重要性を説明できるようにしましょう (40分)。
12	補装具・自助具の活用	② ④ ⑤		講義	教科書P.158-160を読み、内容を確認しましょう。また、福祉用具について調べましょう (20分)。	義肢装具の種類、様々な福祉用具を再確認しましょう (40分)。
13	関連法規・制度 (医療保健・介護保険)	② ④ ⑤		講義	教科書P.26-39を読みましょう (20分)。	医療保険・介護保険制度が説明できるようにしましょう (40分)。
14	対象者との関わり (当事者から学ぶ)	① ④ ⑤ ⑥		演習	脊髄損傷 (特に頸髄損傷) の病態について、調べましょう (20分)。	当事者の話を聞き、レポートを作成しましょう (50分)。
15	パラスポーツについて (ボッチャ、ゴールボール、ビーンバッグ)	② ④ ⑤		演習	ボッチャの特徴、ルールを確認しましょう (20分)。	課題に対するレポートを作成しましょう (50分)。
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験80%、レポート20%で判定します。						
使用教科書						
PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 / 庄本康治編。--第1版--羊土社, 2017年, ISBN978-4-7581-0224-7						
参考図書						
リハビリテーション総論 (診断と治療社) 国家試験共通問題頻出キーワード1800 (南江堂)						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	レポートは内容を確認し講義内でコメントします。					
備考	質問等は来室、メールなどで随時受け付けます。 担当教員メールアドレス: y.fujiihashi@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
理学療法研究方法論		長谷部 武久				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久（理学療法士）				
授 業 概 要						
3年次選択科目「卒業研究」を見据えて、研究計画の立案及び研究を進める上で必要となる基礎的知識について学ぶ。研究計画及び方法、研究における客観性・信頼性・妥当性の意味、計測値の意味と統計学の重要性など、研究基本概念について理解する。PBL方式によるグループ学習、プレゼンテーション等を通して自己学習能力およびコミュニケーション能力を養う。また、研究を行う上で重要である文献検索については、タブレット端末やPCの使用を推奨する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①研究を行う意義、そして研究デザインについて述べることができる ②論文・文献を検索することができる ③研究計画を立案できる ④自己学習能力およびコミュニケーション能力を身につける						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、研究を行う意味や科学的根拠に基づいた医療について	①		講義	シラバスを熟読すること（30分）	科学的根拠に基づいた医療について説明できること（30分）
2	論文の種類と原著論文	①		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと（30分）	原著論文の種類が識別できること（30分）
3	論文・文献検索の方法①	② ④		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと（30分）	インターネットを用いて論文を検索してみること（30分）
4	論文・文献検索の方法②	② ④		演習	配布資料の当該箇所に目を通すこと（30分）	興味のある論文を抽出してみる（30分）
5	原著論文の構成	① ④		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと（30分）	選択した論文を読んでその構成が理解できること（30分）
6	質の高い論文と科学的根拠に基づく理学療法の実践①	①		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと（30分）	RCTや系統的総説、ガイドラインの違いが理解できる（30分）
7	質の高い論文と科学的根拠に基づく理学療法の実践②	① ② ④		演習	配布資料の当該箇所に目を通すこと（30分）	論文を読んで問題点の定式化ができる（30分）
8	研究デザイン①	①		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと（30分）	研究デザインに基づいた分類を復習する（30分）
9	研究デザイン②	① ② ③ ④		演習	配布資料の当該箇所に目を通すこと（30分）	論文を抽出し分類ができる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	論文の妥当性や信頼性①	① ③		講義	配布資料の当該箇所 に目を通すこと (30分)	バイアスが説明できる (30分)
11	論文の妥当性や信頼性②	① ② ③ ④		演習	配布資料の当該箇所 に目を通すこと (30分)	バイアスの有無が判断できる (30分)
12	研究で用いられる数値や統計手法	① ③		講義	配布資料の当該箇所 に目を通すこと (30分)	数値の意味を理解しよく使われる統計手法の意義について説明できる (30分)
13	研究計画の立案①	① ② ③ ④		演習	研究デザインと文献 検索について復習すること (30分)	グループ演習で知り得た知識を整理すること (30分)
14	研究計画の立案②	① ② ③ ④		演習	研究デザインと文献 検索について復習すること (30分)	グループ演習で知り得た知識を整理すること (30分)
15	研究計画の立案③	① ② ③ ④		演習	研究デザインと文献 検索について復習すること (30分)	グループ演習で知り得た知識を整理すること (30分)
評価基準・評価方法						
小テスト90% レポート10%						
使用教科書						
資料を配布する 原著論文を紹介する						
参考図書						
内山靖 編集 標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第3版 医学書院 日本理学療法士協会 理学療法ガイドライン (第1版)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、理解度確認の小テストを実施直後に解答の解説を行う。 課題レポートはメールにて提出。提出後、速やかにメールにて返却する。					
備考	インターネットに接続できる携帯電話、タブレット端末、PC等のいずれかを持参すること。 E-mail; t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
理学療法学特論Ⅰ		河合 克尚・辻 圭一・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎（代表教員 河合 克尚）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 前学期	1単位(30時間)		演習 オムバス		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚（理学療法士）・辻圭一（理学療法士）・大場かおり（理学療法士）・石田裕保（理学療法士）・藤橋雄一郎（理学療法士）				
授 業 概 要						
理学療法学特論Ⅰでは、理学療法の基礎となる解剖・生理・運動学をはじめとして、2年次までの各科目で習得した知識の整理を図り、それぞれの知識を理学療法と関連付けて考える。そのために課題や確認テストを実施し、理解を深める。						
学 修 の 到 達 目 標						
①神経系（中枢・末梢）の解剖とその機能を深め、理学療法に応用できる。 ②運動学 神経伝達や運動力学の理解を深める。 ③ヒトの運動学的発達過程を捉えること。また理学療法の対象となる代表的小児疾患の病態を把握する。 ④呼吸器系・循環器系の解剖や機能（特に運動時の生体反応）の理解を深め、理学療法に応用できる。 ⑤中枢神経の機能について基礎知識を整理し、高次脳機能の仕組みと障害のさらなる理解に発展させる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	解剖学（神経系）と理学療法	①	藤橋		上行性・下行性神経路について確認しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
2	解剖学（神経系）と理学療法	①	藤橋		自律神経系について確認しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
3	解剖学（神経系）と理学療法	①	藤橋		中枢神経の損傷によって生じる症状について確認しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
4	運動学と理学療法	②	石田		てこの原理について学習しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
5	運動学と理学療法	②	石田		生体にかかる運動力学について学習しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
6	運動学と理学療法	②	石田		神経千龍速度について学習しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
7	人間発達学・小児科学と理学療法	③	辻		正常発達について復習しておくこと（30分）	正常発達と原始反射の関連について復習すること（30分）
8	人間発達学・小児科学と理学療法	③	辻		脳性麻痺について復習しておくこと（30分）	脳性麻痺の各症状について整理しておくこと（30分）
9	人間発達学・小児科学と理学療法	③	辻		小児疾患について復習しておくこと（30分）	講義で取り扱った疾患の整理をしておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	解剖学（内臓系）・生理学（植物機能）と理学療法	④	河合		教科書（基礎運動学）の「生体の構造と機能（呼吸）」に目を通しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
11	解剖学（内臓系）・生理学（植物機能）と理学療法	④	河合		教科書（基礎運動学）の「生体の構造と機能（血液と循環）」に目を通しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
12	解剖学（内臓系）・生理学（植物機能）と理学療法	④	河合		教科書（基礎運動学）の「生体の構造と機能（腎臓と酸塩基平衡）」に目を通しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
13	生理学（動物機能）と理学療法	⑤	大場		脳の構造、循環（血液・脳脊髄液）・脳室について復習しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
14	生理学（動物機能）と理学療法	⑤	大場		大脳皮質の機能局在について復習しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
15	生理学（動物機能）と理学療法	⑤	大場		高次脳機能障害について復習しておくこと（30分）	確認テスト問題を参考に授業内容を復習すること（30分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価方法は、定期試験（100%）とする。 （確認テストは授業内容の理解を確認するために実施し、定期試験にも出題する。）						
使用教科書						
基礎運動学 / 中村隆一ほか. --第6版補訂--医歯薬出版, 2003年, ISBN978-4-263-21153-3 ・2年次までに使用した教科書全般						
参考図書						
適宜紹介する						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法		時間内に確認テストを実施します。そのフィードバック（解説）は授業内で行います。				
備考		質問等がある場合は、授業終了後やオフィスアワーを積極的に活用して下さい。				

授業科目名		担当教員				
理学療法学特論Ⅱ		河合 克尚・辻 圭一・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎（代表教員 河合 克尚）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚（理学療法士）・辻圭一（理学療法士）・大場かおり（理学療法士）・石田裕保（理学療法士）・藤橋雄一郎（理学療法士）				
授 業 概 要						
理学療法学特論Ⅱでは、専門基礎および専門知識に関する各科目で習得した知識の定着を図り、これらの知識を応用して理学療法と関連付けて考える。そのために課題を提示し、グループワークを通して専門基礎および専門知識の理解を深める。また、重要な用語についてはペアシェア学習を通して知識の定着を図る。						
学 修 の 到 達 目 標						
①疾患に即した理学療法評価と理学療法の基礎知識を説明できる。 ②内部機能障害に対する理学療法を説明できる。 ③運動療法（主に基本介入手段）と物理療法を説明できる。 ④精神障害に対する検査と治療を説明できる。 ⑤義肢装具の基礎と疾患に即した義肢装具療法を説明できる。 ⑥ADL評価と指導、生活環境支援について説明できる。 ⑦脳・神経機能障害に対する理学療法を説明できる。 ⑧骨・関節機能障害に対する理学療法を説明できる。 ⑨小児・発達機能障害に対する理学療法を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	理学療法評価学	①	河合		理学療法評価について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
2	基礎理学療法学	①	河合		動作や運動に対する生体反応について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
3	内部機能障害学	②	河合		内部障害の理学療法について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
4	運動療法（基本介入手段）	③	大場		今までに学習した運動療法の内容について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
5	物理療法学	③	大場		物理療法の適応と禁忌、各モダリティの特徴を復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
6	精神医学、臨床心理学	④	大場		用語の意味を確認し、疾患の特徴を復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
7	義肢装具学	⑤	石田		各種義肢・装具について学習しておくこと（60分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
8	日常生活動作学	⑥	石田		FIMやBIやASIAなどの評価について学習しておくこと（60分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
9	生活環境論	⑥	石田		生活環境支援について学習しておくこと（60分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳・神経機能障害学	⑦	藤橋		脳血管障害などの中枢神経の損傷で生じる症状について確認しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
11	脳・神経機能障害学	⑦	藤橋		脊髄損傷によって生じる症状、ADLについて確認しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
12	神経筋系障害学	⑦	藤橋		パーキンソン病、多発性硬化症などの疾患の特徴を確認しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
13	運動機能学	⑧	辻		臨床運動学、運動生理学について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
14	骨・関節機能障害学	⑧	辻		整形外科疾患について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
15	発達機能障害学	⑨	辻		正常発達、原始反射、小児疾患について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価方法は、定期試験（100％）とする。						
使用教科書						
基礎運動学 / 中村隆一ほか、--第6版補訂--医歯薬出版、2003年、ISBN978-4-263-21153-3 ・2年次までに使用した教科書全般						
参考図書						
・PT/OT国試必修ポイント（医歯薬出版） ・国試合格へ最短！簡単！PT単！イラストで覚えるPT専門問題頻出単語1500（南江堂）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	学習課題に対するフィードバック（解説）は授業内に行います。					
備考	授業では質問等がある場合は、授業中やオフィスアワー等を活用して下さい。 グループワークを行います。積極的に取り組んで下さい。					

授業科目名		担当教員				
理学療法特論		河合 克尚・辻 圭一・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎（代表教員 河合 克尚）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位 (30時間)	演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚（理学療法士）・辻圭一（理学療法士）・大場かおり（理学療法士）・石田裕保（理学療法士）・藤橋雄一郎（理学療法士）				
授 業 概 要						
理学療法特論では、専門基礎および専門知識に関する各科目で習得した知識の定着を図り、これらの知識を応用して理学療法と関連付けて考える。そのために課題を提示し、グループワークを通して専門基礎および専門知識の理解を深める。また、重要な用語についてはペアシェア学習を通して知識の定着を図る。						
学 修 の 到 達 目 標						
①疾患に即した理学療法評価と理学療法の基礎知識を説明できる。 ②内部機能障害に対する理学療法を説明できる。 ③運動療法（主に基本介入手段）と物理療法を説明できる。 ④精神障害に対する検査と治療を説明できる。 ⑤義肢装具の基礎と疾患に即した義肢装具療法を説明できる。 ⑥ADL評価と指導、生活環境支援について説明できる。 ⑦脳・神経機能障害に対する理学療法を説明できる。 ⑧骨・関節機能障害に対する理学療法を説明できる。 ⑨小児・発達機能障害に対する理学療法を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	理学療法評価学	①	河合		理学療法評価について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
2	基礎理学療法学	①	河合		動作や運動に対する生体反応について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
3	内部機能障害学	②	河合		内部障害の理学療法について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
4	運動療法（基本介入手段）	③	大場		基本的な介入方法について確認しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
5	物理療法学	③	大場		適応と禁忌、生理学的作用について確認しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
6	精神医学、臨床心理学	④	大場		見慣れない単語は意味を調べておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
7	義肢装具学	⑤	石田		各種義肢装具について学習しておくこと（60分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
8	日常生活動作学	⑥	石田		BIやFIMなど日常生活を評価する検査について学習しておくこと（60分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
9	生活環境論	⑥	石田		車椅子の採寸やスロープなどについて学習しておくこと（60分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳・神経機能障害学	⑦	藤橋		脳血管障害の理学療法について確認しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
11	脳・神経機能障害学	⑦	藤橋		脊髄損傷の理学療法について確認しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
12	神経筋系障害学	⑦	藤橋		パーキンソン病、多発性硬化症などの理学療法について確認しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
13	運動機能学	⑧	辻		臨床運動学、運動生理学について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
14	骨・関節機能障害学	⑧	辻		整形外科疾患について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
15	発達機能障害学	⑨	辻		正常発達や脳性麻痺について復習しておくこと（30分）	時間内に取り組みなかった課題を学習すること（60分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価方法は、定期試験（100％）とする。						
使用教科書						
基礎運動学 / 中村隆一ほか、--第6版補訂--医歯薬出版、2003年、ISBN978-4-263-21153-3						
参考図書						
・クエスチョンバンク（MEDICMEDIA） ・ポケットマスターPT/OT国試必修ポイント（医歯薬出版） ・国試合格へ最短！簡単！PT単！イラストで覚えるPT専門問題頻出単語1500（南江堂）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	学習課題に対するフィードバック（解説）は授業内に行います。					
備考	授業ではグループワークを行います。積極的に取り組んで下さい。質問等がある場合は、授業中やオフィスアワー等を活用して下さい。					

授業科目名		担当教員				
卒業研究		曾田 直樹・大場 かおり・田島 嘉人（代表教員 曾田 直樹）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	3年 前学期	2単位 (30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹（理学療法士）、大場かおり（理学療法士）、田島嘉人（理学療法士）				
授 業 概 要						
卒業研究では、これまでに履修した知識と技術を基に研究課題を決め、各種研究手法に沿った測定や調査を実施、分析、検証を加え、教員の指導の下研究論文を完成させる。論文作成に至るまでの調査の方法、手続き、実施法、結果の統計処理、文献検索の方法等を指導する。グループワークやディスカッションを通じて、研究者および高度な臨床実践者としての基本的能力を修得することを目指す。						
学 修 の 到 達 目 標						
①研究計画の立案、実施し、論文作成まで行うことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション（卒業研究の概要、研究活動の意義、論文の書き方について）	①	曾田 大場 田島			研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
2	統計について、文献検索について、研究に必要な機器について	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
3	研究テーマについて	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
4	研究テーマについて	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
5	予備実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
6	予備実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
7	実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
8	実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
9	実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
11	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
12	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
13	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
14	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
15	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
	卒業論文提出					
評価基準・評価方法						
論文の完成度（100％）						
使用教科書						
なし /						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	論文作成時に随時指導					
備考	オフィスアワー 曾田 月曜日 12:15～13:15 大場 火曜日 16:30～17:30 田島 水曜日 16:30～17:30					

授業科目名		担当教員				
クリニカルリーズニング		堀 信宏・曾田 直樹・亀山 咲子 (代表教員 堀 信宏)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	3年 前学期	2単位 (30時間)	演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏(理学療法士)、曾田直樹(理学療法士)、亀山咲子(理学療法士)				
授 業 概 要						
理学療法を実施するに当たり患者の持つ障害を把握し、問題点を明らかにする事は重要である。その為の情報収集手段として評価がある。評価は障害を持つ前の状況や活動歴、スポーツ歴などが影響し、退院後の生活に影響を及ぼす。そのような視点に基づきゴールの設定を行い、治療プラン、住宅改造、家族指導などの必要性が見えてくる。本講義では正確な測定法の実施から実際のプランを導く為の考え方・視点を学習する。内部疾患、中枢疾患、整形疾患の3系統に分けて学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
症例検討を通じて様々な問題解決へ導くための理学療法診断が行えるようにする。 ②設問を解釈しながら臨床に必要な知識を整理する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	下肢疾患の症例に対して	②	曾田	講義	下肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
2	下肢疾患の症例に対して	②	曾田	講義	下肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
3	上肢疾患の症例に対して	②	曾田	講義	上肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
4	上肢疾患の症例に対して	②	曾田	講義	上肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
5	その他の整形外科疾患の症例に対して	②	曾田	講義	骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
6	運動学習を理解する	②	堀	講義	運動学総論の資料と教科書を再確認しておきましょう (120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう (120分)
7	頭部外傷の症例検討	②	堀	講義	脳神経機能障害学の資料と教科書を再確認しておきましょう (120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう (120分)
8	Pusher症候群と半側空間無視の症例検討	②	堀	講義	脳神経機能障害学の資料と教科書を再確認しておきましょう (120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう (120分)
9	パーキンソン病の症例検討	②	堀	講義	脳神経機能障害学の資料と教科書を再確認しておきましょう (120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳血管障害の症例検討	②	堀	講義	脳神経機能障害学の資料と教科書を再確認しておきましょう (120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう (120分)
11	リスク管理 ①	②	亀山	講義	リスク管理①の資料に目を通しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
12	リスク管理 ②	②	亀山	講義	リスク管理②の資料に目を通しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
13	生活習慣病の考え方	②	亀山	講義	生活習慣病の考え方の資料に目を通しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
14	心疾患	②	亀山	講義	心疾患の資料に目を通しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
15	呼吸器疾患	②	亀山	講義	呼吸器疾患の資料に目を通しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験100% (整形, 神経疾患, 内部疾患分野で合算) . 授業態度を加味する.						
使用教科書						
各分野ごとに, 資料を配布する						
参考図書						
基本編/実践編 ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版 (文光堂)						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	授業内で実施する.					
備考	講義内容によってはディスカッションを行う. 積極的な参加を期待する.					

授業科目名		担当教員				
理学療法管理学Ⅰ		岸本 泰樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		岸本 泰樹(理学療法士)				
授 業 概 要						
理学療法管理学Ⅰでは、理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本について学ぶ。さらに、その管理業務に必要な多職種連携の重要性や法制度などを理解し、業務の中でどのように実践するかを考察・検討する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①理学療法管理学の概要について理解する ②医療機関の分類と組織の能力について理解する ③リハビリテーションに関わる専門職と事務職の役割、チーム医療の実例を学びチームケアを理解する ④社会保障の構成要素と役割を学ぶ ⑤理学療法業務に必要な医療保険制度の概要を理解する ⑥理学療法業務に必要な介護保険制度の概要を理解する ⑦診療報酬・介護報酬とそのコスト、背景を学びリハビリテーション分野における収益構造を理解する						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	理学療法管理学総論	①	岸本	講義	教科書 p 1～p 10に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
2	病院の分類と組織	②	岸本	講義	教科書 p 11～p 22に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
3	専門職とチームケア	③	岸本	講義	教科書 p 23～p 34に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
4	社会保障のしくみ	④	岸本	講義	教科書 p 35～p 44に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
5	医療保険制度	⑤	岸本	講義	教科書 p 45～p 54に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
6	介護保険制度Ⅰ	⑥	岸本	講義	教科書 p 55～p 64に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
7	介護保険制度Ⅱ	⑥	岸本	講義	教科書 p 55～p 64に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
8	診療・介護報酬と収益構造	⑦	岸本	講義	教科書 p 65～p 76に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)

評価基準・評価方法	
レポートによって評価する	
使用教科書	
「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学」 / 石川朗・長野聖—中山書店, 978-4-521-74813-9	
参考図書	
適宜紹介する	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	最終授業時に全体にむけてフィードバックを行う
備考	本講義では理学療法のスキルとは別に、医療職を生業とする上で身につけるべき様々な知識を学ぶ。医療人としての興味の視点が広がることを期待する。

授業科目名		担当教員				
理学療法管理学Ⅱ		岸本 泰樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		岸本 泰樹(理学療法士)				
授 業 概 要						
理学療法士は、病院をはじめ老人施設等の各種サービス機関で働いている。組織のなかで働くためには、所属部門の管理運営に携わり、責任をもった対応が求められる。理学療法管理学Ⅱでは、組織人としての役割を全うするために必要な業務管理・リスクマネジメント・理学療法教育など、実践をイメージしながら学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①理学療法士が携わる保健・医療の連携と、介護・福祉の関わりについて理解する ②業務管理の視点から理学療法業務の概要を理解する ③臨床業務に不可欠な情報収集、記録の意義と管理、コミュニケーション技術について理解する ④医療安全とリスク管理の概要について理解する ⑤医療・介護施設における感染管理について理解する ⑥理学療法士として必要な患者の権利擁護と職業倫理について理解する ⑦臨床実習から国家試験、生涯学習に至る教育体制について理解する ⑧医療・介護と政治・政策との関係を学び、これらが理学療法士の報酬や給与に寄与することを理解する						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	保健・医療・介護・福祉の連携	①	岸本	講義	教科書 p 77～p 88に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
2	業務管理	②	岸本	講義	教科書 p 89～p 98に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
3	情報管理	③	岸本	講義	教科書 p 99～p 108に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
4	リスク管理	④	岸本	講義	教科書 p 109～p 118に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
5	感染症管理	⑤	岸本	講義	教科書 p 119～p 128に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
6	権利擁護と職業倫理	⑥	岸本	講義	教科書 p 129～p 138に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
7	教育管理	⑦	岸本	講義	教科書 p 139～p 148に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
8	理学療法士の政治・政策への関与	⑧	岸本	講義	教科書 p 149～p 158に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)

評価基準・評価方法	
レポートによって評価する	
使用教科書	
「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学」 / 石川朗・長野聖—中山書店, 978-4-521-74813-9	
参考図書	
適宜紹介する	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	最終授業時に全体にむけてフィードバックを行う
備考	本講義では理学療法のスキルとは別に、医療職を生業とする上で身につけるべき様々な知識を学ぶ。医療人としての興味の視点が広がることを期待する。

授業科目名		担当教員				
運動器系検査法		曾田 直樹・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 曾田 直樹)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 前学期	1単位(30時間)		講義 オムバス		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹(理学療法士)、辻圭一(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)、植木努(理学療法士)				
授 業 概 要						
人間の生活は基本的な運動機能をベースに、必要な動作を用いて営まれている。その機能自体が障害されることは動作・活動の制限を生じ、社会生活が危ぶまれ得る事につながる。本講義はそれら運動機能の働きを評価する。具体的には、関節可動域測定、形態測定(四肢長、周径)、感覚検査(体性感覚、特殊感覚、疼痛)などである。各々の検査法の意義・原理を理解し、検査技術を修得する。疾患における必要な検査項目をグループディスカッションにて列挙し実施する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①四肢の関節可動域の目的を理解し測定することができる。 ②四肢の形態測定の目的を理解し行うことができる。 ③感覚検査の目的を理解し行うことができる。 ④整形外科的検査の目的を理解し行うことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	関節可動域：目的	①	曾田 藤橋	講義 演習	教科書P65-69にある、関節可動域測定の目的や留意事項を一読しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
2	関節可動域：肩関節屈曲・伸展・内転・外転	①	曾田 藤橋	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
3	関節可動域：肩関節内旋・外旋・水平内転・水平外転	①	曾田 藤橋	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
4	関節可動域：肘関節屈曲・伸展、手関節掌屈・背屈・橈屈・尺屈	①	曾田 藤橋	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
5	関節可動域：股関節屈曲・伸展・外転・内転・内旋・外旋	①	曾田 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
6	関節可動域：膝関節屈曲・伸展	①	曾田 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
7	関節可動域：足関節背屈・底屈、内反・外反	①	曾田 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
8	関節可動域：体幹、別法	①	曾田 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
9	形態測定：目的、方法を理解し、実技を行う。	②	辻	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと(60分)。	配布された講義資料の内容を確認すること(60分)。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感覚検査：上行性伝導路の解剖・生理学・検査の目的を理解する。	③	藤橋	講義	上行性神経路についての、解剖生理を再確認しましょう（60分）。	上行性神経路の役割、経路について説明できるようにしましょう（60分）。
11	感覚検査：表在感覚の目的と方法を理解し、実技を行う。	③	辻	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと（60分）。	配布された講義資料の内容を確認すること（60分）。
12	感覚検査：深部感覚および複合感覚の目的と方法を理解し、実技を行う。	③	辻	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと（60分）。	配布された講義資料の内容を確認すること（60分）。
13	整形外科検査：体幹・上肢疾患検査	④	曾田 植木	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと（60分）。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう（60分）。
14	整形外科検査：下肢疾患検査	④	曾田 植木	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと（60分）。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう（60分）。
15	疾患別検査法：疾患を想定し、必要な検査を列挙し実施する	① ② ③ ④	曾田 辻 藤橋 植木	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと（60分）。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう（60分）。
	定期試験（筆記及び実技）					
評価基準・評価方法						
評価基準：知識、技術、理解、学修態度、意欲を重視する。 評価方法：期末テスト（筆記・実技）70%、小テスト20%、参加度10%。						
使用教科書						
理学療法評価学 / 松澤 正／江口 勝彦. --第6版--金原出版, 2018, ISBN978-4-307-75054-7 理学療法評価学 / 市橋則明. --文光堂, 2016年, ISBN978-4-8306-4537-2						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義内で解説					
備考	オフィスアワー 曾田 月曜日12:15～13:15 藤橋 月曜日16:30～17:30 辻 月曜日16:30～17:30 植木 火曜日16:30～17:30					

授業科目名		担当教員				
神経系検査法		河合 克尚・辻 圭一・石田 裕保・亀山 咲子（代表教員 河合 克尚）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚（理学療法士）・辻圭一（理学療法士）・石田裕保（理学療法士）・亀山咲子（理学療法士）				
授 業 概 要						
人間の生活は、基本的な運動機能をベースに、必要な動作を用いて営まれている。その動作は、神経系の働きによって調整・制御されている。本科目では、それら神経系の働きを評価する方法を学ぶ。具体的には、徒手筋力検査、筋緊張、反射、脳神経、高次脳機能に関する検査法を学ぶ。そして、学生同士（健常者）での演習を通して検査技術の理解を深める。						
学 修 の 到 達 目 標						
①徒手筋力検査法の意義・原理を理解し、検査技術を身に付ける。 ②脳神経検査および高次脳機能検査の意義・原理を理解し、検査技術を身に付ける。 ③筋緊張と反射検査の意義を理解し、検査技術を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	徒手筋力検査法の意義・原理、徒手筋力検査の測定方法：肘関節屈曲・伸展	①	河合辻亀山	講義演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）
2	徒手筋力検査の測定方法：肩関節屈曲・外転・伸展	①	河合辻亀山	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）
3	徒手筋力検査の測定方法：肩関節外旋・内旋・水平内転・水平外転	①	河合辻亀山	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）
4	徒手筋力検査の測定方法：前腕回内・回外、手関節背屈・掌屈	①	河合辻亀山	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）
5	徒手筋力検査の測定方法：膝関節屈曲・伸展、股関節屈曲・伸展	①	河合辻亀山	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）
6	徒手筋力検査の測定方法：股関節外転・内転・外旋・内旋	①	河合辻亀山	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）
7	徒手筋力検査の測定方法：足関節背屈・底屈	①	河合辻亀山	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）
8	徒手筋力検査の測定方法：体幹屈曲・回旋、頭頸部	①	河合辻亀山	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）
9	徒手筋力検査の測定方法：肩甲骨 徒手筋力検査の演習問題	①	河合辻亀山	演習講義	教科書の該当ページに目を通しておくこと（30分）	授業で行った検査測定の復習をすること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳神経の診かた：脳神経検査法の方法 p.105-126 (教科書2)	②	辻	演習	脳神経の各機能を復習しておくこと (30分)	配布された講義資料のうち、重要項目を覚えておくこと (30分)
11	高次脳機能の診かた：失認と失行に対する検査方法 p.255-262 (教科書2)	②	辻	演習	失認、失行がどのような症状か復習しておくこと (30分)	配布された講義資料のうち、重要項目を覚えておくこと (30分)
12	高次脳機能の診かた：認知症、意識障害に対する検査方法 p.277-281 (教科書2)	②	辻	演習	認知症の症状について復習しておくこと (30分)	配布された講義資料のうち、重要項目を覚えておくこと (30分)
13	筋緊張の診かた：協調性検査、筋トーンス検査 p.160-178 (教科書3)	③	石田	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと (30分)	授業で行った検査測定を理解し、実技を習得するよう復習をすること (30分)
14	反射の診かた：反射検査、姿勢反射検査 p.113-125 (教科書3)	③	石田	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと (30分)	授業で行った検査測定を理解し、実技を習得するよう復習をすること (30分)
15	反射の診かた：反射検査、姿勢反射検査 p.145-160 (教科書3)	③	石田	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと (30分)	授業で行った検査測定を理解し、実技を習得するよう復習をすること (30分)
	定期試験 (実技)					
評価基準・評価方法						
評価方法は、小テスト (40%)、定期試験 (実技) (60%) とする。						
使用教科書						
新・徒手筋力検査法 / Helen J. Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown 著. --原著第9版 (DVD付) --協同医書出版社, 2014年, ISBN978-4-7639-0038-8 ベッドサイドの神経の診かた / 田崎義昭著. --第18版--南山堂, 2016年, ISBN978-4-525-24798-0 理学療法評価学 / 松澤 正/江口 勝彦. --第6版--金原出版, 2018, ISBN978-4-307-75054-7						
参考図書						
適宜紹介する						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	授業内で提示する課題に対しては、その都度解説を行う。					
備考	講義と実技を行います。実技の際は、動きやすい服装で臨んで下さい。					

授業科目名		担当教員				
動作・画像解析学		堀 信宏・石田 裕保 (代表教員 堀 信宏)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏(理学療法士)、石田裕保(理学療法士)				
授 業 概 要						
本講義では姿勢分析，バランス検査，動作分析，歩行分析などグループワークを実施する．姿勢，動作，歩行の分析は理学療法評価の一手段として位置づけられている．その為，運動学的視点で人における動きを観察し分析できるようになることが目的である．また，運動器疾患や中枢疾患の代表的なレントゲン，CT，MRI画像の見方や解説を教授する．						
学 修 の 到 達 目 標						
①筋収縮と身体活動の力学的結びつきを理解する．バランス能力評価方法を理解・実施できるようになること．(堀担当分) ②基本動作の成り立ちを理解することが出来るようになること．X-pやMRI画像を診ることが出来るようになること．(石田担当分)						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動学的動作解析：固定筋と動筋，長座位における筋活動	①	堀	講義	運動学総論で学んだ筋活動について再確認をしておいてください(120分)	講義内で解いた問題を理解できるようにまとめておきましょう(120分)
2	運動学的動作解析：筋活動とモーメント，スクワットにおける筋活動	①	堀	講義	運動学総論で学んだモーメントと支持基底面，重心について再確認をしておいてください(120分)	講義内で解いた問題を理解できるようにまとめておきましょう(120分)
3	運動学的動作解析：立ち上がり，介助時の筋活動	①	堀	講義	運動学総論で学んだモーメントと支持基底面，重心について再確認をしておいてください(120分)	講義内で解いた問題を理解できるようにまとめておきましょう(120分)
4	バランス機能の見方：TUG/FRT//姿勢反射/BBS	①	堀	実技	運動学総論で学んだ支持基底面，重心，バランスについて再確認をしておいてください(120分)	各種バランス評価法を整理しておいてください(120分)
5	CT/MRIの見方：整形外科のレントゲンの見方	②	石田	講義	インターネット等でCT/MRI画像を見ておいてください(120分)	本で行った講義に関する脳の機能・部位についてまとめてください(120分)
6	観察による動作分析の仕方：基礎	②	石田	講義	本で行う予定の教科書の範囲を一読して下さい(120分)	本で行ったことを復習し，簡潔にまとめてください(120分)
7	観察による動作解析の仕方：レポートの書き方とデモンストレーション	②	石田	講義	本で行う予定の教科書の範囲を一読して下さい(120分)	本で行ったことを復習し，簡潔にまとめてください(120分)
8	「寝返り」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本で行う予定の教科書の範囲を一読して下さい(120分)	本で行ったことを復習し，まとめてください(120分)
9	「寝返り」触診・レポート作成	②	石田	実技	本で行う予定の教科書の範囲を一読して下さい(120分)	本で行ったことを復習し，まとめてください(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	「起き上がり」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
11	「起き上がり」触診・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
12	「起き上がり」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
13	「立ち上がり」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
14	「立ち上がり」触診・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
15	「立ち上がり」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
課題レポート (50%) , 筆記試験 (50%) を総合的に判断する。						
使用教科書						
運動・からだ図解 動作分析の基本 / 石井慎一郎 監修. --マイナビ出版, 978-4-8399-7118-2 資料を配布する。						
参考図書						
動作分析 臨床活用講座―バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 (Medical view) , 臨床評価指標入門 適応と解釈のポイント (協同医書) , 観察による歩行分析 (医学書院) , 筋骨格系のキネシオロジー (医歯薬出版株式会社)						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	レポートは採点后、返却する。					
備考	動作分析は臨床実習 (卒後は臨床) で日常的に必要とされる評価能力です。そのことを意識して取り組んでください。専門職としての「眼」を養いましょう。					

授業科目名		担当教員				
理学療法評価学演習		河合 克尚・大場 かおり・曾田 直樹・田島 嘉人・藤橋 雄一郎・植木 努・辻 圭一・石田 裕保・亀山 咲子 (代表教員 河合 克尚)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	2単位 (60時間)		演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚(理学療法士)・大場かおり(理学療法士)・曾田直樹(理学療法士)・田島嘉人(理学療法士)・藤橋雄一郎(理学療法士)・植木努(理学療法士)・辻圭一(理学療法士)・石田裕保(理学療法士)・亀山咲子(理学療法士)				
授 業 概 要						
理学療法評価学演習では、前学期で習得した各評価(検査)項目を中心に、症例に即した評価(検査)の実技練習を行う。その成果を客観的臨床能力試験(OSCE)を通して確認し、理学療法評価(検査)に関する知識・技術の定着と向上に努める。また、グループワークやディスカッションを通して、評価(検査)技術だけでなく、コミュニケーション技術や課題解決能力を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①基本的な理学療法評価技術の向上を図る。 ②疾患に即した評価(検査)を理解する。 ③他者とのコミュニケーション能力の向上を図る。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	理学療法評価について(総論)	①	河合大場	講義	教科書(理学療法評価学)の「総論」、「各論第1章」に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
2	運動器疾患に対する検査測定・動作介助	① ② ③	担当教員	演習	提示された症例情報をもとに必要な検査項目を考える(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
3	運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	運動器系検査法の授業で学んだ検査方法を復習すること(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
4	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
5	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
6	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
7	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
8	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
9	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
11	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
12	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
13	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
14	OSCE (運動器系検査)	① ② ③	担当教員	演習	第2回～13回の授業で行った検査測定の復習をすること (30分)	フィードバックされた内容について再考すること (30分)
15	OSCE (運動器系検査)	① ② ③	担当教員	演習	第2回～13回の授業で行った検査測定の復習をすること (30分)	フィードバックされた内容について再考すること (30分)
16	中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	提示された症例情報をもとに必要な検査項目を考える (30分)	授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
17	中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	神経系検査法の復習をすること (30分)	授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
18	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
19	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
20	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
21	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
22	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
23	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
25	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
26	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
27	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
28	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
29	OSCE (神経系検査)	① ② ③	担当教員	演習	第16回～28回の授業で行った検査測定の復習をすること (30分)	フィードバックされた内容について再考すること (30分)
30	OSCE (神経系検査)	① ② ③	担当教員	演習	第16回～28回の授業で行った検査測定の復習をすること (30分)	フィードバックされた内容について再考すること (30分)
評価基準・評価方法						
評価方法は、グループ活動への参加度 (20%)、レポート (20%)、OSCE (60%) とする。						
使用教科書						
理学療法評価学 / 松澤 正／江口 勝彦. --第6版--金原出版, 2018年, ISBN978-4-307-75054-7 ベッドサイドの神経の診かた / 田崎義昭著. --第18版--南山堂, 2016年, ISBN978-4-525-24798-0 標準理学療法専門分野 日常生活活動学・生活環境学 / 鶴見隆正ほか編集. --第6版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-03256-8						
参考図書						
適宜紹介する						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	演習課題に対するフィードバックは、授業中またはOSCE後に担当教員から行います。					
備考	実技演習が中心の科目です。臨床実習に臨む際と同様、服装や身だしなみを整えるようにして下さい。 事前学習の「コミュニケーション演習の準備」については、第1回目の講義で具体的に説明します。 質問等がある場合は、演習中や授業終了後、オフィスアワーを積極的に活用して下さい。					

授業科目名		担当教員				
高齢者機能障害学		堀 信宏				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）				
授 業 概 要						
高齢者機能障害学では加齢に伴う様々な身体機能・能力低下や認知症，老年期症候群，癌などの疾患について学ぶ，更に転倒予防や運動療法，リスク管理など，実際の臨床に結び付く内容を教授する．その他にも家族に対する指導，高齢者に対する接し方，死生観などディスカッション・発表を通じて修得する．						
学 修 の 到 達 目 標						
①高齢者の身体的特徴，および複数の疾患を理解する． ②高齢者の身体特性と疾患を考慮し，在宅生活を目指す理学療法についてディスカッションを行う．思考過程の修得を目指す．						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ライフステージと高齢者像，高齢社会の課題と展望	①			テキストのp. 1-3, 186-187を読んでおきましょう (120分)	高齢者の定義，内科的特徴を整理しましょう (120分)
2	加齢に伴う心身機能の変化：高齢者の身体的特徴	①			テキストのp. 15-20を読んでおきましょう (120分)	加齢に伴う身体的変化を整理しましょう (120分)
3	加齢に伴う心身機能の変化：高齢者の認知・精神的特徴，認知症	①			テキストのp. 21-25を読んでおきましょう (120分)	脳の機能解剖と認知症状を照らし合わせて整理しましょう (120分)
4	加齢に伴う心身機能の変化：高齢者の認知・精神的特徴 対応について	① ②			テキストのp. 21-25, 63-65を読んでおきましょう (120分)	認知症を抱えた高齢者に対する接し方を考察しましょう (120分)
5	老年症候群：フレイル，低栄養，寝たきり（廃用症候群）	①			テキストのp. 27-30, 55-57を読んでおきましょう (120分)	高齢者に多発する疾患を整理しましょう (120分)
6	老年症候群：転倒	①			テキストのp. 35-36, 60-62を読んでおきましょう (120分)	転倒リスクにはどのようなものがあるのか整理しましょう (120分)
7	高齢者の生活機能評価：健康関連QOL	①			テキストのp. 49-52を読んでおきましょう (120分)	HRQOLスケールの特徴をまとめましょう (120分)
8	高齢者の心理，接し方	②			テキストのp. 7-12を読んでおきましょう (120分)	高齢者の心理や接し方をまとめましょう (120分)
9	高齢者の家族関係：虐待	②			高齢者の虐待のニュースを検索してみましょう (120分)	家族内で生じる問題について整理しましょう (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	高齢者の理学療法を実施する上での留意事項：リスク管理，運動負荷	① ②			脳血管障害で学んだ基本的リスク管理を復習しておきましょう (120分)	特に心臓血管系のリスク管理法について整理しましょう (120分)
11	介護予防プラン作成 1	① ②			配布資料を読んでおきましょう (120分)	高齢者の運動療法について整理しましょう (120分)
12	介護予防プラン作成 2	① ②			配布資料を読んでおきましょう (120分)	セラバンドを用いた介護予防プランを作成しましょう (120分)
13	症例検討課題	②			配布資料を読んでおきましょう (120分)	感染症予防について，症例を基に整理しましょう (120分)
14	死生観	① ②			終末期医療について検索してみましょう (120分)	終末期の患者に接する際の対応方法についてまとめましょう (120分)
15	癌に対する理学療法	①			癌とはどのような病期なのか検索してみましょう (120分)	癌の理学療法の基礎を整理しましょう (120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
筆記試験90%，提出物10%						
使用教科書						
シンプル理学療法シリーズ 高齢者理学療法学テキスト / 山田和政編集．—南江堂，2017，ISBN978-4-524-25783-6 資料を配布します．小テストと課題作成を行います．						
参考図書						
終末期リハビリテーション（荘道社） 運動療法学各論高齢者の機能障害に対する運動療法（文光堂） 高齢者リハビリテーション実践マニュアル（メディカルビュー）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法		添削後，返却する．				
備考		積極的な参加を期待する．知識の修得だけでなく，将来，専門職種としてどのような視点，心情で高齢者に向かうべきなのかディスカッションを通じて感じてもらいたい．				

授業科目名		担当教員				
脳・神経機能障害学Ⅰ（総論）		堀 信宏・大場 かおり（代表教員 堀 信宏）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）、大場かおり（理学療法士）				
授 業 概 要						
脳・神経機能障害学Ⅰ（総論）は、1年次の神経系、脳血管系解剖学を復習するとともに、リハビリテーションの代表的な対象となる脳血管障害の臨床所見、検査方法を学習する。運動麻痺の「片麻痺」とはどのような状態なのか、歩行や起き上がりはどのような動きとなるのか等、特徴的な動きについても学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①神経疾患の病理や症状を学ぶための基礎（中枢神経の解剖・生理学の知識）を定着させること。 ②中枢神経疾患の病理、臨床症状の関係について理解すること。 ③臨床でもっとも遭遇する可能性の高い、脳血管障害の評価法と治療のアウトラインを修得すること						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	脳血管障害とはどのような疾患なのか	①	大場	講義	教科書に掲載されている脳と脊髄の図を見て立体的なイメージを持っておきましょう。(30分)	配布資料を見直しましょう。(30分)
2	中枢神経系理学療法の基礎知識：中枢神経系の構造と機能	①	大場	講義	解剖学Ⅲで学んだ中枢神経系の復習をしておきましょう。(30分)	配布資料のブランクは埋めておきましょう。また授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)
3	中枢神経系理学療法の基礎知識：脳血管系の構造と機能	①	大場	講義	教科書の図をみて、血管の走行を確認しておきましょう。(30分)	配布資料のブランクは埋めておきましょう。また授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)
4	運動と感覚の中枢機能と構造	①	大場	講義	解剖学Ⅲで学んだ脊髄の神経路を復習しておきましょう。(30分)	配布資料のブランクは埋めておきましょう。また授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)
5	脳損傷の定義と病態：NINDS-Ⅲ、脳梗塞、一過性脳虚血	②	堀	講義	脳梗塞・一過性脳虚血発作の生じる血管部位について再確認しましょう(30分)	部位ごとの脳梗塞の病態を整理しましょう(30分)
6	脳損傷の定義と病態：脳出血、くも膜下出血、頭部外傷	②	堀	講義	脳出血・くも膜下出血の生じる血管部位について再確認しましょう(30分)	部位ごとの脳出血とくも膜下出血の病態を整理しましょう(30分)
7	神経疾患の画像診断	③	大場	講義	教科書の脳の図をみて、立体的に捉える練習をしておきましょう。(30分)	配布資料のブランクは埋めておきましょう。また授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)
8	脳の損傷とその回復：可塑性、ペナンプラ、使用依存性の回復	②	堀	講義	教科書Lecture1を読んでおきましょう(30分)	急性期と維持期の回復の違いを整理しましょう(30分)
9	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ：急性期、回復期、維持期	②	大場	講義	教科書p120,134を一読しておきましょう。(30分)	配布資料のブランクは埋めておきましょう。また授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴	③	堀	講義	教科書Lecture6の運動障害を読んでおきましょう (30分)	ブルンストロームステージ評価の内容を再確認しましょう (30分)
11	脳血管障害後片麻痺患者に対する評価：Impairment	③	堀	講義	教科書Lecture7の評価を読んでおきましょう (30分)	各種運動麻痺の評価の特徴を整理しましょう (30分)
12	脳血管障害後片麻痺患者に対する評価：activity limitation	③	堀	講義	教科書Lecture8の評価を読んでおきましょう (30分)	各バランステスト，ADL評価を整理しましょう (30分)
13	脳血管障害後片麻痺患者に対する評価：姿勢，動作，歩行	③	堀	講義	教科書Lecture14の症例：寝返り，起き上がりなどを見ておきましょう (30分)	脳卒中片麻痺患者の動作の特徴を整理しましょう (30分)
14	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法：歩行，起居動作，可動域訓練	③	堀	実技	教科書Lecture9の運動療法を読んでおきましょう (30分)	課題得意的トレーニング・歩行訓練の特徴を整理しましょう (30分)
15	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法：ADL	③	大場	実技	配布資料を確認しておきましょう。(30分)	講義内容（注意するポイントなど）を復習しておきましょう。(30分)
	定期試験（筆記）	① ② ③	堀 大場			
評価基準・評価方法						
期末試験100%，堀50%，大場50%ずつ出題。各担当が行う小テストを基に出題する。						
使用教科書						
理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ第2版 / 責任編集：大畑光司—中山書店，2020，ISBN 978-4-521-74496-4 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ第2版 / 責任編集：大畑光司—中山書店，2021年，ISBN 978-4-521-74497-1 病気がみえる7 脳・神経 / 医療情報科学研究所。—第2版—メディックメディア，2017年，ISBN978-4-89632-686-4						
参考図書						
ベットサイドの神経のみかた（南山堂） 絵で見る脳と神経（医学書院） 第3版 リ実践テクニック 脳卒中（メディカルビュー）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	小テストは随時返却。					
備考	脳血管障害は将来臨床に出たから高い頻度で出会う障害です。障害像を掴むように努めてください。解らない内容を後回しにせず、その都度整理につとめることが大切です。3年の臨床実習，国家試験では、脳の機能解剖と合わせて理解していることが大切になります。質問はメールでも受け付けます。					

授業科目名		担当教員				
脳・神経機能障害学Ⅱ（各論）		堀 信宏・大場 かおり（代表教員 堀 信宏）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位 (30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 理学ディプロマポリシー(2) (3) (4)の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）、大場かおり（理学療法士）				
授 業 概 要						
脳・神経機能障害学Ⅱ（各論）では、脳血管障害における合併症について説明するほか、衣服着脱や移乗動作など、日常生活を視野に入れた演習を行います。また、脳血管障害以外の神経系疾患を取り上げ、病理、臨床所見、治療について学習します。この科目で得た知識は学年末の臨床実習に必要な知識ですので、十分に学習しましょう。						
学 修 の 到 達 目 標						
①脳血管障害の合併症について、特徴や治療方法を修得すること。 ②神経系疾患についての基礎知識を、解剖学や病理学との関連を踏まえて修得すること。 ③神経疾患について、臨床所見や治療法についての理解を深めること。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	脳血管障害における合併症（１）	①	大場		教科書（15レクチャー）のp107～一読しましょう。（30分）	配布資料を見直し、ブランクを埋めておきましょう（30分）
2	脳血管障害における合併症（２）	①	大場		「病気がみえる 7」p238畜尿と排尿の部分を一読しておきましょう（30分）	配布資料を見直し、ブランクを埋めておきましょう（30分）
3	高次脳機能障害（１）	①	大場		「病気がみえる 7」p22～大脳皮質の部分を一読しておきましょう（30分）	配布資料を見直し、ブランクを埋めておきましょう（30分）
4	高次脳機能障害（２）	①	大場		「病気がみえる 7」p157高次脳機能障害を一読しておきましょう（30分）	配布資料を見直し、ブランクを埋めておきましょう（30分）
5	脳血管障害の症例検討	①	大場		脳血管障害の臨床症状を拭く種しておきましょう。（30分）	配布資料を見直し、ブランクを埋めておきましょう（30分）
6	パーキンソン病の病態	②	堀		教科書Lecture19を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて病態、症状の整理しましょう（30分）
7	理学療法パーキンソン病に対する理学療法	③	堀		教科書Lecture20を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて評価・理学療法の整理しましょう（30分）
8	運動失調症の病態と理学療法	② ③	大場		教科書（15レクチャー）のp61を一読しておきましょう（30分）	配布資料を見直し、ブランクを埋めておきましょう（30分）
9	頭部外傷・脳腫瘍の病態	②	堀		教科書Lecture25を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて病態、症状の整理しましょう（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	多発性硬化症（重症筋無力症含む）の病態	②	堀		教科書Lecture27を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて病態、症状の整理しましょう（30分）
11	多発性硬化症（重症筋無力症含む）の理学療法	③	堀		教科書Lecture28を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて評価・理学療法の整理しましょう（30分）
12	理学療法筋萎縮性側索硬化症の病態と理学療法	② ③	堀		教科書Lecture29・30を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて病態、症状・理学療法の整理しましょう（30分）
13	脊髄損傷の病態：運動系	②	堀		日常生活活動学等の本で脊髄損傷の活動を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて病態、症状の整理しましょう（30分）
14	脊髄損傷の病態：自律神経系	②	大場		「病気がみえる7」p230自律神経系の部分を一読しておきましょう（30分）	配布資料を見直し、ブランクを埋めておきましょう（30分）
15	ギランバレー症候群、シャルコ・マリー・トゥース病の病態	②	大場		「病気がみえる7」p302～ギランバレー症候群の部分を一読しておきましょう（30分）	配布資料を見直し、ブランクを埋めておきましょう（30分）
	定期試験（筆記）	① ② ③	堀 大場			
評価基準・評価方法						
期末試験100%、堀50%、大場50%ずつ出題。各担当が行う小テストを基に出題する。						
使用教科書						
理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ第2版 / 責任編集 大畑光司--中山書店, 2020年, ISBN978-4-521-74496-4 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ第2版 / 責任編集 大畑光司--中山書店, 2021年, ISBN978-4-521-74497-1 病気がみえる7 脳・神経 第2版 / 医療情報科学研究所.--メディックメディア, 2017年, ISBN978-4-89632-686-4 小テストを実施します。						
参考図書						
ベットサイドの神経のみかた（南山堂） 絵で見る脳と神経（医学書院）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	小テストは随時返却。					
備考	神経疾患は国家試験の出題が多い疾患です。障害像を掴むように努めてください。前学期「脳・神経機能障害学Ⅰ（総論）」と同様に、解らない内容を後回しにせずコツコツ理解するように努めてください。					

授業科目名		担当教員				
骨・関節機能障害学（上肢）		田島 嘉人				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		田島嘉人（理学療法士）				
授 業 概 要						
骨・関節機能障害学（上肢）では、上肢の機能解剖学（運動学・解剖学）等基礎知識の確認を行うと共に、主要な整形外科、外科疾患である上肢の関節の骨折及び軟部組織損傷、変形性関節症などの病態理解を深める。また、各整形外科的検査法をはじめとする評価結果を踏まえ、結果をどのように解釈するのか、理学療法をどのような流れで展開させるのかなどを学ぶ。授業形式は主にディスカッション、ディベート、グループワークにて行い、Outputすることで、知識の定着と応用する力を養う。レポートの提出などはICTを活用する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①臨床推論→評価項目抽出→検査→考察→問題点の抽出の流れを把握することができる ②主要な上肢の整形外科疾患の病態を理解することができる ③実習における報告連絡相談の方法について体験しできるようにする						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	総論 整形外科疾患における知識の必要性	①			関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹の序文、目次（p. iii xvii）を読み、整形外科疾患を評価するための知識技術の必要性について理解する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
2	整形外科領域における評価No. 1	①			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
3	PBL（肩関節病態運動学）No. 1	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
4	PBL（肩関節病態運動学）No. 2	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
5	PBL（肩関節病態運動学）No. 3	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
6	PBL（肩関節病態運動学）No. 4	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
7	PBL（肩関節病態運動学）No. 5	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
8	PBL（肩関節病態運動学）No. 6	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
9	PBL（手関節病態運動学）No. 1	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	PBL（手関節病態運動学）No. 2	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
11	PBL（手関節病態運動学）No. 3	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
12	PBL（手関節病態運動学）No. 4	① ② ③			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
13	肘関節病態について	②			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
14	整形外科領域における評価No. 1	① ②			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
15	整形外科領域における評価No. 2	① ②			配布資料を熟読する（30分）	レポートおよび配布資料の復習（30分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
グループディスカッション参加度（40％）、レポート（期限提出）（30％）、期末試験（30％）						
使用教科書						
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹 / 整形外科リハビリ学会. --改訂第2版--メジカルビュー, 2014年, ISBN978-4-7583-1478-7						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポートの返却					
備考	骨関節機能障害の理解に必要な解剖学、運動学、疾患学などの知識の応用と実習に必要な臨床推論から問題点の抽出までの臨床における理学療法の考え方を学びます。分からないこと、理解できないことがあれば、すぐに質問してください。					

授業科目名		担当教員				
骨・関節機能障害学（下肢・体幹）		曾田 直樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹（理学療法士）				
授 業 概 要						
骨・関節機能障害学（下肢・体幹）では、理学療法を実施する機会の多い下肢・体幹の運動学、歩行における役割を学ぶ。また各関節に生じやすい疾病（大腿骨頸部骨折、T H A など）を中心に、運動学的見地を交えて障害を捉える方法について学ぶ。臨床運動学や骨関節治療技術と関連する。講義ではディスカッションなどを通して知識や動作の理解を深める。						
学 修 の 到 達 目 標						
①歩行における下肢・体幹の役割を理解できる。 ②下肢・体幹の疾患についての病態を理解し、その理学療法を理論的に説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	足関節の病態運動学	① ②			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
2	足関節の歩行時の役割	①			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
3	足関節疾患の病態を考える	②			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
4	足関節疾患の運動療法（理論と実際）	②			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
5	膝関節の病態運動学	① ②			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
6	膝関節の歩行時の役割	①			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
7	膝関節疾患の病態を考える	②			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
8	膝関節疾患の運動療法（理論と実際）	②			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
9	股関節の病態運動学	① ②			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	股関節の歩行時の役割	①			解剖学、運動学の復習 (30分)	講義の復習 (30分)
11	股関節疾患の病態を考える	②			解剖学、運動学の復習 (30分)	講義の復習 (30分)
12	股関節疾患の運動療法 (理論と実際)	②			解剖学、運動学の復習 (30分)	講義の復習 (30分)
13	腰椎の運動学	① ②			解剖学、運動学の復習 (30分)	講義の復習 (30分)
14	腰椎疾患の病態を考える	②			解剖学、運動学の復習 (30分)	講義の復習 (30分)
15	腰椎疾患の運動療法 (理論と実際)	②			解剖学、運動学の復習 (30分)	講義の復習 (30分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視 評価方法：定期試験（90%）、態度・意欲（10% 小テスト、授業参加度など）にて総合的に判断する。						
使用教科書						
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢 / 整形外科リハビリ学会、--改訂第2版--メジカルビュー、2014年、ISBN978-4-7583-1479-4						
参考図書						
・筋骨格系のキネシオロジー 原著：Donald A 監訳：島田智明ら 医歯薬出版株式会社						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義の中で解説					
備考	オフィスアワー 月曜日12:25~13:15					

授業科目名		担当教員				
内部機能障害学（循環器系）		長谷部 武久・河合 克尚（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久（理学療法士） 河合克尚（理学療法士）				
授 業 概 要						
主に虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症）や心不全などの循環器疾患を引き起こす障害像の把握、必要な評価項目の選択、評価を実施する際の留意点などについて学ぶ。また、循環器疾患に対する理学療法がどのような流れで展開されるのか、治療までの全体像を捉えられるようにする。12～14回目は循環器疾患症例についてPBL方式によるグループ学習を取り入れることで、柔軟な課題発見、問題解決のための専門知識を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①循環器系の解剖と生理について述べることができる ②虚血性心疾患に対する評価および理学療法について述べることができる ③心不全に対する評価および理学療法について述べることができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動と循環	①	河合		教科書（p.11-20）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
2	運動耐容能とその評価	①	河合		教科書（p.39-46）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
3	心電図の診かた	①	河合		教科書（p.31-37、p.93-104）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
4	心電図の診かた	①	河合		教科書（p.31-37、p.93-104）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
5	虚血性心疾患の病態と治療	②	河合		教科書（p.21-30）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
6	虚血性心疾患の病態と治療	②	河合		教科書（p.57-62）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
7	心不全の病態、検査と治療	③	長谷部		教科書（p.25-27）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
8	心不全の病態、検査と治療	③	長谷部		教科書（p.81-84）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
9	心不全の病態、検査と治療	③	長谷部		教科書（p.31-33、p.81-84、p.86-87）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	循環器疾患の運動療法	② ③	長谷部		教科書（p.57-71）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
11	循環器疾患の運動療法	② ③	長谷部		教科書（p.85-92）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
12	グループディスカッション①	② ③	長谷部 河合		授業内容の復習をすること（30分）	グループ学習で得た知識の整理（30分）
13	グループディスカッション②	② ③	長谷部 河合		グループ学習で得た知識の整理（30分）	グループ学習で得た知識の整理（30分）
14	グループディスカッション③	② ③	長谷部 河合		グループ学習で得た知識の整理（30分）	発表資料の作成（30分）
15	プレゼンテーション（グループ発表）	② ③	長谷部 河合		発表資料の作成（30分）	他のグループ発表から得た知識の整理（30分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
グループ活動への参加度（10%）、定期試験（90%）とする						
使用教科書						
シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト / 山崎裕司ほか、--細田多穂--南江堂，978-4-524-25479-8						
参考図書						
適宜紹介する						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、授業の理解度を確保するための小テストを実施直後、解答の解説を行います。					
備考	授業終了後に質問を受け付ける。メールによる質問も可。 t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp k.kawai@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
内部機能障害学（代謝・呼吸器系）		河合 克尚・亀山 咲子（代表教員 河合 克尚）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位 (30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 理学ディプロマポリシー(2) (3) (4)の達成に寄与している。		河合克尚（理学療法士）・亀山咲子（理学療法士）				
授 業 概 要						
糖尿病などの代謝系疾患、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患を引き起こす障害像の把握、必要な評価項目の選択、評価を実施する際の留意点などについて学ぶ。また、理学療法がどのような流れで展開されるのか、治療までの全体像を捉えられるようにする。11～14回目は、代謝・呼吸器疾患症例についてPBL方式によるグループ学習を取り入れることで、柔軟な課題発見、問題解決のための専門知識を養う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①糖尿病などの代謝系疾患に対する評価および理学療法について理解する。 ②慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患に対する評価および理学療法について理解する。 ③代謝系疾患、呼吸器疾患に対するフィジカルアセスメントの技術を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	代謝系疾患（メタボリックシンドローム）の病態（p. 307-312, 317-320）	①	亀山		教科書（p. 307-312、p. 317-320）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
2	糖尿病の病態（p. 307-312, 317-320）	①	亀山		教科書（p. 307-312、p. 317-320）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
3	糖尿病の治療（p. 321-329）	①	亀山		教科書（p. 321-329）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
4	代謝系疾患の評価（p. 321, 333-344）	①	亀山		教科書（p. 321、333-344）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
5	代謝系疾患の理学療法（p. 345-363）	①	亀山		教科書（p. 345-363）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
6	運動と呼吸	②	河合		教科書（p. 2-4、p. 155-162）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
7	酸素化能と換気能力（p. 179-188）	②	河合		教科書（p. 179-188）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
8	代表的な呼吸器疾患	②	河合		教科書（p. 163-177）のCOPDと間質性肺炎について目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
9	呼吸理学療法のための評価	②	河合		教科書（p. 195-203）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	COPDの理学療法	②	河合		教科書 (p.215-238) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
11	フィジカルアセスメント	③	河合 亀山		糖尿病と呼吸器疾患の理学療法評価について復習しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
12	グループディスカッション①	① ②	河合 亀山		授業内容の復習をすること (30分)	グループ学習で得た知識の整理 (30分)
13	グループディスカッション②	① ②	河合 亀山		課題に対する調べ学習 (30分)	グループ学習で得た知識の整理 (30分)
14	グループディスカッション③	① ②	河合 亀山		課題に対する調べ学習 (30分)	発表資料の作成 (30分)
15	プレゼンテーション (グループ発表)	① ②	河合 亀山		発表資料の作成 (30分)	他のグループ発表から得た知識の整理 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
グループ活動への参加度10%、定期試験90%						
使用教科書						
内部障害理学療法学テキスト / 監修：細田多穂. --改訂第3版--南江堂, 2017年, ISBN978-4-524-25479-8						
参考図書						
適宜紹介する						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション (グループ発表) に対するフィードバックは授業内に行います。					
備考	授業終了後に質問を受け付ける。メールによる質問も可。 k.kawai@heisei-iryuu.ac.jp s.kameyama@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
発達機能障害学		松田 充弘				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	1単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		松田充弘(理学療法士)				
授 業 概 要						
成人の障害は、一度獲得した機能の回復となるが、小児での障害に対しては、障害に応じて発達を築き上げていく必要がある。発達を促していくために必要な、正常発達について、主に運動に注目して学習する。小児特有の疾患である脳性麻痺・二分脊椎・筋ジストロフィー症について、障害の特徴・評価・治療について学習する。特に脳性麻痺については、タイプによる特徴・問題点・治療方法について詳しく学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①姿勢・運動の障害の分析が質的に行うことができる。 ②正常運動発達を理解し、肢体不自由児の発達、運動の問題点を理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	発達障害学概論・正常発達概論(小児期で理学療法の対象になる疾患について)	②			資料が事前に配布されていれば、正常発達まで目を通しておく。(45分)	解剖学の再確認、講義資料の復習(45分)
2	正常発達 新生児期～6ヶ月(出生してから、どのようにして頸が座るのか?どのようにして座れるようになるのか?)	②			You tubeで正常発達(新生児期～歩き始めまで)の動画を見ておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
3	正常発達 7ヶ月～12ヶ月(どのようにして歩行を獲得するのか?)	②			You tubeで正常発達(新生児期～歩き始めまで)の動画を見ておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
4	脳性麻痺概論(脳性麻痺の原因・特徴・問題点について)	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
5	評価概論(脳性麻痺を中心に評価方法について)	①			運動学を復習し姿勢保持に必要な筋活動を確認しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
6	評価(姿勢筋緊張の評価、姿勢・動作分析について 座位バランス等の簡単な実技も行う)	①			運動学を復習し姿勢保持に必要な筋活動を確認しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
7	評価(日常生活動作の評価について)	①			食事動作、更衣動作に必要な要素を自分の動作で確認しておく。(45分)	自分の食事動作、更衣動作を講義の内容を復習しながら分析してみてください。(45分)
8	脳性麻痺類型別痙直型両麻痺(障害の特徴について)	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ、線図で姿勢を描けるようにしておきましょう。(45分)
9	脳性麻痺類型別痙直型両麻痺(問題点、理学療法について)	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳性麻痺類型別痙直型四肢麻痺（障害・問題点・理学療法について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ、線図で姿勢を描けるようにしておきましょう。（45分）
11	脳性麻痺類型別片麻痺（障害の特徴について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ、線図で姿勢を描けるようにしておきましょう。（45分）
12	脳性麻痺類型別片麻痺（問題点・理学療法について）	②			治療で用いる日常生活、遊びでの両手動作を考えておいて下さい。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ（45分）
13	脳性麻痺類型別アテトーゼ（障害の特徴について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ、線図で姿勢を描けるようにしておきましょう。（45分）
14	脳性麻痺類型別アテトーゼ（問題点・理学療法について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ（45分）
15	二分脊椎・筋ジストロフィー症（障害・問題点・理学療法について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ（45分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
筆記試験 100%						
使用教科書						
プリントを配布します。						
参考図書						
講義の際に紹介します。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	講義のみで課題の提出はありません。					
備考	板書を多くしますので、ノートなどを準備して下さい。					

授業科目名		担当教員				
物理療法学（温熱療法）		大場 かおり				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)		講義・演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		大場かおり（理学療法士）				
授 業 概 要						
物理療法は物理的手段で生体の自然治癒力を高めるものである。理学療法の治療体系での位置づけを学び、熱エネルギーが生体に与える生理学的作用・治療効果・治療目的・適応と禁忌について学習する。さらに物理療法機器を実際に用いてグループで演習を行ない、治療効果、使用方法、使用上の注意、安全確保についてグループでディスカッションしてレポートを作成する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①温熱や寒冷が人体にもたらす生理学的、物理的影響を理解すること。 ②疾患の特性、患部の状況に応じた治療方法の選択ができること。 ③効果的かつ安全な物理療法技術について理解し習得すること。 ④使用機器の特性を理解し、対象者に適切に説明し安全に配慮してできること。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物理療法について：物理療法の総説（定義、歴史、効果、リスク管理）	①		講義	教科書の第2章を事前に読んでおきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせながら復習しておきましょう（60分）。
2	熱の物理学：温熱療法実施に必要な物理学	①		講義	教科書p25-28を読み、高校までに学習した物理学の基礎を復習しておきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
3	熱の生理学：温熱療法が生体に与える生理学的影響について	①		講義	教科書p29-34を読んでおきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
4	温熱療法総論：温熱療法の種類、適応、禁忌	① ②		講義	教科書p7-8を読み、温熱療法の種類を把握しておきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
5	ホットパック療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③		講義	教科書p34-39を読んでおきましょう（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
6	パラフィン浴療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③		講義	教科書40-45を読んでおきましょう（30分）。	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
7	高周波療法：生理作用、適応、禁忌	② ③		講義	教科書p70-78を読んでおきましょう（30分）。	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
8	超短波・極超短波療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③		講義	教科書p79-89を読んでおきましょう（30分）。	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
9	超音波療法：超音波の概要	② ③		講義	教科書p130-139を読んでおきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	超音波療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③		講義	教科書p139-146を読んでおきましょう。(30分)	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。(60分)
11	赤外線療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③		講義	教科書p91-97、p106-114を読んでおきましょう。(30分)	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。(60分)
12	物理療法の臨床応用について	② ③		講義	事前学習 今まで配布された資料や教科書の該当ページを復習しておきましょう。(30分)	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。(60分)
13	寒冷療法：寒冷療法が生体に与える生理学的影響について、適応、禁忌	① ②		講義	教科書p47-53を読み、温熱との比較を試みましょう。(30分)	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。(60分)
14	温熱療法演習：グループワーク 各論で学習した機器を使用し、生体に与える温熱の影響についてディスカッションする。	③ ④		演習	教科書、配布資料を確認しておきましょう。(30分)	グループワークで学んだことを復習し、つづいてレポートを完成させましょう。(60分)
15	寒冷療法演習：グループワーク 寒冷療法演習：グループワーク 各論で学習した機器を使用し、生体に与える寒冷の影響についてディスカッションする。	③ ④		演習	教科書、配布資料を確認しておきましょう。(30分)	グループワークで学んだことを復習し、つづいてレポートを完成させましょう。(60分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
演習後のレポート(10%)、筆記試験(90%)の総合評価です。試験では、特に熱の生理学的・物理学的影響、物理療法の適応と禁忌について、知識が定着しているかをみます。演習レポートはグループディスカッションの結果を個人でまとめます。提出期限厳守とし、期限を過ぎたものは評価対象になりません。						
使用教科書						
物理療法学 / 松澤正. --改訂第2版--金原出版, 2012年, ISBN978-4-307-75031-8						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	レポートは書式が整っているか、および課題に対する回答がなされているかをポイントに確認します。不備が多い場合は再提出もあり得るので、注意しましょう。					
備考	質問は随時受け付けます。名称に「物理」とつくつと戻込みする人がいますが、必ず理解できますので積極的に質問に来ましょう。メールでも対応可能です。 k.ooba@heisei-iryou.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
物理療法学（電気・牽引・水治療法）		辻 圭一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		辻圭一（理学療法士）				
授 業 概 要						
電気・牽引・水治療法の講義では、治療に利用する光線、電気、牽引、水の特性と、それぞれが持つエネルギーが生体に与える生理学的作用および治療効果や治療目的、適応と禁忌について学習する。また、自然科学におけるエネルギーの物理的作用についても言及する。実習では物理療法機器を実際に用い、使用方法、使用上の注意、安全確保を学習する。講義を通じて医療従事者の基本的態度を身につけ、効果的かつ安全な治療行為の習得を目指す。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各療法が生体に作用する原理が理解できる。 ②適応となる疾病や禁忌となる疾病を理解できる。 ③機器や手技を体験し、特性が理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	光線療法概論（光・波長・周波数について） p91-95	①		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
2	光線療法概論（電磁波・可視光線・放射線について） p96-97	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
3	紫外線療法（原理・物理的特性・機器の説明・適応と禁忌） p98-106	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
4	レーザー光線療法（原理・物理的特性・機器の説明・適応と禁忌） p114-127	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
5	水治療法（水の力学的作用・機器の説明・適応と禁忌） p189-222	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
6	牽引療法（牽引療法の原理・機器の説明・適応と禁忌） p223-248	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
7	電気療法（電気の基礎、電圧・電流・抵抗について） p149-150	①		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
8	電気療法（電気生理学） p150-156	①		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
9	電気療法（電気療法の生体への影響） p157-164	②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	電気療法（電気療法の実際（低周波治療・TENS・SSP・干渉波・FES・TES）） p165-188	②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと （45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること （45分以上）
11	筋電図バイオフィードバック療法（方法、適応、注意点について）	① ②		講義	特になし	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること （90分以上）
12	疼痛の分類、マッサージ療法の理論 p249-264	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと （45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること （45分以上）
13	演習1.（水治療法・牽引療法）	③		演習	各療法について復習しておくこと（45分以上）	各療法の適応と禁忌を確認すること （45分以上）
14	演習2.（光線療法・電気療法）	③		講義 演習	各療法について復習しておくこと（45分以上）	各療法の適応と禁忌を確認すること （45分以上）
15	演習3.（マッサージ療法）	③		演習	マッサージ療法について復習しておくこと（45分以上）	マッサージ療法の適応と禁忌を確認すること（45分以上）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
中間テスト（30％）定期試験（70％）						
使用教科書						
物理療法学 / 松澤正. --改訂第2版--金原出版, 2012, ISBN978-4-307-75031-8						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	試験範囲および出題形式について、第1回に連絡します。					
備考	本講義にノートは必要ありません。それに代わるレジュメを配布します。レジュメは中間テストと定期試験の勉強に必要となるので、講義中に十分な書き込みをし大切に保管する事。					

授業科目名		担当教員				
義肢装具学		石田 裕保・篠田 信之（代表教員 石田 裕保）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位 (30時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		石田裕保(理学療法士)、篠田信之（義肢装具士）				
授 業 概 要						
装具の種類・機能・使用目的などを学ぶ。動作に必要な運動機能と装具の物理的特性との関連を理解することにより、障害に応じた装具の選択、チェックアウトを確認できるようにする。（担当；石田 8コマ） 義肢装具学では、切断者の術前評価・術後管理から各義肢の目的・機能等を学ぶ。義肢装着時の歩行のチェックアウト（異常歩行の問題点を抽出）が行えるようにする。（担当；篠田 7コマ）						
学 修 の 到 達 目 標						
①病態を理解し、適切な義肢を処方出来るようにする。 ②障害を理解し、適切な装具を処方することが出来るようにする。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	義肢学総論；義肢全般の考え方・ヒストリー	①	篠田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）
2	切断術について；切断の原因及び切断部位、切断部位の選択、切断術	①	篠田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）
3	断端ケアと訓練；各ドレッシング方法について（実技、幻肢、幻肢痛、浮腫）	①	篠田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）
4	義肢各パーツ；ソケット・継手など義肢の基本事項、義足	①	篠田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）
5	義肢；膝・足及びアライメント、継手の機能と種類	①	篠田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）
6	義肢；大腿義足・下腿義足チェックアウト 大腿・下腿、膝継手の立脚相、遊脚相の役目、足部	①	篠田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）
7	異常歩行；大腿義足、下腿義足（膝・サイム足根）、義手	①	篠田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）
8	装具学総論；歴史・定義・目的・種類・分類・材料・制作過程（法制度）・EBM	②	石田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）
9	下肢装具について；種類と機能、継手	②	石田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。（120分）	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	短下肢装具;種類と機能	②	石田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
11	長下肢装具、杖;種類と機能	②	石田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
12	靴型装具;種類と各種補正	②	石田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
13	下肢装具のチェックアウト;支柱付き長下肢装具・短下肢装具、プラスチック製短下肢装具	②	石田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
14	各体幹装具、側彎症装具;頸椎、胸椎、腰椎、仙椎装具及び特殊装具、コブ角計測方法について	②	石田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
15	手の装具、特殊装具(ペルテス病、先天性股関節脱臼、先天性内反足、脳性麻痺など)	②	石田		講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
期末試験(80%)、小テスト(20%)を総合的に判断する。						
使用教科書						
1 5 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 / 責任編集: 佐竹将宏. -- 中山書店, 2011年, ISBN978-4-521-73225-1 1 5 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学 / 責任編集: 永富史子. -- 中山書店, 2011年, ISBN978-4-521-73226-8						
参考図書						
【義肢学】切断と義肢 初版 (医歯薬出版) 【装具学】・義肢装具学 第4版 (医学書院)・装具治療マニュアル/装具学 第3版 (医歯薬出版)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法		適宜小テストを行い、採点し返却します。				
備考		講義は、座学形式で行なう。ビデオを使用したり、実技を行なったりする。 適宜プリント資料を配付する。 小テストは、事前に連絡し行う。小テストの解説を行う。質問がある場合は、オフィスアワーなどに来てください。				

授業科目名		担当教員				
日常生活活動学		石田 裕保・大場 かおり・亀山 咲子 (代表教員 石田 裕保)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位 (30時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		石田裕保(理学療法士)、大場かおり(理学療法士)、亀山咲子(理学療法士)				
授 業 概 要						
理学療法では日常生活活動の改善を主要な治療目標にしている。その基礎知識として概念、目標、範囲を整理し、障害構造（ICF）などを教授する。脳血管障害、脊髄損傷、慢性疼痛など日常生活に支障を生じる主要な疾患を想定し、日常生活障害を具体化し、グループワークなどを行い、治療目標を見つけ出すことができるよう教授する。また、様々なADL評価方法や動作分析の方法を教授する。臨床実習で直接的に患者様に関わる時に必要となる「動作介助」の実技を2人1組で行い、指導方法、介助技術〔言葉の使い方、介助の程度、介助の方法〕を教授する。又、生活範囲を広げていく為に必要な補装具や福祉用具の使用法についても教授する。主に車椅子、杖の使い方、段差・階段移動等を中心に指導を進める。						
学 修 の 到 達 目 標						
①ADLの概念について理解する。 ②動作介助の実技を習得する。 ③評価方法を理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション 概論 日常生活活動学	①	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。 (120分)
2	ADLとAPDL	①	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。 (120分)
3	できるADL・しているADL、ICF、ICIDH	①	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。 (120分)
4	更衣動作、浴槽への移乗、環境整備、座位保持装置	①	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。 (120分)
5	脊髄損傷の評価方法 ASIA、Zancoli など	③	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。 (120分)
6	ADL評価法（BI、カツなど）	③	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。 (120分)
7	歩行器、車椅子、車椅子の取り扱いについて	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に授業計画内容と教科書（イラストによる安全な動作介助の手引き）を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。 (120分)
8	トランスファー 車いす⇄ベッド 1人介助 リフターの使い方	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に授業計画内容と教科書（イラストによる安全な動作介助の手引き）を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。 (120分)
9	トランスファー 車いす⇄ベッド 2人介助	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に授業計画内容と教科書（イラストによる安全な動作介助の手引き）を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 (120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	動作介助、背臥位⇔腹臥位	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に授業計画内容と教科書（イラストによる安全な動作介助の手引き）を照らし合わせて範囲を一読して下さい。（120分）	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。（120分）
11	床からの立ち上がり	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に授業計画内容と教科書（イラストによる安全な動作介助の手引き）を照らし合わせて範囲を一読して下さい。（120分）	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。（120分）
12	杖・松葉杖歩行	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に授業計画内容と教科書（イラストによる安全な動作介助の手引き）を照らし合わせて範囲を一読して下さい。（120分）	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。（120分）
13	トランスファー 整形疾患、中枢疾患	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に整形疾患や中枢疾患の病態について調べておいてください。（120分）	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。（120分）
14	ADL評価法（FIM・SIAS）	③	大場	講義	「脳卒中の機能評価」p40-43（SIASの特徴と概要）の内容を確認しておきましょう。検査内容を示す図を見てください。（120分）	教科書と配布資料を用いて概要を復習しましょう。（120分）
15	ADL評価法（FIM・SIAS）	③	大場	講義	「脳卒中の機能評価」p83-89（FIMの特徴と概要）を確認しておきましょう。（120分）	教科書をよく復習し、巻末の症例紹介を読みながら採点してみましょう。（120分）
	定期試験（筆記・実技）					
評価基準・評価方法						
期末試験（80％）。小テスト（20％）をもって総合的に判断する。 期末試験は実技と筆記を行う。						
使用教科書						
標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 / 鶴見隆正ほか編集。--第5版--医学書院、2017年、ISBN978-4-260-03256-8 新 イラストによる安全な動作介助のてびき / 飛松好子編著。--第3版--医歯薬出版社、2016年、ISBN978-4-263-21731-3 脳卒中の機能評価SIASとFIM〔基礎編〕 / 千野直一ほか。--金原出版、2012年、ISBN978-4-307-75033-2						
参考図書						
講義の際、適宜紹介します。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	希望者は期末試験終了後、実技に関して、よかったところ、修正すべきところをフィードバックします。					
備考	主にADL評価方法（座学）と動作介助（演習）を行う。演習の際は講義内で指定した場所・服装で行って下さい。 座学と演習の講義を行うため、講義によって使用教室が異なります。その場合、事前に連絡します。 適宜プリント資料を配付する。質問がある場合は、オフィスアワーなどに確認をして下さい。					

授業科目名		担当教員				
理学療法総合セミナーⅠ		石田 裕保・長谷部 武久・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 石田 裕保)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		石田裕保(理学療法士)、長谷部武久(理学療法士)、辻圭一(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)、植木努(理学療法士)				
授 業 概 要						
解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)、運動学総論、臨床運動学で学んだ知識をもとに、理学療法評価のひとつである歩行分析を学ぶ。その際、ビデオ資料などを用いる。この科目で学んだ知識は2年次の後学期に開講される「理学療法総合セミナーⅡ」、「評価実習前セミナー」、「臨床実習Ⅱ(評価)」に発展する。演習では、5名程度のグループをつくり、ディスカッションをしながら授業を進めていく。また、各グループを教員が担当し、適宜助言等を行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①動作分析の意義・方法について理解する ②正常歩行の成り立ち・メカニズムについて理解する ③実習で必要な異常歩行の線画作成や文章化を出来るようにする						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	動作分析とは	①	石田	講義	1年次科目の「運動学総論」「臨床運動学」の復習を行って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
2	評価意義 観察から評価へどのように関連付けるのか？	①	石田	講義	1年次科目の「運動学総論」「臨床運動学」の復習を行って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
3	正常歩行の運動学的事項の確認	②	石田	講義	1年次科目の「運動学総論」「臨床運動学」の復習を行って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
4	正常歩行の線画作成(練習)	②	石田	演習	1年次科目の「運動学総論」「臨床運動学」の復習を行って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
5	正常歩行の線画作成	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
6	正常歩行の線画作成	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
7	正常歩行の観察文章化	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
8	正常歩行の観察文章化	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
9	正常歩行の観察文章化(まとめ)	②	石田	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	異常歩行の線画作成	③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解してください。(60分)
11	異常歩行の線画作成	③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解してください。(60分)
12	異常歩行の線画作成	③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解してください。(60分)
13	異常歩行の観察文章化	③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解してください。(60分)
14	異常歩行の観察文章化	③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解してください。(60分)
15	異常歩行の観察文章化（まとめ）	③	石田	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解してください。(60分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
期末試験（80％）、レポート（20％）をもって総合的に判断する。						
使用教科書						
基礎運動学 / 中村隆一ほか. --第6版補訂--医歯薬出版社, 2003年, ISBN978-4-263-21153-3 臨床運動学 / 中村隆一ほか. --第3版--医歯薬出版社, 2002年, ISBN978-4-263-21134-2						
参考図書						
観察による歩行分析 訳 月城慶一ほか（医学書院）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	講義中にレポートの書き方などを複数の教員で個別に指導します。提出されたレポートに関しては、添削などを行い返却します。					
備考	1年生に学んだ知識の復習、学び直しのいい機会です。分からない事がある場合は、すぐに解決するようにして下さい。 随時、質問を受け付けます。					

授業科目名		担当教員				
理学療法総合セミナーⅡ		石田 裕保・長谷部 武久・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 石田 裕保)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位 (30時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		石田裕保(理学療法士)、長谷部武久(理学療法士)、辻圭一(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)、植木努(理学療法士)				
授 業 概 要						
「理学療法総合セミナーⅠ」で学んだ正常歩行や異常歩行の線画・観察文章をもとに、実際の患者の歩行映像をビデオで流し、理学療法の臨床思考(動作から考えられる問題点の抽出、考察及び統合と解釈)を身につけることを目的とする。この科目で学んだ知識は、2年次の後学期の「評価実習前セミナー」、「臨床実習Ⅱ(評価)」と関連する。演習では、5名程度のグループをつくり、ディスカッションをしながら授業を進めていく。また、各グループを教員が担当し、適宜助言等を行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①実習に必要な態度を学ぶ。 ②実習のレポート作成に必要な知識について学び、異常歩行の問題点を抽出できるようにする。 ③パソコン操作が習得できるようにする。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション 臨床での歩行分析について TPO	①	石田	講義	理学療法総合セミナーⅠで学習した内容を見直してください。(60分)	歩行に関して分からなかったこと等を調べて学習してください。(60分)
2	記録と報告について POSシステム SOAP	②	石田	講義	SOAP(臨床での記録方法)について調べてください。(60分)	講義で行ったことを見直し復習をしてください。(60分)
3	片麻痺患者の歩行観察及び分析	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	片麻痺の特徴的な歩行について事前に調べておいてください。(60分)	片麻痺の異常歩行について動作を模倣できるようにして下さい。(60分)
4	片麻痺患者の歩行観察及び分析	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	片麻痺の特徴的な歩行について事前に調べておいてください。(60分)	片麻痺の異常歩行について動作を模倣できるようにして下さい。(60分)
5	片麻痺患者の歩行観察及び分析	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本で行った内容をまとめ理解してください。(60分)
6	レポート書式説明および作成	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本で行った内容をまとめ理解してください。(60分)
7	レポート書式作成	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本で行った内容をまとめ理解してください。(60分)
8	レポート書式作成	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本で行った内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
9	レポート書式作成	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本で行った内容をまとめ整理し理解してください。(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	問題点抽出	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
11	考察および統合と解釈	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
12	考察および統合と解釈	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	講義	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
13	レポートの書き方	③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
14	レポートの書き方	③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
15	レジュメの書き方	③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	講義	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
レポート（50％）、期末試験（50％）を総合して判断する。 レポートは、基本講義の時間内で作成します。						
使用教科書						
標準理学療法学専門分野 理学療法臨床実習とケーススタディ / 鶴見隆正ほか編集、--第2版--医学書院、2011年、ISBN978-4-260-01207-2						
参考図書						
ケースで学ぶ理学療法臨床思考 臨床推論能力スキルアップ（文光堂）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	講義中にレポートの書き方などを複数の教員で個別に指導します。提出されたレポートに関しては、添削などを行い返却します。					
備考	この講義ではパソコンを使用しますので、各自、事前に用意してください。エクセル・ワードが必要です。 分からないことは、事前に調べ、理解できない時にはいつでも質問に来て下さい。					

授業科目名		担当教員				
脳・神経系理学療法治療技術		堀 信宏・藤橋 雄一郎 (代表教員 堀 信宏)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位 (30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 理学ディプロマポリシー(2) (3) (4)の達成に寄与している。		堀信宏 (理学療法士) 、藤橋雄一郎 (理学療法士)				
授 業 概 要						
脳・神経系理学療法治療技術では、主に脳血管障害、脊髄損傷に対する具体的な治療手技を学ぶ。動作介助をはじめ、CI療法、関節可動域訓練などについて学ぶ。中でも脳血管障害者は理学療法の対象疾患として臨床上非常に高い頻度で遭遇する。その為、体系化された様々な治療手技について学ぶだけでなく、脳の多様な機能を反映した様々な臨床症状、リスクを学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①脳血管の解剖学的理解と、損傷による病理的变化を修得する。 ②評価 (アセスメント) /投薬/離床基準/可動域訓練/動作介助など、実践的な内容を修得する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	脳血管障害のリスク管理と脳卒中治療ガイドライン	①	藤橋	講義	脳血管障害の特徴について、2年次の脳・神経機能障害学の内容を再確認しておきましょう (30分)。	起立・歩行の重要性について、生理学的な解釈を含め説明できるようにしましょう (30分)。
2	脳血管障害のチーム医療 (連携)	①	堀	講義	脳血管障害の病期について、2年次の脳・神経機能障害学の内容を再確認しておきましょう (30分)	連携に必要なとなる知識、評価について整理しておきましょう (30分)
3	脳出血：急性期、回復期、維持期の病態と理学療法の考え方	①	堀	講義	脳出血の病態について、2年次の脳・神経機能障害学の内容を再確認しておきましょう (30分)	発症後、患部(脳)がどのような変化をするのか整理しましょう (30分)
4	脳梗塞：急性期、回復期、維持期の病態と理学療法の考え方	②	堀	講義	脳梗塞の病態について、2年次の脳・神経機能障害学の内容を再確認しておきましょう (30分)	発症後、患部(脳)がどのような変化をするのか整理しましょう (30分)
5	急性期から維持期にかけてのリスク管理	②	堀	講義	リスク基準、アンダーソンなどのリスク管理法を再確認しておいてください (30分)	特に急性期は細かいリスク管理が求められるため整理をしましょう (30分)
6	評価：NIHSS, Fugl-Meyer, JSS, SIASなど	②	堀	講義	2年次の脳・神経機能障害学テキストの内容を再確認しておきましょう (30分)	各評価の特徴を整理しましょう (30分)
7	関節可動域、痛み：肩、股関節	②	堀	講義	肩関節と股関節の解剖学を復習しておきましょう (30分)	最も2次障害を生じ易い子の関節をどのように管理すれば良いか整理しましょう (30分)
8	脳血管障害の理学療法：CI療法、懸架トレッドミル、ミラー、BFなど	②	堀	講義	2年次の脳・神経機能障害学テキストの内容を再確認しておきましょう (30分)	様々な治療法の特徴について整理しましょう (30分)
9	痙縮治療：ボツリヌス療法	②	堀	実技	ボツリヌス療法とはどのような治療法なのか様々なデバイスで調べてみましょう (30分)	ボツリヌス療法の超短所を整理しましょう (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	症例検討：急性期	②	堀	講義	2年次の脳・神経機能障害学テキスト（症例）の内容を再確認しておきましょう（30分）	理学療法の介入に夜症例の変化を捉えましょう（30分）
11	症例検討：回復期	②	堀	講義	2年次の脳・神経機能障害学テキスト（症例）の内容を再確認しておきましょう（30分）	理学療法の介入に夜症例の変化を捉えましょう（30分）
12	脳血管障害者の住環境整備	②	藤橋	講義	住環境整備に必要な家屋構造（生活環境論）や介護保険利用について調べておきましょう（30分）	住宅改修に必要な家屋構造について確認し、臨床実習に備えましょう（30分）。
13	脳血管障害者の装具療法	②	藤橋	講義	2年次に行った装具学（下肢装具）について、目的や特徴を再確認しましょう（30分）。	麻痺の程度に応じた装具の特徴・選定について再確認しましょう（30分）。
14	脊髄損傷の理学療法	②	藤橋	講義 演習	脊髄損傷の病態や障害の特徴、理学療法に必要な評価について調べましょう（30分）。	脊髄損傷者に対する理学療法を行う上での評価・訓練について検討しましょう（30分）。
15	脊髄損傷の理学療法（頸髄損傷当事者参加）	① ②	藤橋	講義 演習	脊髄損傷の病態や障害の特徴、理学療法に必要な評価について調べましょう（30分）。	頸髄損傷当事者より聞いた内容を踏まえ、理学療法の内容について検討しましょう（30分）
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
筆記試験（100%）						
使用教科書						
病気がみえる 7 脳・神経 / 医療情報科学研究所.--第2版--メディックメディア, 2017年, ISBN978-4-89632-686-4 資料を配布する						
参考図書						
脳卒中理学療法の理論と技術 第3版（メディカルビュー），理学療法テキスト神経障害理学療法学Ⅰ/Ⅱ（中山書店），実践編 理学療法臨床思考（文光堂）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	授業内で随時実施する					
備考	資料を基に、実際に身体を動かして実践も行います。また、ディスカッションも交えながら進めますので、積極的な参加を期待します。					

授業科目名		担当教員				
骨・関節系理学療法治療技術		曾田 直樹・田島 嘉人 (代表教員 曾田 直樹)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位 (30時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹(理学療法士)、田島嘉人(理学療法士)				
授 業 概 要						
骨・関節系理学療法治療技術では、臨床運動学で学んだ四肢・脊椎の基礎知識を基に臨床上遭遇しやすい骨・関節障害、スポーツ障害に対する病態、理学療法の考え方および治療手技を体系的に学ぶ。具体的には解剖学、生理学の観点からの”痛み”に関する講義、臨床的体表解剖、ストレッチなどの基本的テクニックについてはデモンストレーションと実技体験を実施する。また講義では、グループワークを活用し学びを深めていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 変形性股関節症についてその病態、理学療法の考え方を説明することができる。 ② 脊椎疾患についてその病態、理学療法の考え方を説明することができる。 ③ 関節リウマチについてその病態、理学療法の考え方を説明することができる。 ④ 臨床での評価、治療における体表解剖、ストレッチ、徒手療法の活用方法を説明することができる ⑤ ④における基本的な技術を対象者に実施することができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	変形性股関節症の病態について	①	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと	授業内容の復習をすること (30分)
2	変形性股関節症の運動療法について	①	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと	授業内容の復習をすること (30分)
3	脊椎疾患の病態について	②	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと	授業内容の復習をすること (30分)
4	脊椎疾患の運動療法について	②	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと	授業内容の復習をすること (30分)
5	関節リウマチの病態について	③	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと	授業内容の復習をすること (30分)
6	関節リウマチの運動療法について	③	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと	授業内容の復習をすること (30分)
7	変形性疾患の運動療法	① ②	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと	授業内容の復習をすること (30分)
8	整形外科領域の理学療法	④	田島	講義	配布資料の事前学習	授業内容の復習をすること (30分)
9	臨床的体表解剖Ⅰ	④	田島	演習	解剖学演習にて学習した筋の起始、停止、支配神経の復習 (30分)	触診技術の復習 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	臨床的体表解剖Ⅱ	④ ⑤	田島	演習	解剖学演習にて学習した筋の起始、停止、支配神経の復習 (30分)	触診技術の復習 (30分)
11	徒手療法の基礎Ⅰ	④	田島	講義	配布資料の熟読 (30分)	配布資料の復習 (30分)
12	徒手療法の基礎Ⅱ	④ ⑤	田島	演習	配布資料の熟読 (30分)	配布資料の復習 (30分)
13	ストレッチⅠ	④	田島	演習	解剖学演習にて学習した筋の起始、停止、支配神経の復習 (30分)	ストレッチ技術の復習 (30分)
14	ストレッチⅡ	④ ⑤	田島	演習	解剖学演習にて学習した筋の起始、停止、支配神経の復習 (30分)	ストレッチ技術の復習 (30分)
15	Fasciaを含む軟部組織に対する治療技術の基礎	④ ⑤	田島	講義	前腕における解剖学の復習 (30分)	配布資料の復習 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視 評価方法：定期試験（90％）、態度・意欲（10％ 小テスト、授業参加度など）にて総合的に判断する。						
使用教科書						
運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） / 林則雄. 一改訂第2版—メジカルビュー社, 2011年, ISBN978-4-7583-1136-6 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹） / 林則雄. 一改訂第2版—メジカルビュー社, 2012年, ISBN978-4-7583-1137-3 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 / 坂井建雄ほか監訳. 一第3版—医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-02534-8						
参考図書						
・整形外科運動療法ナビゲーション 下肢・体幹(メジカルビュー) ・標準理学療法学 骨関節理学療法学(医学書院)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義内で解説					
備考	オフィスアワーを活用してください。					

授業科目名		担当教員				
内部系理学療法治療技術		河合 克尚				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚（理学療法士）				
授 業 概 要						
呼吸器疾患に対する理学療法、心疾患や末梢循環障害に対する運動療法、糖尿病に対する予防・改善プログラムなど、内部障害に対する理学療法を学ぶ。また、近年では慢性腎臓病やがんに対するリハビリテーションも行われるようになり、その概要についても説明する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①呼吸器疾患の運動療法やコンディショニングについて理解する。 ②循環器疾患の運動療法について理解する。 ③糖尿病、慢性腎臓病に対する運動療法を理解する。 ④がんのリハビリテーションについて理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	呼吸理学療法のための評価	①		講義	教科書（p.179-188、p.195-203）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
2	呼吸理学療法のための評価	①		講義	教科書（p.209-214、p.217-219）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
3	呼吸器疾患の理学療法	①		講義	教科書（p.220-238）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
4	呼吸器疾患の理学療法	①		講義	教科書（p.239-249）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
5	呼吸器疾患の理学療法（呼吸介助法）	①		演習	教科書（p.285-295）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
6	運動耐容能とその評価	②		講義	教科書（p.39-46）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
7	運動耐容能とその評価	②		演習	教科書（p.39-46）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
8	循環器疾患の理学療法	②		講義	教科書（p.71-80）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
9	末梢循環障害の理学療法	②		講義	教科書（p.115-130）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	糖尿病の理学療法	③		講義	教科書 (p.345-374) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
11	糖尿病の理学療法	③		講義	教科書 (p.345-374) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
12	慢性腎臓病に対するリハビリテーション	③		講義	教科書 (p.141-153) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
13	がんのリハビリテーション	④		講義	教科書 (p.375-398) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
14	気道内分泌物吸引法	①		演習	教科書 (p.298-305) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
15	救命処置の流れ (心肺蘇生法とAED)	②		講義	教科書 (p.30) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
評価方法は、小テスト (30%)、定期試験 (70%) とする。						
使用教科書						
内部障害理学療法学テキスト / 細田多穂.--改訂第3版--南江堂, 2017年12月, ISBN978-4-524-25479-8						
参考図書						
適宜紹介する						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	小テストを実施し理解度を確認します。小テストの問題に対する解説 (フィードバック) は授業内に行います。					
備考	質問等がある場合は、授業終了後やオフィスアワーを積極的に活用して下さい。					

授業科目名		担当教員				
地域理学療法学		堀 信宏				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）				
授 業 概 要						
地域で生活を行う障害者は身体機能だけでなく、生活環境やキーパーソンの有無、医療・福祉サービスの可否などの要因により、生活の質（QOL）が異なってくる。地域理学療法学では障害を持つ方の在宅生活を様々な視点から検討する。授業後半は「在宅生活」をKeywordとした症例検討を実施する。						
学 修 の 到 達 目 標						
各種施設や、サービスの内容について学ぶ。将来就職先として「どのような施設サービスがあり、実際にどのような業務内容を行うのか」を理解する手がかりとする。また疾患の特性を考慮し、在宅生活が送れるようにディスカッションを通じて検討する。思考過程の修得を目指す。 ①各種施設や、サービスの内容について理解する。 ②在宅生活に関わる法律・制度を理解する。 ③疾患の特性を考慮し、様々な疾患の在宅生活についてディスカッションを行う。思考過程の修得を目指す。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	地域リハビリテーションの概念・定義	① ②	堀	講義	教科書の初版と第4版の「序」を読みましょう(120分)	地域理学療法のエリアがどの範囲なのか整理しておきましょう(120分)
2	病期と回復期リハビリテーション病棟、療養病床	①	堀	講義	教科書p7～11までを読んで、近年の地域リハの推移を確認しましょう(120分)	理学療法士が関わる病院機能について整理しておきましょう(120分)
3	地域包括ケアシステムと地域連携	②	堀	講義	教科書p. 18～23までを読んでおきましょう(120分)	地域包括ケアシステムに関わる会議、マネジメントを整理しておきましょう(120分)
4	介護保険制度	②	堀	講義	教科書p. 36～44までを読んでおきましょう(120分)	要介護認定までの流れを整理しておきましょう(120分)
5	介護保険下の入所サービスの展開	①	堀	講義	教科書p. 68～73までを読んでおきましょう(120分)	介護保険3施設の違いを整理しておきましょう(120分)
6	施設のリスクマネジメント	①	堀	講義	教科書p. 118～125までを読んでおきましょう(120分)	介護保険3施設のリスクをまとめましょう(120分)
7	介護保険下の通所サービス・訪問理学療法の展開	①	堀	講義	教科書p. 74～90までを読んでおきましょう(120分)	通所サービス・訪問理学療法の機能の違いを整理しておきましょう(120分)
8	訪問のリスクマネジメント	①	堀	講義	教科書p. 126～131までを読んでおきましょう(120分)	通所サービス・訪問理学療法のリスクを整理しておきましょう(120分)
9	維持期リハと短期入所サービスの展開	①	堀	講義	教科書p. 24～32までを読んでおきましょう(120分)	短期入所サービスの機能を整理しておきましょう(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	症例検討1：パーキンソン病の在宅生活	③	堀	講義	教科書p.165を読んでおきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
11	症例検討2：脊髄小脳変性症の在宅生活	③	堀	講義	教科書p.166を読んでおきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
12	症例検討2：脊髄小脳変性症の在宅生活②	③	堀	講義	教科書p.166を読んでおきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
13	症例検討3：リウマチ疾患の在宅生活	③	堀	講義	整形外科の教科書でRA疾患について確認しておきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
14	症例検討4：筋ジストロフィー症の在宅生活	③	堀	講義	病気がみえる脳を読んで筋ジス疾患について確認しておきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
15	地域における健康増進	②	堀	講義	教科書p.219～224までを読んでおきましょう(120分)	健康増進に関わる制度や用語の整理をしましょう(120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
期末試験100%						
使用教科書						
標準理学療法学 地域理学療法学 / 牧田光代編集。--第4版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-02851-6 資料を配布する。小テストを適宜実施する。						
参考図書						
理学療法テキスト高齢者理学療法学 (Medicalview) シンプル理学療法シリーズ高齢者理学療法学テキスト (南江堂)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストは添削後、返却する					
備考	症例検討では障害者が在宅生活を送るために何が必要なのか考えてもらいます。「自分が担当者だったら・・・」という思いで臨んで下さい。臨床の理学療法士から各サービスの仕事内容を聞きます。将来の就職先としてイメージして欲しい。積極的な参加を期待する。					

授業科目名		担当教員				
生活環境論		植木 努				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 理学ディプロマポリシー(2) (3) (4)の達成に寄与している。		植木努 (理学療法士)				
授 業 概 要						
理学療法士の役割は障害を治療するだけではありません。障害者の自立・社会参加を促す為には、そうした人々を取り巻く生活環境を整える必要があります。そのため障害や疾病を有する人の健やかな生活を支援するために生活と環境要因の関連性を理解し、理学療法士として必要な知識・技術を身につける事を目指す。実際の住宅環境における問題と改善案についてグループワークを実施し、検討内容をプレゼンテーションすることにより実態調査から派生する諸課題について多面的に思考する能力を身につける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①生活環境と日常生活動作（ADL）、生活の質（QOL）との関係性を理解する。 ②生活環境評価の手順や評価のポイントを理解する。 ③住宅改修における理学療法士の関わり方や考え方を理解し、臨床において適切な改善計画を立案できるようになる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	生活環境学の概念（p. 222～225）	①	植木努	講義	教科書：生活環境学の概念（p.222～225）を読んでおくこと。	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと。（90分）
2	生活環境と障害（p. 225～230）	①	植木努	講義	教科書：生活環境と障害（p. 225～230）を読んでおくこと（90分）	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと（90分）
3	生活環境の評価と改善計画（p. 231～239）	②	植木努	講義	教科書生活環境の評価と改善計画（p. 231～239）を読んでおくこと（90分）	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと（90分）
4	生活環境改善計画の実際〔手すり・廊下〕（p. 239～241）	②	植木努	講義	教科書：生活環境改善計画の実際〔手すり・廊下〕（p. 239～241）を読んでおくこと	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと（90分）
5	生活環境改善計画の実際〔玄関・段差〕（p. 239～241）	②	植木努	講義	教科書：生活環境改善計画の実際〔玄関・段差〕（p. 239～241）を読んでおくこと	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと（90分）
6	生活環境改善計画の実際〔階段・浴室とトイレに共通すること〕（p. 241～234）	②	植木努	講義	教科書：生活環境改善計画の実際〔階段・浴室とトイレに共通すること〕（p. 241～234）を読んでおくこと（90分）	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと（90分）
7	生活環境改善計画の実際〔トイレ・浴室〕（p. 241～234）	②	植木努	講義	教科書：生活環境改善計画の実際〔トイレ・浴室〕（p. 241～234）を読んでおくこと	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと（90分）
8	生活環境と法的諸制度〔住宅改修に関連する介護保険制度〕（p. 258～261）	②	植木努	講義	教科書：生活環境と法的諸制度〔住宅改修に関連する介護保険制度〕（p. 258～261）を読んでおくこと（90分）	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと（90分）
9	生活環境における実際（1）住宅環境調査	③	植木努	演習	調査場所及び調査方法を検討すること（90分）	調査結果をまとめておくこと（90分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	生活環境における実際（2）住宅環境調査	③	植木努	演習	調査場所及び調査方法を検討すること（90分）	調査結果をまとめておくこと（90分）
11	生活環境における実際（3）改善計画（グループワーク）	③	植木努	演習	調査結果を踏まえて改善計画を検討しておくこと（90分）	発表内容について各自復習しておくこと（90分）
12	生活環境における実際（4）改善計画（グループワーク）	③	植木努	演習	調査結果を踏まえて改善計画を検討しておくこと（90分）	発表内容について各自復習しておくこと（90分）
13	住宅環境調査結果および改善計画プレゼンテーション	③	植木努	演習	プレゼンテーションの練習をしておくこと（90分）	他のグループの発表を聞いて学んだことをまとめておくこと（90分）
14	住宅環境調査結果および改善計画プレゼンテーション	③	植木努	演習	プレゼンテーションの練習をしておくこと（90分）	他のグループの発表を聞いて学んだことをまとめておくこと（90分）
15	生活環境を支える福祉・リハビリテーション関連用具（p. 283～292）	②	植木努	講義	教科書：生活環境を支える福祉・リハビリテーション関連用具（p. 283～292）を読む（90分）	配布資料を用いて講義内容の復習をしておくこと（90分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
グループワーク参加度（5％）、プレゼンテーション内容（5％）、筆記試験（90％）						
使用教科書						
標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学第5版 / 鶴見隆正、隆島研吾ほか。--医学書院，2017年，ISBN978-4-260-03256-8						
参考図書						
授業中にプリントを配布します。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	改善計画プレゼンテーションにおいては発表後にフィードバックを行う。					
備考	その他質問があるときはいつでも受け付ける。					

授業科目名		担当教員				
臨床実習Ⅰ（基礎）		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(45時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子（全て理学療法士）				
授 業 概 要						
臨床の理学療法に触れる初めての学外臨床実習で、1年次科目の補完授業として2回実施する。前学期では理学療法士の役割、責任、医療人としてのマナーを経験する。後学期では理学療法士の職能について障害者との関わりを中心に考えるほか、患者に対する検査の一部を体験をするなど、これから学ぶ専門的学習に向けての準備とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
実習を通じて自らの適性について考える機会とするほか、自らの経験を整理し理学療法士に対する興味や職業意識を培う。詳細は「臨床実習要項」を参照。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、個人情報などの指導を行う。					
	前学期：学外施設にて1日行う。学外施設で理学療法業務を見学し自らの適性や施設における理学療法の位置づけについて考える。					
	後学期：学外施設にて5日間行う。医療従事者として望ましいコミュニケーション、立ち居振る舞いについて考え実践する。担当症例への問診や視診を通じて障害を持つことについての考えを深める。					
	実習報告会：見学症例の歩行の模倣と文章化し、プレゼンテーションを行う。そして学生間で意見交換を実施する。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
評価基準・評価方法						
担当実習指導者の評定（臨床実習評価表を用いる）の結果，学内での実習後症例検討会の内容を基に学内で認定する。						
使用教科書						
参考図書						
臨床実習要項（配布） 1年次に使用した教科書全般						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法		課題については、コメントを入れて返却する。				
備考		学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。				

授業科目名		担当教員				
通所／訪問リハ実習		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 前学期	1単位 (45時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子（全て理学療法士）				
授 業 概 要						
地域包括ケアシステムの導入に伴い、各市町村を中心に様々な準備、システムの構築が行われている。理学療法士として、療養者の在宅支援・地域で生活する方々を支援するための知識・技能について考える。また、地域の中で生活する方々の多様な価値観および健康の課題を認め、理学療法士としての各施設での役割を理解することを目的とする。地域で働く理学療法士に求められる基本的な知識・技能・態度を身につける。特に、多職種との連携を行う上で必要なコミュニケーション術の基本を身につける。						
学 修 の 到 達 目 標						
・適切な接遇やコミュニケーション技法を理解する。 ・療養者の障害像を理解する。 ・在宅支援・地域での理学療法士の役割を理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	実習前オリエンテーション（学内）					
	実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防，個人情報保護についての指導を行う。					
	臨床実習（学外）					
	45時間（1週間）の学外実習（通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション）を実施する。指導は教員と連携を取りながら、実習施設の実習指導者が行う。見学を通じて、在宅で生活する療養者およびその家族の生活を理解する。スケジュール等は、施設のルールに従うこと。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
評価基準・評価方法						
実習指導者の評定（臨床実習評価表を使用），課題や報告会の内容をもとに学内にて判定する。						
使用教科書						
参考図書						
臨床実習要項（配布）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	実習指導者にデイリーノートを毎日提出する。速やかに添削して返却する。					
備考	学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。					

授業科目名		担当教員				
評価実習前セミナー		曾田 直樹・河合 克尚・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保・辻圭一・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子 (代表教員 曾田 直樹)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	1単位 (30時間)		演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹(理学療法士)、河合克尚(理学療法士)、大場かおり(理学療法士)、田島嘉人(理学療法士)、石田裕保(理学療法士)、辻圭一(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)、植木努(理学療法士)、亀山咲子(理学療法士)				
授 業 概 要						
評価実習前セミナーでは小グループに分かれ、教員がファシリテーターとして、学生の主体性を持った学習を奨励していく。その中で理学療法評価の意義を理解し、特定の疾患に限らず広範囲に用いられる理学療法評価の基本的な検査・測定手技・移乗介助および評価の記載方法を習得する。また講義では、グループワークやディスカッション、ディベートを活用し学びを深めていく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①患者像から歩行分析、文章化、評価項目の抽出、統合と解釈の一連の流れの学習 ②基本的な検査・測定手技および評価の記載方法を習得する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	バイタルサイン・問診・コミュニケーション	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)
2	四肢長・周径測定	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)
3	関節可動域測定	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)
4	徒手筋力検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)
5	深部反射・病的反射検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)
6	表在・深部覚検査・痛みの評価	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)
7	整形疾患の検査	① ②	全員		配布資料による予習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)
8	筋緊張検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)
9	平衡機能検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術の復習 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	失調症検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
11	運動麻痺検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
12	高次脳機能検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
13	移乗介助 人工股関節患者	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
14	移乗介助 対麻痺・四肢麻痺患者	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
15	動作介助 片麻痺患者	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
評価基準・評価方法						
評価基準および評価方法：症例レポート (80%)、知識（口頭試問）及び実技試験 (10%)、実習評価表での評価 (5%)、グループ学習の参加度 (5%)						
使用教科書						
理学療法評価学 / 松澤 正／江口 勝彦. --第6版--金原出版, 2018年, ISBN978-4-307-75054-7 理学療法評価学 / 市橋則明. --文光堂, 2016年, ISBN978-4-8306-4537-2						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	演習時に随時フィードバック					
備考						

授業科目名		担当教員				
臨床実習Ⅱ（評価）		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	4単位 (180時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子（全て理学療法士）				
授 業 概 要						
臨床実習指導者の指導・監督の下，対象者に対して理学療法評価を実施する。各検査の実施，検査結果の解釈，問題点抽出とゴールの立案までの過程を体験する。適切な記録，指導者への報告・連絡・相談といった社会人として身につけるべき資質（態度）を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
・ 臨床実習指導者の監督の下，情報収集（面接・観察・他部門からの情報・社会的背景），検査・測定が実施できる。 ・ 臨床実習指導者の指導の下，臨床推論により問題点の抽出ができる。 ・ 記録・報告ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・ 実習前オリエンテーション（学内）					
	実習の目的，手順，心得，マナー，感染症予防，個人情報保護についての指導を行う。					
	・ 臨床実習（学外）					
	180時間（4週間）の学外実習を実施する。指導は教員と連携を取りながら，実習施設の実習指導者が行う。担当症例に関する情報収集，実習指導者の指導・監督下での検査・測定の実施，基本動作の介助を行う。					
	スケジュール等は，施設のルールに従うこと。					
評価基準・評価方法						
実習指導者の評定（臨床実習評価表を使用），課題の内容をもとに学内にて判定する。						
使用教科書						

参考図書	
臨床実習要項（配布） 1・2年次に使用した教科書全般	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	実習指導者にデイリーノートを毎日提出する。速やかに添削して返却する。
備考	学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。

授業科目名		担当教員				
評価実習後セミナー		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子 (代表教員 長谷部 武久)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子 (全て理学療法士)				
授 業 概 要						
臨床実習Ⅱ（評価）終了後、実習報告と臨床能力評価（Post Clinical Clerkship OSCE）を実施し、その結果を臨床実習Ⅲ（総合前期）に繋げる						
学 修 の 到 達 目 標						
・実習を踏まえ、検査測定・評価の目的を理解する ・正確かつ安全に検査・測定ができる ・学習内容をプレゼンテーションするための情報収集ができる ・臨床実習Ⅲ（総合前期）に向けて、不足している知識や技術を把握する						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習報告の実施					
	実習期間中に記載したデイリーノートの内容をもとに、知識・技術・評価・治療など臨床実習で学んだことや体験したことについてレジュメを作成、発表する（内容や発表形式は自由）。					
	・臨床能力評価（Post Clinical Clerkship OSCE）の実施					
	実習での基本的理学療法技術の習得状況とともに、学生の成長を確認するために実技試験（Post Clinical Clerkship OSCE）を実施する。					
	コミュニケーション能力，リスク管理能力，検査・測定の正確性，移乗動作介助の安全性などについて確認する。					

回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
評価基準・評価方法						
実習報告会（50％） OSCE（50％）						
使用教科書						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	OSCEの結果は速やかに開示する					
備考						

授業科目名		担当教員				
臨床実習Ⅲ（総合前期）		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 前学期	7単位(315時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子（全て理学療法士）				
授 業 概 要						
これまでに学んだ基本的な評価方法を用い、理学療法計画立案、様々な医療現場での活動参加を実践する。 また、必要に応じた理学療法計画の変更、他部門からの情報収集、記録・報告、医療従事者としての適切な人間関係の構築等、より臨床的な思考過程や実践的な内容を臨床実習指導者の下で学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
・対象者や施設、病院スタッフとの良好な人間関係を構築することができる ・理学療法評価、治療の流れを実践することができる ・施設の管理や運営について考えることができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習前オリエンテーション（学内）					
	実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、個人情報保護についての指導を行う。					
	・臨床実習（学外）					
	315時間（7週間）の学外実習を実施する。指導は教員と連携を取りながら、実習施設の実習指導者が行う。担当症例に関する情報収集、実習指導者の指導・監督下での検査・測定・治療の実施、基本動作の介助を行う。					
	スケジュール等は、施設のルールに従うこと。					
評価基準・評価方法						
実習指導者の評定（臨床実習評価表を使用），課題の内容をもとに学内にて判定する。						
使用教科書						

参考図書	
臨床実習要項（配布） 1・2年次に使用した教科書全般	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	実習指導者にデイリーノートを毎日提出する。速やかに添削して返却する。
備考	学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。

授業科目名		担当教員				
総合前期実習後セミナー		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子（全て理学療法士）				
授 業 概 要						
臨床実習Ⅲ（総合前期）終了後、実習報告と臨床能力評価（Post Clinical Clerkship OSCE）を実施し、その結果を臨床実習Ⅳ（総合後期）に繋げる						
学 修 の 到 達 目 標						
・実習を踏まえ、検査測定・評価・治療の目的を理解する ・正確かつ安全に検査・測定ができる ・学習内容をプレゼンテーションするための情報収集ができる ・臨床実習Ⅳ（総合後期）に向けて、不足している知識や技術を把握する						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習報告の実施					
	実習期間中に記載したデイリーノートの内容をもとに、知識・技術・評価・治療など臨床実習で学んだことや体験したことについてレジュメを作成、発表する。内容や発表形式は自由とする。					
	・臨床能力評価（Post Clinical Clerkship OSCE）の実施					
	実習での基本的理学療法技術の習得状況とともに、学生の成長を確認するために実技試験（Post Clinical Clerkship OSCE）を実施する。					
	コミュニケーション能力，リスク管理能力，検査・測定の正確性，移乗動作介助の安全性などについて確認する。					

回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
評価基準・評価方法						
実習報告会（50％） OSCE（50％）						
使用教科書						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	OSCEの結果は速やかに開示する					
備考						

授業科目名		担当教員				
臨床実習Ⅳ（総合後期）		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 後学期	7単位 (315時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子（全て理学療法士）				
授 業 概 要						
施設・病院等で担当症例のゴール設定までの理学療法評価を行い、臨床実習指導者の下、理学療法計画を作成し、実施する。また様々な臨床現場での活動に参加する。これまで学んだ知識、技術、臨床的な思考過程を更に発展させる機会とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
・ 対象者や施設、病院スタッフとの良好な人間関係を構築することができる ・ 理学療法評価、治療の流れを実践することができる ・ 施設の管理や運営について考えることができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・ 実習前オリエンテーション（学内）					
	実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防，個人情報保護についての指導を行う。					
	・ 臨床実習（学外）					
	315時間（7週間）の学外実習を実施する。指導は教員と連携を取りながら実習施設の実習指導者が行う。担当症例に関する情報収集，実習指導者の指導・監督下での検査・測定・治療の実施，基本動作の介助を行う。					
	スケジュール等は，施設のルールに従うこと。					
評価基準・評価方法						
実習指導者の評定（臨床実習評価表を使用），課題の内容をもとに学内にて判定する。						
使用教科書						

参考図書	
臨床実習要項（配布） 1・2年次に使用した教科書全般	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	実習指導者にデイリーノートを毎日提出する。速やかに添削して返却する。
備考	学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。

授業科目名		担当教員				
総合後期実習後セミナー		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子（全て理学療法士）				
授 業 概 要						
臨床実習Ⅳ（総合後期）終了後、実習報告と臨床能力評価（Post Clinical Clerkship OSCE）を実施し、その結果を理学療法士としての臨床業務、そして生涯学習に繋げる。						
学 修 の 到 達 目 標						
・実習を踏まえ、検査測定・評価の目的を理解する ・正確かつ安全に検査・測定ができる ・学習内容をプレゼンテーションするための情報収集ができる ・理学療法士として、不足している知識や技術を把握する						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習報告の実施					
	実習期間中に記載したデイリーノートの内容をもとに、知識・技術・評価治療など臨床実習で学んだことや体験したことについてレジュメを作成、発表する（内容や発表形式は自由）。					
	・臨床能力評価（Post Clinical Clerkship OSCE）の実施					
	実習での基本的理学療法技術の習得状況とともに、学生の成長を確認するために実技試験（Post Clinical Clerkship OSCE）を実施する。					
	コミュニケーション能力、リスク管理能力、検査・測定の正確性、移乗動作介助の安全性などについて確認する。					

回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
評価基準・評価方法						
実習報告会（50％） OSCE（50％）						
使用教科書						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	OSCEの結果は速やかに開示する					
備考						

リハビリテーション学科 授業担当者索引

…あ 行…

相羽 秀子	非常勤講師
浅野 莉沙	作業療法専攻助教
安藤 彰浩	非常勤講師
池谷 尚剛	非常勤講師
石田 裕保	理学療法専攻准教授
磯谷 尚輝	非常勤講師
井上 忠俊	作業療法専攻助教
伊原 亮司	非常勤講師
今村 光章	非常勤講師
岩瀬 桃子	看護学科教授講師
植木 努	理学療法専攻准教授
臼田 成之	看護学科助教
内田 英哉	非常勤講師
枝川 宏	非常勤講師
江村 正一	理学療法専攻特任教授
大井 修三	非常勤講師
大下 伸子	非常勤講師
大津 航	非常勤講師
大野 司能女	視機能療法専攻助手
大場 かおり	理学療法専攻准教授
大庭 紀雄	視機能療法専攻特任教授
大森 正英	非常勤講師
大藪 千穂	非常勤講師
小川 武則	非常勤講師

…か 行…

片桐 正博	非常勤講師
加藤 清人	作業療法専攻教授
亀山 咲子	理学療法専攻助教
河合 克尚	理学療法専攻教授
川島 卓	非常勤講師
皮野 さよみ	看護学科教授
川本 徹	非常勤講師
岸本 泰樹	非常勤講師
木村 暁夫	非常勤講師
久保 和弘	非常勤講師
熊田 ますみ	看護学科教授
神戸 博一	非常勤講師
河村 章史	作業療法専攻教授
古松山 建吾	非常勤講師
小森 健司	非常勤講師
近藤 富雄	非常勤講師
近藤 直実	特任教授
近藤 ひろえ	非常勤講師

…さ 行…

坂田 崇好	非常勤講師
佐藤 篤史	非常勤講師
佐藤 奈美	非常勤講師
眞田 正世	非常勤講師
澤村 彰吾	理学療法専攻助教
塩崎 章嘉	非常勤講師
篠田 信之	非常勤講師
柴 貴志	非常勤講師
下畑 享良	非常勤講師
ジャリ・マルジャン	非常勤講師
説田 雅典	非常勤講師
世良 龍哉	作業療法専攻教授
千田 隆夫	非常勤講師
曾田 直樹	理学療法専攻教授

…た 行…

高田 信幸	非常勤講師
高橋 晋也	非常勤講師
竹内 章郎	非常勤講師
竹腰 顕	非常勤講師
竹中 孝博	作業療法専攻准教授
田島 嘉人	理学療法専攻教授
建石 光貴	非常勤講師
田中 健司	視機能療法専攻講師
田中 裕士	非常勤講師
棚橋 公郎	非常勤講師
田辺 久美子	非常勤講師
谷口 泰弘	非常勤講師
丹沢 慶一	視機能療法専攻准教授
塚田 敬義	非常勤講師
辻 圭一	理学療法専攻教授
寺下 美智子	非常勤講師
寺本 佳津明	非常勤講師

…な 行…

永井 貴士	作業療法専攻准教授
長尾 裕子	非常勤講師
仲澤 和馬	非常勤講師
中嶋 淳士	非常勤講師
中村 恵一	非常勤講師
中村 信介	非常勤講師
中村 琢	非常勤講師
西本 裕	非常勤講師
野原 尚美	視機能療法専攻教授

…は 行…

橋本 永貢子	非常勤講師
長谷部 武久	理学療法専攻教授
花井 弘和	非常勤講師
林 宗典	看護学科助教
林 祐一	非常勤講師
坂 義人	非常勤講師
平野 智久	非常勤講師
福岡 大輔	非常勤講師
藤橋 雄一郎	理学療法専攻准教授
武内 康雄	学長
船谷 俊彰	非常勤講師
舟橋 和宏	非常勤講師
古田 弥生	看護学科准教授
堀 信宏	理学療法専攻教授
堀田 亮	非常勤講師

…ま 行…

益川 優子	非常勤講師
松井 永子	非常勤講師
松井 康樹	視機能療法専攻教授
松岡 敏男	非常勤講師
松田 育子	視機能療法専攻特任教授
松田 充弘	非常勤講師
三品 弘司	看護学科教授
宮地 幸雄	非常勤講師
宮本 安住己	非常勤講師
ミハコ・セイト・モハコ	非常勤講師
武藤 吉徳	非常勤講師
望月 清文	非常勤講師
樫山 貴子	作業療法専攻助教
森岡 菜穂子	看護学科助教

…や 行…

山田 宏尚	非常勤講師
山田 雅博	非常勤講師
山田 恵	非常勤講師
山本 眞由美	非常勤講師
山本 容正	非常勤講師
弓削 繁	非常勤講師
横井 達夫	非常勤講師
吉倉 延亮	非常勤講師
吉崎 純夫	看護学科講師

